# 令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

# 介護施設等の職員に必要な<br/> 防災・減災対策の知識に関する調査研究報告書

令和 5 (2023) 年 3 月



#### はじめに

本報告書は、厚生労働省による令和4年度老人保健健康増進等事業を受け当協会が実施した「介護施設等の職員に必要な防災・減災対策の知識に関する調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

近年、大規模災害が多発しています。2011年の東日本大震災では津波および地震により多くの介護施設が被害を受けました。2016年の熊本地震でも多く被害が出ています。さらに、毎年のように大雨による被害が生じています。介護施設等は、自力では避難することができない人々が利用しています。避難の際には、施設職員だけではなく地域住民の力が必要となります。介護施設等は災害に対して脆弱であり十分な備えが必要であると言えます。

災害に対する備えとして重要なのは避難訓練や備蓄の確保です。避難訓練の 重要性については多くの人々が理解することではありますが、十分な訓練が実 施されているとは言い難い部分もあります。介護施設等では日々の暮らしやケ アがあり、避難訓練が後回しにされてしまうこともあります。しかし、それで は職員自身の命や利用者の命を守ることはできません。避難訓練の重要性を理 解すると共に、災害に備える「意識」を醸成していくことが重要です。

そこで、本調査研究事業では、介護施設等で働く人々が手に取り学びやすいガイドブックと動画を作成しています。いずれも施設内にて防災・減災を学ぶ基礎資料として活用していただくことを想定しています。そして、ガイドブックや動画をみた後にはぜひとも自施設における防災・減災対策について話し合ってもらいたいと考えています。

また、ガイドブック等の作成に先立ち近年多発している水害による被害実態調査も取りまとめています。水害発生時の詳しい詳細が記載されています。水害に対する備えとして活用していただきたいと思います。

末筆となりましたが、本調査研究に際してご協力をいただきました各位に厚く御礼もうしあげます。本報告書等が介護施設等の防災・減災の一助になることを願っております。

令和5(2023)年3月31日

一般社団法人 日本医療福祉建築協会 会 長 山 下 哲 郎

調查研究委員会

委員長 山口 健太郎

# 目 次

1-1. 背景・目的 1-2. 事業内容 1-3. 研究体制 1-4. スケジュール  第2章 介護施設等における減災・防災に関するガイドブック等の作成 2-1. 事業の概要 2-2. ホームページ、ガイドブック、動画について  第3章 水害の実態調査 3-1. 調査の概要 3-1-1 調査の目的 3-1-2 調査方法 3-2. 訪問ヒアリング調査の結果 3-2-1 ハザードマップと敷地 3-2-2 浸水の高さと人的被害 3-2-3 避難前の対応 3-2-4 避難の決断 3-2-5 介護施設等の停止期間 3-2-6 停止期間中の職員への対応 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3-2-8 防災への備えの変化 3-3. ヒアリング結果一覧 事例1 クレールエステート悠楽 事例2 川越キングス・ガーデン 事例3 平成の杜 事例4 りんごの郷 事例5 豊野清風園 事例6 千寿園 事例7 ぶどうの家 真備 事例7 ぶどうの家 真備 事例7 ぶどうの家 真備
1 - 3. 研究体制       1 - 4. スケジュール         第 2章 介護施設等における減災・防災に関するガイドブック等の作成       2 - 1. 事業の概要         2 - 1. 事業の概要       1         2 - 2. ホームページ、ガイドブック、動画について       1         第 3章 水害の実態調査       3 - 1. 調査の概要         3 - 1. 調査の間的       2         3 - 2. 調査方法       2         3 - 2. 訪問ヒアリング調査の結果       2         3 - 2. 訪問ヒアリング調査の結果       2         3 - 2. 設雅前の対応       2         3 - 2. 漫雅前の対応       2         3 - 2. 接難の決断       2         3 - 2. が廃・の停止期間       2         3 - 2. 存 停止期間中の入居者の受け入れ先       3         3 - 2. 移 防災への備えの変化       3         3 - 3. ヒアリング結果一覧       事例 1 クレールエステート悠楽         事例 2 川越キングス・ガーデン       4         事例 3 平成の杜       5         事例 4 りんごの郷       6         事例 5 豊野清風園       7         事例 6 千寿園       7         事例 7 ぶどうの家 真備       8
第2章 介護施設等における減災・防災に関するガイドブック等の作成         2-1. 事業の概要       」         2-2. ホームページ、ガイドブック、動画について       」         第3章 水害の実態調査       3-1. 調査の概要         3-1-1 調査の目的       2         3-1-2 調査方法       2         3-2. 訪問ヒアリング調査の結果       2         3-2-1 ハザードマップと敷地       2         3-2-2 浸水の高さと人的被害       2         3-2-3 避難前の対応       2         3-2-4 避難の決断       2         3-2-5 介護施設等の停止期間       2         3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先       3         3-2-7 停止期間中の職員への対応       3         3-2-8 防災への備えの変化       3         3-3. ヒアリング結果一覧       事例1 クレールエステート悠楽         事例2 川越キングス・ガーデン       事例3 平成の柱       5         事例3 平成の柱       5         事例4 りんごの郷       6         事例5 豊野清風園       7         事例6 千寿園       7         事例7 ぶどうの家 真備       8
第2章 介護施設等における減災・防災に関するガイドブック等の作成         2-1. 事業の概要       」         2-2. ホームページ、ガイドブック、動画について       」         第3章 水害の実態調査       3-1. 調査の概要         3-1-1 調査の目的       2         3-1-2 調査方法       2         3-2. 訪問ヒアリング調査の結果       2         3-2-1 ハザードマップと敷地       2         3-2-2 浸水の高さと人的被害       2         3-2-3 避難前の対応       2         3-2-4 避難の決断       2         3-2-5 介護施設等の停止期間       2         3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先       3         3-2-7 停止期間中の職員への対応       3         3-2-8 防災への備えの変化       3         3-3、ヒアリング結果一覧       事例1 クレールエステート悠楽         事例2 川越キングス・ガーデン       事例3 平成の杜       5         事例3 平成の杜       5         事例5 豊野清風園       7         事例6 千寿園       7         事例7 ぶどうの家真備       8
2-1. 事業の概要 2-2. ホームページ、ガイドブック、動画について  第3章 水害の実態調査 3-1. 調査の概要 3-1-1 調査の目的 3-1-2 調査方法 3-2. 訪問ヒアリング調査の結果 3-2-1 ハザードマップと敷地 3-2-2 浸水の高さと人的被害 3-2-3 避難前の対応 3-2-4 避難の決断 3-2-5 介護施設等の停止期間 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3-2-8 防災への備えの変化 3-3. ヒアリング結果一覧 事例1 クレールエステート悠楽 事例2 川越キングス・ガーデン 事例3 平成の杜 事例4 りんごの郷 事例5 豊野清風園 事例6 干寿園 事例6 干寿園 事例6 干寿園 事例6 干寿園 事例7 ぶどうの家 真備
第3章 水害の実態調査 3-1. 調査の概要 3-1-1 調査の目的
第3章 水害の実態調査         3-1. 調査の概要         3-1-1 調査の目的       2         3-1-2 調査方法       2         3-2. 訪問ヒアリング調査の結果         3-2-1 ハザードマップと敷地       2         3-2-2 浸水の高さと人的被害       2         3-2-3 避難前の対応       2         3-2-4 避難の決断       2         3-2-5 介護施設等の停止期間       2         3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先       3         3-2-7 停止期間中の職員への対応       3         3-2-8 防災への備えの変化       3         3-3、ヒアリング結果一覧       事例1 クレールエステート悠楽         事例2 川越キングス・ガーデン       2         事例3 平成の杜       5         事例4 りんごの郷       6         事例5 豊野清風園       7         事例6 千寿園       7         事例7 ぶどうの家 真備       8
3-1. 調査の概要 3-1-1 調査の目的
3-1-1 調査の目的 2 3-1-2 調査方法 2 3-1-2 調査方法 2 3-2. 訪問ヒアリング調査の結果 3-2-1 ハザードマップと敷地 2 3-2-2 浸水の高さと人的被害 2 3-2-3 避難前の対応 2 3-2-4 避難の決断 2 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 事例 2 川越キングス・ガーデン 4 事例 3 平成の杜 5 事例 3 平成の杜 5 事例 4 りんごの郷 6 事例 5 豊野清風園 7 事例 6 千寿園 7 ぶどうの家 真備 8
3-1-2 調査方法 2 3-2. 訪問ヒアリング調査の結果 3-2-1 ハザードマップと敷地 2 3-2-2 浸水の高さと人的被害 2 3-2-3 避難前の対応 2 3-2-4 避難の決断 2 3-2-5 介護施設等の停止期間 2 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 事例 2 川越キングス・ガーデン 4 事例 3 平成の杜 5 事例 3 平成の杜 5 事例 4 りんごの郷 6 事例 5 豊野清風園 7 事例 5 豊野清風園 7
3-2. 訪問ヒアリング調査の結果 3-2-1 ハザードマップと敷地 2 3-2-2 浸水の高さと人的被害 2 3-2-3 避難前の対応 2 3-2-4 避難の決断 2 3-2-5 介護施設等の停止期間 2 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 第例 2 川越キングス・ガーデン 4 事例 3 平成の杜 5 事例 4 りんごの郷 6 事例 5 豊野清風園 7 事例 7 ぶどうの家 真備 7
3-2-1 ハザードマップと敷地 2 3-2-2 浸水の高さと人的被害 2 3-2-3 避難前の対応 2 3-2-4 避難の決断 2 3-2-5 介護施設等の停止期間 2 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 3 事例 2 川越キングス・ガーデン 4 事例 3 平成の杜 5 事例 4 りんごの郷 6 事例 5 豊野清風園 7 事例 6 千寿園 7 ぶどうの家 真備 8
3-2-2 浸水の高さと人的被害 2 3-2-3 避難前の対応 2 3-2-4 避難の決断 2 3-2-5 介護施設等の停止期間 2 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-3 とアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 事例 2 川越キングス・ガーデン 4 事例 3 平成の杜 5 豊野清風園 7 事例 5 豊野清風園 7 ぶどうの家 真備 7 ぶどうの家 真備 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 9 7 ぶどうの家 真備 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
3-2-3 避難前の対応 2 3-2-4 避難の決断 2 3-2-5 介護施設等の停止期間 2 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 事例 2 川越キングス・ガーデン 4 事例 3 平成の杜 5 事例 4 りんごの郷 6 事例 5 豊野清風園 7 事例 6 千寿園 7 ぶどうの家 真備 8
3-2-4 避難の決断 2 3-2-5 介護施設等の停止期間 2 3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3 3-2-8 防災への備えの変化 3 3-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 3 事例 2 川越キングス・ガーデン 4 事例 3 平成の杜 5 事例 4 りんごの郷 6 事例 5 豊野清風園 7 事例 6 千寿園 7 事例 7 ぶどうの家 真備 8
3-2-5 介護施設等の停止期間 23-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 33-2-7 停止期間中の職員への対応 33-2-8 防災への備えの変化 33-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 5事例 2 川越キングス・ガーデン 4事例 3 平成の杜 5 事例 4 りんごの郷 5 豊野清風園 7 事例 6 千寿園 7 ぶどうの家 真備 8
3-2-6 停止期間中の入居者の受け入れ先 3-2-7 停止期間中の職員への対応 3-2-8 防災への備えの変化 3-3. ヒアリング結果一覧 事例 1 クレールエステート悠楽 事例 2 川越キングス・ガーデン 事例 3 平成の杜 事例 4 りんごの郷 事例 5 豊野清風園 事例 6 千寿園 事例 7 ぶどうの家 真備
3-2-7 停止期間中の職員への対応33-2-8 防災への備えの変化33-3. ヒアリング結果一覧事例 1 クレールエステート悠楽3事例 2 川越キングス・ガーデン事例 3 平成の杜5事例 4 りんごの郷6事例 5 豊野清風園7事例 6 千寿園7事例 7 ぶどうの家 真備8
3-2-8 防災への備えの変化       3         3-3. ヒアリング結果一覧       事例 1 クレールエステート悠楽         事例 2 川越キングス・ガーデン       4         事例 3 平成の杜       5         事例 4 りんごの郷       6         事例 5 豊野清風園       7         事例 6 千寿園       7         事例 7 ぶどうの家 真備       8
3-3. ヒアリング結果一覧         事例 1 クレールエステート悠楽       3         事例 2 川越キングス・ガーデン       4         事例 3 平成の杜       5         事例 4 りんごの郷       6         事例 5 豊野清風園       7         事例 6 千寿園       7         事例 7 ぶどうの家 真備       8
事例 1       クレールエステート悠楽       3         事例 2       川越キングス・ガーデン       4         事例 3       平成の杜       5         事例 4       りんごの郷       6         事例 5       豊野清風園       7         事例 6       千寿園       7         事例 7       ぶどうの家 真備       8
事例 2       川越キングス・ガーデン       4         事例 3       平成の杜       5         事例 4       りんごの郷       6         事例 5       豊野清風園       7         事例 6       千寿園       7         事例 7       ぶどうの家 真備       8
事例3       平成の杜       5         事例4       りんごの郷       6         事例5       豊野清風園       7         事例6       千寿園       7         事例7       ぶどうの家 真備       8
事例 4       りんごの郷       6         事例 5       豊野清風園       7         事例 6       千寿園       7         事例 7       ぶどうの家 真備       8
事例 5豊野清風園7事例 6千寿園7事例 7ぶどうの家 真備8
事例 6 千寿園 7 ぶどうの家 真備 8 8
事例 7 ぶどうの家 真備
車例 Q 海光周 C
于1/10 14/11图
3-4. まとめ
3-4-1 ハザードマップと浸水被害状況
3-4-2 避難状況
3-4-3 被災から復旧までの期間
3-4-4 浸水被害後の備えの変化
3-5. 今後の留意点 水害・浸水被害に備えるためにすべきこと 10
資料編 ····································

# 第1章

研究の背景と目的

# 1-1 背景・目的

災害による被害の大きさは、地震・津波・水害といったハザード(自然災害)の大きさに加えて、施設の脆弱性が大きく影響している。介護施設等には、自力では避難できない人々が生活しており、避難の際には介助が必要となる。さらに夜間は介護職員数も少なく、十分な避難体制が整いにくい。介護施設等の脆弱性を補うためには、立地や建物などハード面での対応に加えて、避難訓練等のソフト面での対応が必要となる。

介護施設等における事業継続計画(BCP)は、近年、特に重要となっているが、介護施設等では日々の暮らしやケアがあり、非常時への備えが後回しにされることもある。防災・減災に関する委員会を設置している事業所もあるが、ローテーション勤務のため一斉に研修を行うことも難しい。

そこで、本調査研究事業では、介護施設等の管理者および介護職員が手に取り、どこでも学べるガイドブックと動画の作成を目的としている。ガイドブックには、各種災害に対する基礎知識と防災に対する備えが記載されている。一人ひとりの職員が自分事として防災を捉え、身の回りの備えについて再確認してもらうことを意図している。さらに、動画では防災に対する知識とともに実際に被害を受けた施設職員による災害時のエピソードを記載している。災害に対する意識を醸成するためには、災害時の具体的なイメージを持ってもらうことが重要である。各施設のエピソードを聞きながら、その時の状況を自施設に重ね合わせ、「いま災害が起きたら私はどう行動するべきか」と自分自身に問いかけてもらいたい。なお、今回の研究事業で作成したガイドブックと動画は、いずれも基礎的な内容となっている。災害に対する備えに定型的な答えはない。それぞれの施設が、ガイドブック等の知識を活用しながら自施設の状況に合わせた防災・減災対策を構築してもらいたい。

また、ガイドブック等の作成に際しては、これまで当協会が実施してきた東日本大震災、 熊本地震に関する調査研究資料を活用した。水害に関しては未調査であったことから、こ の度、水害による被害を受けた全国の8件の介護施設等に対するインタビュー調査を実施 した。その結果についても本報告書にて取りまとめている。

# 1-2 事業内容

#### ◆ 防災・減災に関するガイドブック、動画、ホームページの作成

内 容:1)専用ホームページを作成し、ガイドブック、動画を掲載。

- 2) ガイドブック、動画については委員会での議論を踏まえて作成。
- 3)被災体験動画は津波被害1施設、地震被害1施設、水害被害2施設の計4施設。
- 4)教育用動画は防災・減災の専門家2名による解説。

#### ◆ 水害による被害を受けた施設に対するインタビュー調査

調査対象:2014年以降に水害の被害を受けた全国8施設。

調査項目:法人概要、被害の状況、災害に対する備え、災害時に避難の状況、避難後

の状況、調査時点における防災対策など。

調査方法:施設管理者に対する現地(またはオンライン)インタビュー調査。

#### ◆ 既往研究の整理

実施団体:一般社団法人日本医療福祉建築協会

内 容:1) 東日本大震災における高齢者施設の被災実態に関する調査研究 (2011年 平成23年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進 等事業)

2) 熊本地震による高齢者施設の被害状況に関する調査研究(2016年)

# 1-3 研究体制

本事業では調査研究委員会を設け、調査を行った。委員会構成は、以下の通りとし、オブザーバーとして厚生労働省老健局高齢者支援課が同席した。

委員長	山口 健太郎	近畿大学建築学部 教授
委員	石井 敏	東北工業大学建築学部 教授
委員	大内 文章	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 災害対策委員会 幹事
委員	鍵屋一	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授
委員	葛城 武典	一般社団法人全国介護付きホーム協会 理事 株式会社有楽 代表取締役
委員	佐々木 薫	公益社団法人日本認知症グループホーム協会 常務理事 社会福祉法人仙台市社会事業協会 理事
委員	立木 茂雄	同志社大学社会学部 教授
委員	蓬田 隆子	株式会社リブレ代表取締役
委員	渡邉 圭司	川越キングス・ガーデン 施設長
調査委員	金井 純子	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 講師
調査委員	佐藤 哲	熊本県立大学環境共生学部 准教授
調査委員	宮崎 崇文	愛知工業大学工学部 講師
オブザーバー		厚生労働省老健局高齢者支援課

# 1-4 スケジュール

調査研究事業は以下のスケジュールにて実施した。

第一回委員会	2022年 8月19日	事業方針の決定、調査対象施設の決定
第二回委員会	2022年11月15日	ガイドブック、動画案の検討、調査経過 報告
第三回委員会	2023年 1月12日	ガイドブック、動画案の検討、調査経過 報告
第四回委員会	2023年 3月 7日	最終成果物の検討
水害被害施設に対する インタビュー調査	2022年10月 3日~	~ 2022年11月21日

# 第2章

介護施設等における減災・ 防災に関するガイドブック 等の作成

# 2-1 事業の概要

#### ① ガイドブック等の対象者 : 介護施設等の管理者、介護職員

防災・減災への取り組みは、管理者と介護職員が協同して行うことが大切。

#### ② ガイドブック等の内容 : 介護施設等にて必要な防災・減災に関する基礎知識

防災・減災に関する基礎知識を厳選して掲載。防災・減災に対する興味をもってもらうために実際に被災した施設のエピソードも掲載している。イラストも数多く記載し、手に取りやすいガイドブック等を目指している。

#### ③ ガイドブック等の使い方 :

- ・スマートフォンや PC を使い業務の間でも少しの時間があればガイドブックや動画の 閲覧が可能。少しずつ閲覧し、防災・減災の基礎知識を深めていくことができる。
- ・新人研修や職員研修の資料としても活用できる。また、地域住民などにURL等を伝え、 介護施設等の防災対策について考えてもらうこともできる。
- ・ガイドブックや動画から基礎知識を習得し上で、自施設における防災・減災対策を具体的に作成してもらう。

# 2-2 ホームページ、ガイドブック、動画について

当事業で作成したホームページ、ガイドブック、および動画は下記のアドレスに掲載されている。詳細について下記のアドレスにアクセスしてもらいたい。

次ページ以降は、ホームページに掲載されている内容を転記する。

# ホームページ

# わたしとみんなをまもる 介護施設の防災・減災ガイド

URL はこちら  $\Rightarrow$  https://bousai-fukushi.org/

QRコードをご利用の 場合はこちら



※ ガイドブックはホームページよりダウンロードを お願いいたします。



# 災害の備えは できていますか?

災害時の事業継続計画(BCP)には日頃の訓練が欠かせません。訓練を行いながらBCPの鮮度を常に保ち、災害時には自然と体が動き出すレベルまで訓練の内容を高めていきましょう。

#### 命をまもる3つの心構え



#### 自分の命をまもる

「自分は大丈夫!」と思っていませんか? 自分にとって都合の悪い情報を無視したり、 過小評価してしまう特性が人間にはあります。 災害は突如として襲ってきます。 災害時を想定した備えが自分の命を守ります。



#### 利用者の命をまもる

介護施設では「自力では逃げることができない人々」が生活しています。

っ。 あなたの力がなければ逃げることができません。 すべての利用者の避難が完了するまでには多くの時間が必要です。 全員が無事に避難するためには災害に対する備えと訓練が必要です。



#### 他人任せにせず、自ら行動を

日常の業務には、詳細なマニュアルや決まりごとがあります。 しかし、災害時には予想できないことが数多く生じてきます。 災害時に管理者の指示を待っていると、その間に被害が大きくなりま

災害に備え、現場職員の指揮系統は常時明確化しておき 災害時には迅速に対応していくことが求められます。

### 介護施設における災害とは

MESSAGE



#### ムービー

MOVIE



#### 自然災害と避難

まずは知ってほしい基本的な防災・減 災対策を専門家がわかりやすく解説。



#### 防災・減災の第一歩はあなたの『意識』

災害は心配だけど何から始めたらいいのか分からない人が多いのではないでしょうか。 災害については知っているようで知らないことが多々あります。介護施設に必要な防災・減災の基礎知識を解説しています。

● 詳しく見る



#### 緊急時における避難の方法

「自分は大丈夫!」と思っていませんか? 人々は自分にとって都合が悪いことを小さく捉えてしまいます。 災害による被害は、備えにより違ってきます。あなたの備えに対する意識があなたと利用者を守ります。

#避難方法 #災害事例

● 詳しく見る



#### 体験談

災害時の現実を知れば防災・減災の意 識が変わります。実際の現場の声を聴

# 特別養護老人ホーム 川越キングス・ガーデン 介護権設の 防災・減災ガイド 伊藤 桜子 2019年台風19号 深夜1時半からの垂直避難

#### 洪水

#### 深夜1時半からの垂直避難

市の海上で大きく発達した台風。天気予報では深夜に関東に 上陸すると伝えていました。水書の経験がある施設だからこ そ避難準備はしていました。深夜に入居者全員を隣接する避 難棟へ誘導を行い、夜が明けると一面は水で覆われていまし

#台風 #過去の経験を生かした避難

● 詳しく見る



#### 津波

#### 災害に備える意識の大切さ

多くの人々の命を奪った東日本大震災。大きな津波が大都市 仙台を襲いました。津波が迫ってくる中、素早い判断により 利用者、職員ともに全員が無事に2階に避難。危機を救った のは、日頃からの訓練でした。

#災害時の備え #東日本大震災

● 詳しく見る



#### 洪水

#### 平成30年7月西日本豪雨災害における避難

~無駄足になってもいい~

福雨前線から発達した線状降水帯が西日本の広いエリアを襲いました。岡山県倉敷市真備町では、7月6日の深夜に小田川とその支流が決壊。町一体が水に浸かる状況になり、激しい雨が降る中、決壊前に自動車で高台に全員避難することがで きました。

#BCP (事業継続計画)

● 詳しく見る



#### 地震

#### 被災時に助かったこと

激しい揺れにより多くの建物が倒壊した2016年の熊本地震。 豊かな自然に囲まれた南阿蘇村は、交通の要となる橋の落下 により陸の孤島になりました。まだ寒さが残る4月、利用者 と職員が支え合って耐え抜いた記録です。

#熊本地震 #役割確認の可視化

● 詳しく見る

#### 一覧を見る

# よくある質問 FAQ



### ガイドブック

GUIDE BOOK



<sup>わたしとみんなをまもる</sup> 介護施設の 防災・減災ガイドブッ ク

介護施設で働くすべての人々に読んでもらいたい知識を厳選して掲載しています。まずはガイドブックを開き、防災・減災について学んでいきましょう。

PDF(A4版) 🕹

PDF(A3見開き版)

#### 研究資料

東日本大震災、熊本地震、各地域における水害に関する実態調査結果を下記のサイトからダウンロードできます。

東日本大震災における高齢者 施設の被災実態に関する調査 研究報告書 熊本地震による高齢者施設の 被害状況に関する調査研究報 告書

PDFをダウンロード 赴

PDFをダウンロード ≟

#### 関連資料

その他、関連資料を下記のサイトからダウンロードできます。

自然災害発生時に備えた高齢 者施設・事業者間の連携、地 域とのつながり促進に向けた 手引

PDFをダウンロード 赴

#### 問い合わせ

お問い合わせは下記メールアドレス宛にご連絡ください。

#### **JIH**a

一般社団法人日本医療福祉建築協会



トップ ムービー よくある質問 ガイドブック お問い合わせ

一般社団法人日本医療福祉建築協会(JIHa)

令和4年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業) ※本サイト掲載のイラスト・図・学真の無断複製、転載・複字・借用などは、著作権法上の例外を除き禁じます。 かたしとみんなをまもる 介護施設の 防災▲減災ガイド

© 2023 JIHa

### ムービー 【自然災害と避難】

《一部を掲載しています》

#### ムービー

MOVIE

#### 自然災害と避難

防災・減災の第一歩はあなたの『意識』



大規模災害が起こると、人的被害、長期間のライフラインの停止が発生します。

介護施設には、介助・介護を必要とする多くの高齢者が生活しています。そしてそれを支える 職員がいます。多くの利用者を少ない職員で避難させるのは容易ではありません。職員の命を 守り、利用者を迅速に避難させるためには、災害の種類について理解しておくこと、そして、 ハザードマップを見て被害想定を把握しておくことが大切です。



德島大学 大学院 社会産業理工学研究部

金井 純子 様

ニ・バ・ボル・ド 高知人党大学院理学研究科修了後、諸俊コンサルタント会社を経て2012年 から権助大学に勤務、研究テーマは、高齢者や陽がい者の防災対策、東日 本大震災、熊本地震、西日本薬雨災害などで被災した介護施設の調査・研 究も多数。

徳島大学 教育研究者総覧 歱

### ムービー 【体験談】

《一部を掲載しています》

#### 体験談

平成30年7月西日本豪雨災害における避難

~無駄足になってもいい~



浸水被害に遭いました。事前にハザードマップを見ていたおかげで入居者全員を無率に避難させることができましたが、施設に残っていた職員24名は濁流に逃げ場を失い、垂直避難をせざるを得ませんでした。

水害の恐ろしさと自助避難の大切さを皆さんにお伝えすることで日頃からの防災意識の一助に なれば幸いです。



地域密着型特別養護老人ホームクレールエステート悠楽 施設長

岸本 祥一 様

・ 平成年4月 ・ 社会福祉法人難山会 特別養護老人ホーム意敷シルバーセンター介助員 平成7年 ・ 同施設 连移目費 平成19年 ・ 同端数 施設長 平成26年 ・ 社会福祉法人幸風会 クレールエステート悠楽 施設長

# ガイドブック 《 表紙 : 右側・裏表紙 : 左側 》



ガイドブック

 $\langle\!\langle p \, 02 \bullet p \, 03 \, \rangle\!\rangle$ 



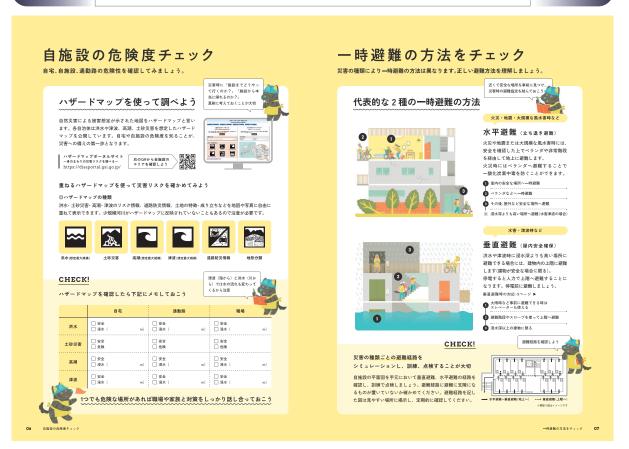




### ガイドブック

災害前後の備え

 $\langle\!\langle P06 \cdot P07 \rangle\!\rangle$ 







 $\langle\!\langle P10 \cdot P11 \rangle\!\rangle$ 



#### ガイドブック

 $\langle P12 \cdot P13 \rangle$ 



### ガイドブック

 $\langle P14 \cdot P15 \rangle$ 



防災チェックリスト 15

# 第3章

# 水害の実態調査

# 3 1 調査の概要

# 3-1-1 調査の目的

本調査は「介護施設等の職員に必要な防災・減災対策の知識に関する調査研究事業」の一部として行われた。現地での訪問調査とヒアリングにより、その被害の状況を確認するとともに、どのようにして災害に直面し、修繕・移設による介護施設等の停止期間を乗り越え、事業を継続できたのかを明らかにすべく、ハードとソフトの両面から、より具体的にそれぞれの状況を把握することを目的とした。

# 3 - 1 - 2 | 調査方法

調査対象施設は、2014年以降におきた災害において浸水被害を受け、その後介護施設等を再開した高齢者施設8施設である(事例 No.7 ぶどうの家 真備は被災時無人であり、事例 No.8 海光園は直接被災しておらず他事例と状況が異なるが、積極的な防災への取り組みが参考になるため選定した)。対象施設が受けた大規模災害の概要、対象施設の概要を表1に示す。対象施設の選定は、日本医療福祉建築協会の「介護施設等の職員に必要な防災・減災対策の知識に関する調査研究事業」における委員会によって行われた。

調査方法は訪問による現地ヒアリング調査を 2022 年 10 月・11 月に実施した。その内 2 施設については、COVID-19 感染拡大防止のため施設訪問が許可されなかったため、オンラインによるヒアリング調査となった。ヒアリング対象者は被災時の状況について把握している施設職員である。調査にあたっては、高齢者施設の建築計画を専門とする研究者 1 名以上を含む 1 名~4 名のグループとし、合計 5 名の調査員で調査を実施した。質問内容は、施設概要、建物の被害状況、人的被害、被災直後の状況、備蓄や避難訓練の有無、介護施設等の再開への過程などである。調査に際しては、調査チーム間でのヒアリング内容の差を少なくするため同一フォーマットを用いた。

#### 表 1 対象施設一覧

No	施設名	場所	ヒアリング 形式	対象災害	調査日時 2022 年
1	グレールエステート悠楽	岡山県倉敷市真備町	訪問	平成 30 年 西日本豪雨	10月 5日
2	川越キングス・ガーデン	埼玉県川越市	訪問		10月12日
3	平成の杜	静岡県駿東郡小山町	訪問	] 令和元年	10月13日
4	りんごの郷	長野県長野市	オンライン	台風 19 号	10月20日
5	豊野清風園	長野県長野市	訪問		10月24日
6	千寿園	熊本県球磨郡球磨村	訪問	令和2年7月豪雨	10月 3日
7	ぶどうの家 真備	岡山県倉敷市真備町	訪問	平成 30 年 西日本豪雨	10月 5日
8	海光園	静岡県熱海市	オンライン	令和3年 熱海市伊豆山土石流災害	10月21日

# 3-2 訪問ヒアリング調査の結果

### 3-2-1 ♦ ハザードマップと敷地

敷地選定とハザードマップについて回答者に確認すると、殆どの施設が浸水被害想定区域や土砂災害警戒区域であることを施行前から認識していた。しかし、法人が所有している敷地であった、介護施設への要望が多い地域であった等、災害危険区域ではあるが、別の場所を選定することはなかった。という意見が多数だった。豊野清風園も浸水想定区域であり過去に浸水被害の経験もある敷地であったが、その当時の浸水は膝の高さ程度であったため、浸水被害としては当時と同程度の浸水と想定していた。また、この敷地を建設時に選定した理由は、地域から介護施設を求める声が多かったためである。

他の事例においては、高齢者施設の敷地について、浸水被害を想定して山の上などの高台につくることを検討した施設もあったが、山は土砂崩れが心配なことと、郊外につくることにより利用者と職員を集めるのが困難になるという意見もあった。これらの結果から、ハザードマップにより浸水想定区域であることが明らかとなっても、即時の移転は容易ではないことが分かった。 《次ページ 表2 対象施設概要 参照》

### 3-2-2 🕴 浸水の高さと人的被害

対象施設の浸水被害・避難状況は表3の通りである。浸水の高さは1~5mと施設により異なる。平地に建っている施設は近郊の川の氾濫により浸水していた。平地以外の立地として、高台に位置する平成の杜は山の中腹に建っているが、周辺にある幾つかの沢が増水し、それが合流した大きな水の流れの中に施設が建っているために高さ60cmもの浸水被害となった。

人的被害がでた施設は**千寿園**のみであった。**千寿園**は川近くの平地に建つと同時に裏手は山であり、土砂災害のリスクもある立地である。**千寿園**は当初土砂崩れを想定して避難しており、施設裏手の山から離れた1階ホールに入居者らを同階避難させていた。浸水開始と同時の7時に上階への避難を開始したが、エレベーターが無いなかでの上階避難には時間がかかった。さらに、2階に入居者の居住スペースはなく職員の休憩室のみであったため、避難スペースも十分ではなかったことも、避難が十分にできなかった要因と考えられる。

人的被害がなかった他施設を見ると、全ての施設が浸水前に上階への避難を完了している。その際に、多くの施設でエレベーターを活用している。避難時は迅速に移動するためにベッドや車いすに入居者を乗せたまま移動した事例が多くみられ、エレベーターが役立っていた。逆に浸水後は停電によりエレベーターが停止するため上階への避難が難しくなっていた。川越キングス・ガーデンは同階避難の後に上階避難へ切り替えたが、上階避難時は停電によりエレベーターが使用不可であっため、入居者を車いすごと人力で2階へ運ぶこととなった。応援職員が多数いたため、水位が上がる前に全員の避難を完了することができた。これらの結果から、人的被害を避けるためには事前避難の判断が重要であることがわかる。

#### 表 2 対象施設概要

10.2 对象地政协安					
施設名	グレールエステート悠楽	川越キングス・ガーデン	平成の杜	りんごの郷	
災害	平成 30 年 7 月豪雨 (2018 年)		令和元年台風 19号 (2019年)		
災害概要	2018年6月28日~7 月8日にかけて、西日本 を中心に全国各地で発生 した豪雨。	★ たらした。			
所在地	岡山県倉敷市真備町	埼玉県川越市	静岡県駿東群小山町	長野県長野市	
立地の特徴	平地	平地・1.5m の土盛	山の麓・高台	平地	
対象施設種別 [併設施設]	地域密着特養: 29名 [併設] ショートステイ、 デイサービス、 訪問介護事業所、 カフェ	特養:80名 [併設]ショートステイ、 デイサービス	地域密着特養:29名 [併設] ショートステイ、 養護老人ホーム、 デイサービス	特養: 78名 [併設]ショートステイ、 訪問介護事業所、 福祉相談センター	
構造	鉄筋コンクリート造 鉄筋コンクリート造		鉄骨造	鉄筋コンクリート造	
階数	平屋建て、一部中2階建て	平屋建て、一部2階建て	2 階建て	2 階建て	
ハザードマップ	浸水想定区域	浸水想定区域	土砂災害警戒区域	浸水想定区域	
	6m	4m	工切火百言灰色块	10 ∼ 20m	
越水した川からの距離	200m	500m	10m	600m	
開設年	2014年	1991年	2011年	2002年	
調査日	2022年10月5日	2022年10月12日	2022年10月13日	2022年10月20日 オンライン	

#### 表3 浸水被害・避難状況

施設名	グレールエステート悠楽	川越キングス・ガーデン	平成の杜	りんごの郷
浸水被害・高さ	4.8m (2 階膝までの高さ)	(盛土1.5m+施設浸水)	60 cm	0.8~1m (腰の高さ)
浸水開始時間	【7月7日0時20分】 浸水開始 【翌日1時】 1階に濁流が流れる	【10月13日1時半】 ・床下浸水 ・避難棟は1階床上 3 cm浸水で止まる	【10月13日20時5分】 ・1 階の窓が割れ一気 に水が入る ・施設一部が水の流れ 道になった	【10月13日3時頃】 浸水開始 【4時44分】 1階が水没
上階避難開始時間	【7月6日22時】 避難勧告発令後	【13日1時半】 同階避難中、盛土にある屋外階段まで浸水している状況を確認後、 上階避難に変更	【13 日 19 時 34 分】 1 階の窓に水が迫って いるのを確認後、上階 避難に変更	【10月13日1時】 近郊の川の越水情報を 得た後
完了時刻	【7日0時】	【13日4時】	【13日20時5分】	【13日1時50分】
人的被害	無	無	無	無
避難時の人員	【6日22時15分】 職員緊急招集+ 母体施設と連携	通常の職員 5 名 + 応援職員 19 名、 合計 24 名	特養夜勤 2 名、養護夜 勤 1 名、日直 1 名 + 応 援職員、合計 9 名	夜勤 4 名、宿直 1 名 + 応援職員 9 名、 合計 14 名
避難形式	車で母体施設へ避難	同階避難→上階避難	一部上階避難 →全員上階避難	上階避難
避難場所	一次避難先: 母体施設	一次避難先: 避難棟1階 二次避難先: 避難棟2階	一次避難先: 一部避難棟2階 二次避難先: 全員避難棟2階	一次避難先: 2階
エレベーターの有無	有	有(避難時利用不可)	有(避難時利用)	有(避難時利用)

豊野清風園	千寿園	ぶどうの家 真備	海光園
令和元年台風 19 号 (2019 年)	令和 2 年 7 月豪雨 (2020 年)	平成 30 年 7 月豪雨 (2018 年)	熱海市伊豆山土石流災害 (2021年)
2019年10月12日に日本上陸。静岡県。関東地方、東北地方に甚大な被害をもたらした。	2020年7月3日~7月30日にかけて、九州や中部地方など全国各地で発生した豪雨。	2018年6月28日~7 月8日にかけて、西日本 を中心に全国各地で発生 した豪雨。	2021年7月3日午前 10時半頃に、静岡県熱 海市伊豆山地区の逢初川 で発生した大規模な土砂 災害。
長野県長野市	熊本県球磨群球磨村	岡山県倉敷市真備町	静岡県熱海市
平地	山の麓・平地	平地	高台
特養:74名 [併設] ショートステイ、 デイサービス、軽費老人 ホーム、訪問介護事業所、 クリニック、介護医療院、 老健	特養: 40名 [併設] ショートステイ、 地域密着特養	小規模多機能: 登録定員 29 名 [併設]無	特養:80名 [併設] ショートステイ、 デイサービス、 軽費老人ホーム
鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	木造	鉄筋コンクリート造
3 階建て	平屋建て、一部 2 階建て	平屋建て	4 階建て
浸水想定区域	土砂災害警戒区域	浸水想定区域	ムア法敬示では
10 ∼ 20m	浸水想定区域 2 ~ 5m	0.2m 未満	土石流警戒区域
100m	10m	1 km	
1970年(2000年改築)	2000年	2014年	1999年
2022年10月24日	2022年10月3日	2022年10月5日	2022年10月21日 オンライン

施設名
災害
災害概要
所在地
立地の特徴
対象施設種別 [併設施設]
構造
階数
ハザードマップ
越水した川からの距離
開設年
調査日

豊野清風園	千寿園	ぶどうの家 真備	海光園	施設名
2m30 cm (1 階が水没)	3m (1 階が水没)	平屋の屋根の上まで	土砂災害には直接被災 していない	浸水被害・高さ
【13 日 6 時 30 分】 浸水開始	【7月4日7時】 浸水開始 【8時30分】 窓が割れ一気に水没	・6日は宿泊者が0人・21時半に職員も帰宅 【7日5時頃】 浸水した可能性(水 没した施設内の時計が止まっていた)	_	浸水開始時間
【10月12日16時30分】 越水すると想定してい る川が、危険ラインま で増水しているのを確 認後	【7月4日7時】 浸水確認後、上階避難 に変更	【7月2日8時半】         1階入居者を上階へ避難。上階での避難生活は1週間に及んだ。		上階避難開始時間
【13日1時50分】	_	_		完了時刻
無	入所者 14 名死亡	_	無	人的被害
早番・日勤・遅番・ 全員招集	夜勤 4 名、 宿直 1 名 +地域住民	_	通常の職員 12 名	避難時の人員
上階避難	同階避難→上階避難	_	上階避難	避難形式
一次避難先: 2・3 階	ー次避難先: 1 階ホール 二次避難先: 施設 2 階	_	ー次避難先: 3階、4階デイルーム・ 通路	避難場所
有 (避難時利用)	無	無	有 (避難時利用)	エレベーターの有無

### 3-2-3 避難前の対応

水害は地震と異なり、気象情報等により事前に情報を得ることができる。浸水前に上階 避難を実施した施設について、避難の事前準備について聞くと、りんごの郷は浸水する前 日(10月12日)から施設長と事務長が施設に留まり、気象情報を確認していた。近隣 の川の越水情報を得た時点で上階避難を開始した。施設長は当初から浸水被害を想定して おり、大雨の中施設外に避難するのは、体調を崩す、転倒するリスクを考えると難しく、 避難するなら上階避難と想定していた。

豊野清風園も施設長が事前に待機しており、避難判断に備えていた。過去に浸水した土地であるため、避難訓練で上階への避難訓練を行っており、浸水被害への備えがあった。 近隣の川の危険水位を事前に決めており、当時は職員が定期的に確認を行っていた。川が 危険水位を超えた時点で上階避難を開始した。

山に隣接する平成の杜と千寿園は土砂災害に対する避難準備および避難を行い、その後、浸水避難へ変更した。平成の杜は山に近い棟の1階入居者のみを2階に上階避難させ、他の入居者らは山から離れた1階ホールに同階避難していた。千寿園は、土砂災害への危険性を考慮し、裏手の山から離れた1階ホールに入居者らを同階避難させていたが、その後、浸水が始まったため2階への上階避難を行った。

グレールエステート悠楽は近隣の高台に同一法人の広域型特別養護老人ホーム(母体施設)があり、事前に「避難勧告がでたらそちらに避難する」と施設長同士で連携しており、 避難時には母体施設の人員・車両の協力も要請していた。

# 3-2-4 → 避難の決断

浸水前に上階避難を完了させるためには、避難を決断するタイミングが重要となる。りんごの郷は越水すると予想していた川が、10月13日1時に越水した情報を得て、上階避難開始した(浸水開始13日3時頃)。豊野清風園も12日16時30分に近隣の川が危険水位を超えたことを職員が確認した時点で、上階避難開始を開始した(浸水開始13日6時30分)。

土砂災害を想定して同階避難を実施していた平成の杜は、10月13日19時34分、1階窓に腰の高さ程水がきているのに気づき、急いで1階にいた入居者の上階避難を開始。13日20時5分に窓が割れ、土砂を含む水が一気に流れ込むが、ぎりぎり上階避難を完了することができた。千寿園は7月4日7時の浸水開始と同時に上階避難を実施。エレベーターが無かったため、人力で避難を開始した。施設には通常職員数に加え、近隣の住民が支援に駆け付けたが、緊急の上階避難への対応が難しく、後に駆け付けた職員も道路が冠水しているため施設に近づくことができなかった。千寿園の指定避難先は近隣小学校の運動場であったが、大雨の中、外に入居者を避難させることは不可能という判断もあった。この小学校も本災害で水没している。

# 3-2-5 介護施設等の停止期間

本調査では、被災後の施設を修繕し再利用した事例が4施設、別の敷地に移転・新設した事例が4施設、建物被害がなかった事例が1施設であった。施設の再利用には、浸水したフロアの壁・床を剥がし、壁中・床下を洗浄・消毒する必要があるため、修繕工事期間中は事業を停止する必要がある。移転・新設も長期間の停止期間を要する。

本調査の中には、介護保険事業を部分的に再開した事例もみられた。部分的に再開した事例について、豊野清風園は被災から2カ月後に、2階の養護老人ホームから部分再開している。部分再開を決断したのは職員の雇用維持のためである。しかし、早期のサービス再開を望んでいたが、1階調理室が浸水し、調理設備が使えなくなったため、調理提供の目途が立つまで再開できなかった。2カ月後、2階以上の各フロアにガスコンロを置く程度の臨時キッチンを設け、クックチル等を活用する食事提供方法を採択し、部分再開に踏み切ることができた。施設長は、この度の被災から高齢者施設の再開には、食事の確保が重要であると述べている。さらに豊野清風園は早期の再開を目指すため、被災後すぐに施設を施行した業者に連絡し、建物の被害状況を検査させた。施設の修繕にどれほどの工期が必要か知ることにより、今後のスケジュールが立てやすくなったと述べている。施工業者は施設の図面も持っているため、早急に対応することができた。平成の杜も同様に、被災施設の2階部分から再開している。施設の浸水被害が部分的であったことが早期再開を可能にしたと考えられる。

被害後に施設を新設した事例について、移設先は浸水した敷地ではなく、別の土地に移設している(移設・新設)。移設には土地の選定、企画・設計と長い期間を要するため、両事例とも応急仮設施設を建設した。**千寿園**が仮設建設までに長い期間を要しているのは、当初再開する予定がなかったが、地域の要望により再開を決意したためである。

《 次ページ 表 4 浸水被害・避難状況 参照》

表 4 浸水被害・避難状況

施設名			グレールエステート悠楽	川越キングス・ガーデン	平成の杜	りんごの郷	
被災判定			全壊・再利用	全壊・移設	半壊・再利用	半壊・再利用	
再開年月 (停止期間)			2019年1月17日 【6カ月後】 被災建物を再利用	2020年3月 【5カ月後】 移転・応急仮設施設で再開 2022年1月 【3年4カ月後】 移転・新設施設で再開	2022 年 10 月 【13 日後】 2 階の養護老人ホームの み再開 2021 年 3 月 【6 カ月後】 ・特養再開 ・被災建物を再利用	2019年11月 【1カ月後】 同法人の別の高齢者施認 の空きスペースで特養を 再開 2000年12月 【1年3カ月後】 ・特養再開 ・被災建物を再利用	
停止	:期間中の)居場所の	利用者確保	母体施設 →再開した施設に戻る	近隣の別法人の施設 →応急仮設施設 →新設施設に戻る	近隣の別法人の施設 →再開したサービスご とに入居者に戻る	同法人の別施設 →別施設の空きスペーン →再開した施設に戻る	
		被災前	備蓄 3 日分	備蓄3日分	備蓄 7 日分	備蓄 1 日分	
	備蓄	被災後	変更無し	備蓄 3 日分 ・井戸水を使用できない か調査中 ・竈ベンチを検討中	備蓄7日分 備蓄品を各階に均等に分 散配置、ジュース・お茶 を追加購入	備蓄3日分 おかゆを追加購入	
	連携	\ <del></del>	被災前	・行政と福祉避難所として連携 ・同じ市内の高齢者施設 と連携協定	行政と福祉避難所として 連携	・県と防災協定 ・老人福祉施設協議会と 連携	他法人と防災連携
浸水被害への		被災後	変更無し	・新設施設も福祉避難所 として申請予定 ・同法人内の別施設と連 携を予定	変更無し	COVID-19 の影響で,他 施設との連携の打ち合わ せができない	
備え			<del>-</del>	地震・火災	地震・火災・ <u>水害</u>	地震・火災	<u>水害</u> ・火災
んの変化	防災	被災前	RC構造物であり、地震時 の避難において施設外避 難は想定していなかった	毎年近隣の川が溢れていため上階への避難訓練を 実施していた	土砂崩れを想定した同階 避難を実施していた	水害に対しては地区防災 会合同訓練で実施. 公園 や小学校へ避難する計画	
	訓練	被災後	従来の避難訓練に母体施 設への避難訓練に追加	移転後の避難訓練は検討中	上 <u>階</u> 避難を想定した訓練 を実施。ベッドを 2 階へ 移動する訓練	上階避難と他施設へ避難するグループに分けてが設単体で水害に対するが難訓練を実施している	
	₹0	D他	災害時の職員間の情報共 有に SNS を活用	重要書類をデータ・クラ ウド化	災害時の PC・避難を計 画	・重要書類をデータ・ク ラウド化 ・災害時の PC・避難を記 画	

豊野清風園 千寿園		ぶどうの家 真備	海光園		施設名	l
半壊・再利用	半壊・移設	全壊・建替え	損傷無		被災判定	Ē
2019 年 12 月 【2 カ月後】 2 階以上で,老健・ケア ハウス等を一部再開 2000 年 8 月 【11 カ月後】 ・全面再開 ・被災建物を再利用	2021年12月 【1年5カ月後】 移転・仮設で再開 2024年 移転・新設施設で再開予定	被災直後から避難先で事業再開 4カ月間:公民館+ 4カ月間:民間の建物 2019年9月 建て替え施設で事業再開	該当なし		再開年月 (停止期間)	
近隣の別法人の施設 →再開したサービスごと に入居者に戻る	近隣の別法人の施設 →応急仮設施設 →新施設建設後は施設に 戻る予定	避難所(小学校) →公民館 →民間の建物を借りる (現在のぶどうの家 BRANCH)	該当なし	停止期間中の利用 者の居場所の確保		
備蓄 3 日分	備蓄 3 日分	5年保存水は備蓄してい たが,泥水に浸かり利用 不可	<ul><li>・備蓄 7 日分</li><li>・災害用の倉庫に保管</li><li>・年 1 回,年末棚卸作業 (消耗品ローリング)</li></ul>	被災前		
備蓄品を各階に均等に 分散配置, ゴムボート2 隻購入, 缶で保管できる ガソリンを検討中	備蓄 3 日分 非常用自家発電機を追加 購入	未調査	(相称にロローリング)	被災後	_   備蓄   	
行政と地域住民と一般的 な連携	医療機関と協力協定	未調査	未調査	被箭	- 連携	<u></u>
別法人の高齢者施設と協 定を検討中	・隣接市の高齢者施設と 防災協定を結ぶ ・現在の仮設施設でも近 隣住民と連携を予定	<ul><li>・地域住民とマイタイム ラインの勉強会を実施</li><li>・防災関連イベントを実施</li></ul>	未調査	被後	上方	浸水被害への
火災・ <mark>水害</mark> 上階避難も訓練していた	水害・土砂災害 上階避難もしていたが全 員を2階にあげることは 想定していなかった	地震・火災	月1回の減災訓練・対策	被災前	防災	の備えの変化
・毎月 13 日を防災の日として、職員と防災情報を共有する・非常品持ち出し物品(PC・書類)をリスト化	避難訓練の実施を計画しているが、COVID-19により現在は机上訓練のみ	地域住民と一緒に避難訓 練を実施		被災後	訓練	
<ul><li>・重要書類をデータ・クラウド化</li><li>・災害時の PC・避難を計画</li></ul>	職員の防災教育に e- ラーニングを活用	災害時に持ち出す物品を 一つのカゴにまとめてい る	・ベッドの運び方(部屋 の外に出すのが大変) ・上階避難解消時の戻し 作業において、2階の デイサービスフロアを 経由し、段階的に戻せ ないか検討中		その他	

#### 3-2-6 ∳ 停止期間中の入居者の受け入れ先

浸水被害により上階避難していた入居者らは、水が引いた後、一般避難所に移動した事例と、そのまま被災施設で過ごした事例がみられた。両事例ともケアを提供できる環境が十分に整っていないため滞在は一時的であり、その後受け入れ先の高齢者施設に移動した。受け入れ先は、別法人の高齢者施設、同法人が運営する別の高齢者施設の2事例がみられた。水害による浸水被害は、地震による津波被害とは異なるため、被害を受けた地域が限定的であり、被災施設と同じ地域内でも全く被害を受けていない施設も多く、それらの施設に協力を依頼することができた。また翌日には水が引き、車移動が可能となったため、入居者の移送も問題なく行えた事例が多かった。

しかし、別法人の入居者の避難受け入れでは介護報酬の請求が課題となった。川越キングス・ガーデンでは、最初の2カ月は被災施設側が介護報酬を請求し、それぞれの受け入れ施設に支払っていたが、受け入れ施設ごとに部屋代や加算方法の違いから、請求の計算に苦労した。最終的には受け入れ施設が直接介護報酬を請求することとなった。同様の事例が他の施設でも見られたが、最終的には受け入れ施設側が介護報酬を請求する事例が多かった。

また別の課題として、施設の空きスペース又は仮設でサービスを再開した事例においては、行政から仮の場所での事業の再開は許可さたが、その場所での新たな入居者の入所については許可されなかった事例が2つみられた。これらの施設は、退所や死亡による入居者の減少により、施設の収入が減少し、その後の職員雇用維持に苦労した。

# 3-2-7 停止期間中の職員への対応

介護施設等の停止期間中は、入居による施設の収益が無くなるため、施設運営が難しくなる。特に職員の雇用維持に多くの施設が苦慮していた。職員への対応として、同法人又は関連施設に職員を出向させた事例、別法人の高齢者施設に出向させた事例、人員整理を行った事例がみられた。

**千寿園**は災害月の月末には、一部の職員を残し整理解雇の形をとった。施設長は当初施設を閉鎖する考えであり、早めに決断した方が職員の今後の生活のためになると判断したためである。しかし、地域の要望もあり、1年5カ月後、応急仮設施設で再開することになった時は、ほとんどの職員が戻り再雇用された。りんごの郷は、同法人が運営する施設の空きスペースに仮設の特養を開設したが、新たな入居者の受け入れは許可されなかった。そのため入居者数が減少し、職員が余る状態となった。そのため、一部の職員は関連病院に出向という形で雇用を維持した。しかし別法人の高齢者施設へ出向した事例の中には、ケア方法の違い、障がい者へのケア等の経験の少ない現場での仕事に、ストレスを抱えたり、受け入れたからクレームが入ることもあった。今後の施設間の防災協定では、入居者・職員の受け入れについても取り決めておくことが望ましい。

### 3 - 2 - 8 🝨

#### 防災への備えの変化

#### 1 備蓄

緊急時の備蓄について、被災前は食料・水・オムツ等の介護用品の日常生活物品を3日間分と、非常用自家発電機を備蓄している施設が多かった。被災後の変化をみると、備蓄の量に変化はみられなかった。その理由として、浸水後殆どの施設で翌日中には水が引いており、追加の支援物資等は手に入れることが可能であったことが考えられる。

具体的な変更点として、豊野清風園は、避難用のゴムボート2隻、りんごの郷は被災時水分が多い食事の方が入居者は食べてくれたという体験から"おかゆ"を追加した。また、被災前の備蓄場所を1階の1カ所に保管していたが、1階1カ所では浸水時に利用できなくなった経験から、被災後備蓄保管場所を各階には分散配置に変更したという施設が2施設みられた。

また、自家発電機を備蓄している施設は多いが、ガソリンを備蓄しておらず、早々に発電機が使えなくなった事例が見られた。電力の主な使用はスマートフォンの使用であった。浸水により PC や固定電話が水没または停電したため、通信手段がスマートフォンしかなく、職員間の連携や気象情報をチェック、受け入れ先の施設への連絡等、使用は必須だった。しかし、多くの施設で自家発電機はあったが、ガソリンの備蓄をしていなかったため、電力不足が生じた。ガソリンの備蓄は規制があるため取り扱いが難しく、多くの施設で対応を検討中であった。豊野清風園ではガソリンを備蓄できる専用の缶の購入を検討中である。さらに、近年では防災備蓄に加えコロナ対策用品の備蓄もあり、これらの備蓄場所の確保に困っているという意見もあった。

海光園は、備蓄を土砂・浸水被害に備えて各階に保管し、年1回の年末棚卸作業(消耗品ローリング)も行っている。

# ② 連携

浸水被害後は修繕のために一定期間は介護施設等を停止する必要があるため、入居者の受入れ先が必要となる。被災前から近隣の高齢者施設で防災協定があったのは2施設のみであったが、それ以外の施設についても、浸水被害後、施設管理者・行政・社会福祉協議会等の協力により、受入れ先を探し、見つけていた。水害による浸水被害は、自治体の中でも限られた地域のみの場合が多く、近隣に被害を受けていない受け入れ先を見つけることが可能であった。

被災後の連携の変化として、他施設・地域住民との防災連携を試みてはいるものの、COVID-19により打ち合わせ等も進行していない現状も聞くことができた。また、この度の水害は施設内の上階避難で助かったが、浸水想定区域が10m以上の施設からは施設全体が水没するような水害の場合に、どこにどのように避難すればいいのかわからないので、行政と相談したいという意見も聞けた。

#### ③ 防災訓練

被災前の防災訓練について、豊野清風園は浸水を想定した上階避難訓練を実施していた。 上階避難を取り入れたきっかけは、2017 年岩手県のグループホーム被災を見て、その教訓を活かすためである。他の施設においても、火災・地震・土砂災害・風水害を想定した同階避難訓練を実施しており、その訓練によりこの度の災害でも入居者移動がスムーズに行えたと回答する施設も多かった。また、要介護度が高い入居者を訓練に参加させることは、リスクが伴うため一部の入居者のみの参加となるという回答もあった。しかし、この度の浸水被害では寝たきりの高齢者もベッドと一緒に避難する場面も多かった。その際に、普段動かすことがないベッドの車輪部分が劣化して移動できない事例もあったため、訓練は移動手順の確認だけでなく、道具の確認も重要といえる。

被災を経験した施設は、被災した自施設の経験を活かし、避難訓練を実施している。りんごの郷は施設内で上階避難するグループと、法人が所有する他施設へ避難するグループに分かれて訓練を実施している。グレールエステート悠楽は母体施設への車での避難を計画しており、限られた車両で効率よく入居者を避難できる方法を検討している。

#### 4 その他の改善点

その他の改善点について多かった意見は「備蓄物品の保管場所の移動」と「避難時のPC及び重要書類の移動」である。上階避難時に食料・水・介護用品は必要な分一緒に避難していたが、PCや介護記録等の紙資料については移動させなかった施設が多い。豊野清風園については、浸水前の上階避難を実施していたが、その時は浸水しても1階の膝程度と想定したため、PC・書類は1階のデスク上にまとめていた。そのため浸水により1階全てが水没したため、殆どの資料が破棄となった。他の施設でも同様に重要書類・PCが水没した事例が多数見られた。重要書類の中に入居者の介護記録・服薬情報などもあり、避難先や受け入れ先で必要となる可能性もある。PCは職員の勤務時間等を管理するのに使用されることが多く、被災後の給与計算で苦労した事例もみられた。その対策として、緊急時に避難させる物品としてPCや書類棟をリスト化し、職員で共有している。また紙データのクラウド化も進めている。

# 3-3 ヒアリング結果一覧

次~	ν̂-	3)	以降に	Y	アリ	]	ンガ	'結果	かね	目載さ	す	る。
$\sim$	`	_	10 PM	_	/ /	/ '		かロ //へ	٦٠ ت	口里及	ッ・	00

事例1	クレールエステート悠楽	34
事例 2	川越キングス・ガーデン	44
事例3	平成の杜	54
事例4	りんごの郷	62
	豊野清風園	70
	千寿園	78
事例7	ぶどうの家 真備	88
事例 8	海光園	96

#### 事例

# 1

### 社会福祉法人 幸風会

# クレールエステート悠楽

所在地	〒 710-1306 岡山県倉敷市真備町有井 1472					
調査日時	2022年	対応者 (役職)	施設長			
	10月5日	調査員名(※記録者)	山口*、中村			

### 1 施設概要

70世年又19963	<b>X</b>						
施設種別	地域密着型特別養護老人ホーム	開設年	2014年6月	定員	・特養 29 名 ・ショートステイ 10 名		
併設施設	<ul><li>・短期入所生活介護</li><li>・デイサービス</li><li>・居宅介護支援事業所</li><li>・カフェ</li></ul>						
階数	平屋建て(一部中2階あり)	構造種別	鉄筋ニ	コンクリート造			
設計者	福山 K2-DESIGN		施工者	荒木約	1		
立地の特徴	<ul><li>・2018年7月の西日本豪雨により大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備地区に位置する地域密着型特別養護老人ホーム。</li><li>・氾濫した小田川の支流である末政川から数百mの場所にあり、ハザードマップでは6mの浸水区域にある。近隣の高台には同一法人の広域型特別養護老人ホームがある。</li></ul>						

### 2 主な被災状況

当該地域の浸水高さ	4 m 80 cm	被災判定	全壊
対象地域の気象情報のタイムライン	即時避難開 ・7月7日0 建物の管理で ・7日午前0 し、午前1	始。 時頃に全員の避難 のため管理者と職 時 20 分ごろ施設 時ごろに東から西	武が発令。同日 22 時に避難勧告発令。 難完了。 員数名が施設に残る。 内への浸水が始まる。未政川が氾濫 への濁流が生じる。 が決壊し、流れが逆になる。
周辺地域の浸水の状況	1 階の屋根ま ぐらいの高さ		する高さ。2階にいても膝まで浸かる
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	職員、入居者	「の人的被害はなし	

### 3 建物被害の概要

地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	平地であるため地盤の被害はなし。
構造体の被害状況(特に基礎構造)	鉄筋コンクリートの壁式構造。基礎や主要な構造部に被害はなし (再利用可能であった)。
外装材の被害状況 (屋根、壁) 等	外壁は完全に浸水しており補修が必要。
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	<ul><li>・4m80 cmの浸水があり、室内はすべて浸水する。流れてくる汚泥のため、匂いもひどかった。</li><li>・内装材はすべて取り換える。汚泥は細かい粒子のため肌に触れるとチクチクし、衛生的にも悪かった。</li></ul>
家具・什器備品の被害状況 (棚、ベッド、車いす) 等	汚泥により什器はほとんど再利用が不可能であった。新品もしく は中古品を購入する。
使用不可になった部屋	浸水のため全室使用不可能となる。
ハザードマップ	次ページに掲載

#### ハザードマップ



倉敷市役所総務局「倉敷市 洪水・土砂災害ハザードマップ 真備・船穂地区(平成 29 年作成)」を元に執筆者が作成(令和 5 年 2 月)

#### 4 被害の状況 (ライフライン)

	100 T 100 T 1	
	停止の有無	復旧までの期間
水	復旧までの対応 代替手段	被災当日から避難先の母体施設にて生活。母体施設ではライフラインは通じていた。
電気	停止の有無	復旧までの期間
	復旧までの対応 代替手段	被災当日から避難先の母体施設にて生活。母体施設ではライフラインは通じていた。
	停止の有無	復旧までの期間
ガス	ガスの種類	
	復旧までの対応 代替手段	被災当日から避難先の母体施設にて生活。母体施設ではライフラインは通じていた。

### 5 設備の被害状況

	給水	
	給水方式	
	受水槽の位置・容量	
	被害状況・対応	被災当日から避難先の母体施設にて生活。母体施設ではライフラインは通じていた。
給排水設備	給湯	
	被害状況・対応	被災当日から避難先の母体施設にて生活。母体施設ではライフラインは通じていた。
	排水	
	被害状況	被災当日から避難先の母体施設にて生活。母体施設ではライフラインは通じていた。
	受変電設備の位置	
	消防用非常用電源	有(スプリンクラー作動のみ)
	非常用発電	
電気設備	非常用電源設置場所	
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	被害状況	<ul><li>・非常用発電については被災後に取り換える。</li><li>・発電機の容量はスプリンクラーの稼働分のみ。</li><li>・余剰の電力についても見積もりを取ったが高額のためあきらめざるを得なかった。</li></ul>

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	空調方式	熱源			
空調設備	被害状況				
通信設備	施設外(電話・通信 設備等)の被害状況	<ul> <li>・被災時にも携帯電話はつながっていた。屋上での避難時には情報収集や被害の状況の写真を撮るなどにより携帯を使用しており、携帯のバッテリーがすぐになくなってしまった。モバイルバッテリーも持ってなかったため、途中からは使うとき以外は電源を切ったりして、消耗しない工夫をした。</li> <li>・避難先の母体施設では、携帯の基地局が被害を受けて電話がつながらない状況だった。電話をかけるときは、車を走らして電波のいいところを探した。また、FAXも使えずFAXはコンビニで行った。</li> </ul>			
	施設内の被害状況				
	エレベーター	設置なし			
搬送設備	リフト	設置なし			
	(階段)	中2階への階段はあり。屋上への階段はない。			
	入浴設備	避難先の母体施設の設備を利用。			
	代用方法	・避難先のものを使用。 ・風呂やトイレをシェアしないといけないため、2週間に3回や週に1回の入浴となり、母体の施設の入居者にも迷惑をかけることになった。・トイレに関しても避難場所のホールのトイレを使用していた。介助に適した広さや手すりの設置は確保されていたが、30名の避難者が使うには十分な個数ではなかった。			
	給食システム				
ライフライン	代用方法	<ul> <li>・食事は最初は母体施設が作って出してくれていた。</li> <li>・委託業者がキッチンカーを持っていて、1週間しないぐらいに滋賀県からキッチンカーを呼んできてくれた。以前から、何かあればキッチンカーを出すという話があり、朝昼の食事を提供してくれた。温かいご飯は食べられていた。</li> <li>・食事に関して困ったことは特にはなかった。避難した翌日の朝食も母体施設で出してくれた。。</li> </ul>			
	ランドリー設備	避難先の母体施設の設備を使用。			
	代用方法	今後の改善点			
その他	自然エネルギーの活用				

### 6 被災時の対応

6	<b>他炎時の対応</b>		
災害発生時の職員配置 [初動の職員の役職と連絡体系]		-	<ul> <li>・7月6日正午ごろ 大雨特別警報発令。</li> <li>・16時30分ごろ「避難勧告がでたら入居者を避難させるため電話にて緊急招集をかける」ことを緊急連絡網にて職員に連絡。</li> <li>・22時に避難勧告発令。</li> <li>・22時15分に職員の緊急招集、理事長と避難開始の確認連絡。</li> </ul>
災害発生時の指揮系統 誰が指揮を執ったか 時系列に			施設長が施設に待機しており、施設長の指示に従い避難を 開始。
被災(浸水)に至るま	入居者への対応	<ul><li>・22 時、避難開始。</li><li>・22 時 45 分、1 人目が施設を出発。</li><li>・0 時ごろ、入居者(特養 29 名、ショートステイ 7 名の計36 名) 避難完了。</li></ul>	
報の	)プロセス (気象情 )把握時期、避難準備 決況、情報収集、避難 高時期など)	スタッフ間の対応 (情報共有など)	<ul> <li>・15時ごろ、母体施設の施設長と連絡。避難勧告が出たら避難をすることを伝える。その際の車両と人的な応援を要請。</li> <li>・16時半、緊急連絡網で、避難勧告が出たら避難開始の旨を伝達。その際、緊急招集することも伝達。避難経路と避難場所を家族と共有しておくように指示。</li> <li>・22時、避難勧告。避難行動開始。</li> </ul>

は避難先に移動 テーブルの上に その職員は、あ ので家に帰りま 家が心配なので ていた。その後、 た。
員か職別の いいでは、 ないでは、
で風除けにして、て、耐えていた。 こまにした。 こまに大きなないない。

- ・屋上に上ってから、脚立も上に上げた。脚立は掃除などのためであった。中二階のカンファレンス室に上がることも想定したが、もしここまで水が上がってきたらどうしようもなくなるため、屋上に避難することになった。
- ・自衛隊が30~40人乗りのボートで陸まで連れて行った。
- ・奈良県消防のヘリが来てくれたが、法律等の問題でどこでも降りられるわけではなく、岡南飛行場というすごく遠い ところまで連れていかれることになる。 そこから、帰るた めの手段は自分で考えてくださいということだった。
- ・みんな家のことが心配だったので、そんなところに連れていかれてもどうにも ならないということで、ヘリは来ているが乗りたがらない。ボートだったら、真 備町内へ連れて行ってもらえる。
- ・近隣住民の方は消防の方には一切乗らず、「せっかく来てくれたにもかかわらず乗らないわけには」ということで、うちの職員に「空気読め」という形で乗ってもらった。1回4人で、最終的には8人乗った。ただ、乗る前に、家族とかに迎えに来てくれる人がいるのかを確認し、他の人もその人に一緒に送ってもらったりすることができるのかも確認してから乗ってもらった。
- ・3回目に来たときは10数名いたが、「もういいです」といった。

#### 浸水から一定時間が経過した後の対応

### 地域住民等 被災者の受入状況

- ・屋根に避難された人や2階のベランダに避難したものの膝まで浸かっていた人 を救助隊がボートに乗せて、施設の屋上に誘導してきていた。RC 造であり一時 避難場所として安全であったため。
- ・母体施設に 100 人程度の地域住民が避難することもあった。デイサービスセン ターは福祉避難所としての登録はしているが、物資などの供給が無いことを伝 え、一般の避難所に移ってもらった。

# 受け入れ者、入居 者の状況

(居場所の確保)

(入居者)

- 母体施設のホールでケア。 ・東京の坂茂事務所に段ボールの間仕切りと段ボールの ベッドの寄付を依頼したところ、無償で提供を受ける ことができた。7月28日にボランティアと一緒に資 材を運んできてくれ、設営してくれた。プライバシー が守られ、一人一人個室的な空間を作れるようになっ

(受入れ者) 母体施設の ホールで半 年間生活。

# 1 カ月

3日間

7日間

・ここにいたのは特養29人で、ショートステイは7人 中6人は家に帰った。1人の方は独居であり自宅も被 災したため一緒にホールに留まった。

た。iPadで図面を描いて車椅子のスペースも考慮して

# ・人手には困らなかった。デイサービスが休館となり、デイサービスの スタッフが応援に入ってくれた。そのおかげで、特養のスタッフは自

#### スタッフの確保

7日間

1 カ月

3日間

宅の片付けに専念できた。 ・最初はユニットは関係なく、職員全員が全員を見るという形だった。

そうすると、年寄りが不穏になってきた。そこで、ホール内をユニッ トに分け、食事のスペースを分散させた。職員もユニットごとに分け、 顔なじみの関係をつくった。

### 職員へのケアとして取 り組んだこと(職員の家 族の安否、職員の家屋の被

【翌日】 職員全員の安否確認が完了した日時

理由:自宅の被害の届け出はしてもらった。半壊で1週間、全壊で2週間の特 休を付与して、その間に自宅を片付けして、仕事に戻ってきてもらうよ うにした。罹災証明が出るのに時間かかったが安否確認はすぐにできた。 職員同士で声かけあって、休みの日に片付けの手伝いに行ったり、持ち 出しの手伝いに行ったりはしていた。

利用者全員の安否確認が完了した日時 【 当日 】

理由:すでに避難済み。

併設事業の状況(利用者 への対応、通所・訪問の継 続・休止など)

災、メンタルケアなど)

- ※ BCP について、短期(通所・ショートステイ)の継続・休止、休止期間について
  - ・ショートステイは半年間休業 (建物が再開されるまで)。
  - デイサービスは9月中旬に仮設にて再開。

#### 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

備蓄は地震時の想定。3日分。

水害は、エリアは限定されているので、救援物資が手に入りやすい。

### 外部からの支援

法人内での連携 (人) (物資) (お金) ・他施設からの支援 法人内 法人内 備品関係の補助金。 ・ 医療機関との連携 ・大規模修繕については法人が入っている保険を利用。 ・行政との連携 ・新設時に受給できる開設準備補助金をもらう事ができた。 ・地域住民との連携

### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

建物の修繕・ 改修 移転の場合は その内容	内容	・建物はすべて浸水したが再利用した。施工会社と相談し躯体の損傷はほとんどないため、改修はできるという判断であった。改修して再開する方針は早い段階で決まった。 ・内装、外装はすべて取り換え、一度、躯体の状態とした。 ・屋内の配管はやり替えたが、埋めている配管は洗浄してそのまま残している。キュービクルなどの電気設備もすべて交換。 ・水害保険に加入しており激甚災害に認定されたため保険が下りた。 ・補助金に関しては、行政と何回もやり取りをしたが倉敷市も初めてのケースであり「前例がない」という対応であった。最終的には、新設するときにもらう開設準備補助金と備品関係の補助金、新設時の建設補助金を受けることができた。保険と補助金により借入はなく、再開することができた。 ・お年寄りが使うものに関しては新品を入れたが、職員が使う机などに関しては中古品を入れた。洗浄して使えるレベルではなかった。ベッドも数十万かかるので、補助金もどこまで出るか分からなかったので、洗浄してもう一回使おうと試みたが、ベッドメーカーに尋ねたら砂がモーターに嚙んでて使えないと言われた。手すりも中から泥水が出るほど汚れていて使えなかった。
	 費用	改修費の総額は、設備・備品も含めて約4億円。
	期間	半年間
	工事中の対応	・被災時の避難から再開まで母体施設で過ごした。 ・介護報酬については最初の3カ月はユニット型として請求することが できたが、4カ月目からは多床室として介護報酬を請求した。
	工夫した点	・避難先の母体施設のホールでは、食事のスペースやユニットごとに分けて、職員もユニットごとに分けることで、顔なじみの関係をつくった。 ・プライバシーの確保のためにパーテーションを設置したりた。

### 11 災害対策とその効果

11	は古刈束とてい	の初末				
被災前		想定日数 (被災時に十分だったか)				
物資の備蓄		3日	地震時の想定			
	被災後	想定日数				
	1奴火1友	3日				
		想定規模	大規模広域災害	単体施設災害・事故		
		想定災害	<b>注書</b> 地震 火災・その他			
避難訓練	棟の実施状況	訓練頻度				
世無訓練の美旭仏が(被災前)		備考	・地震に関しては、鉄筋コンクリート造なので外に逃げるよりは室内にいた方が安全だと判断している。 ・地震時にはライフラインが分断された際の過ごし方について検討している。			
被災前の避難訓練で効果があったと思う点		<ul><li>避難生</li><li>はエア</li><li>火災訓</li></ul>	マットがなかった。	団・枕・薬がなかった。寝たきりの人に マニュアルがあったので、役割分担はし		
現在の避難訓練		(被災前との変更点) ・布団・枕・薬・個人情報といった無くしては困るもの・避難生活で最低限必要なものをユニットの玄関まで持ち出す。 ・避難完了までの目安時間は、1人当たり自動車での移動が往復10分(片道5分)+車椅子での乗降3分=計13分。36名×13分=468分。車両7台だと、約1時間。これを想定している。一つの施設でこれをやるには限界があるため車両と人の応援が必要になる。 ・実際の避難時には運転手も降りずピストン輸送した。車の後ろのハッチを開けて、スロープ出して、乗せて、安全ベルトつけるまで一人で行った。大型車に複数台の車椅子を乗せるよりは、軽四自動車に車いすを1台乗せていった方が早いと考えている。軽自動車であれば、一般の職員でも運転できる。また、転倒が怖かったので、歩ける人も車椅子に乗ってもらった。				
被災前と現在の防災・ 減災への意識		【 被災前 】       【 現在 】         5段階評価: 1       5段階評価: 4         ※5が意識が高い				
現在の防災教育で使用 している教材		※ 手引き作成に重要な内容 特になし				
職員への防災教育 (被災前・後) 現在の BCP の策定状況		被災後: た)台 バイル どをネ	風が近づいたときは、そのグル- バッテリーはあるか・停電しても	(ガラケーの人もスマホに変えてもらっ一プラインで、備えができているか・モル水道は出るか・停電時に必要なものないる。雨が長く続くときはみんなで雨カメラを確認したりしている。		

## 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携)[被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]	何かあれば助け合う。	[被災後の変更]	変更なし
他施設との連携	[被災前の備え]	<ul><li>・倉敷市内の特養とは連絡協定ができている。</li><li>・グループラインで、何かあったら、「どこどこに 10 人、どこどこに 10 人お願い」という連絡ができるようにしている。</li></ul>	[被災後の変更]	変更なし
医療機関との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
行政との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
地域住民との連携	[被災前の備え]	なし	[被災後の変更]	なし

### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

※避難確保計画を作っているか、また、ハザードマップを確認しているか。 水害の時に大切なのは、ハザードマップを把握すること。避難場所に行く手段、避難完了までの時間、 誰が手伝ってくれるか、あとは行動力。

### 14 もしあの時こうしていたらというポイント

避難生活までは想定していなかった。布団・枕・薬がなかった。寝たきりの人にはエアマットがなかった。

### 調査概要

- ・2018年7月の西日本豪雨により大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備地区に位置する地域密着型特別養護老人ホーム。氾濫した小田川の支流である末政川から数百mの場所にあり、ハザードマップでは浸水区域にある。近隣の高台には同一法人の広域型特別養護老人ホームがある。
- ・7月6日の正午に大雨特別警報が出る。避難勧告が発令されればすぐに同一法人の広域型特養に全員が避難する準備を行う。避難用の自動車、スタッフの手配を行う。22時に避難勧告が発令。外に出ると道路が川のようになっている。軽自動車を使って1台に主に1人の利用者を載せて、広域型特養に利用者を誘導する。全員が避難後に施設が浸水。1階の天井まで浸水する。利用者は広域型特養にて避難生活を送る。
- ・浸水後の建物は洗浄、大規模修繕の上、再利用する。什器はすべて泥に浸かっているため廃棄した。内装もすべて取り換え、躯体だけのスケルトンの状態にしてから再利用している。浸水から半年後に再始動する。



位

図

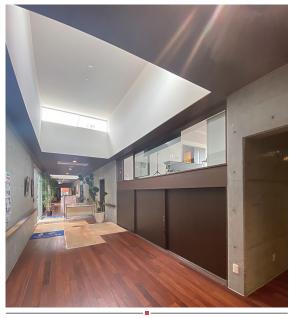
# 写真



\_\_\_\_ 施設外観



デイサービス



施設内1階廊下



\_\_\_\_ 施設内中庭





------地域交流スペース

### 社会福祉法人 キングス・ガーデン埼玉

# 川越キングス・ガーデン

旧施設: 〒 350-0812 埼玉県川越市下小坂 1130 所在地

現施設: 〒 350-0806 埼玉県川越市天沼新田 247-2

2022年 調査日時 10月12日 対応者 (役職) 施設長、事務局長

山口\*、大村、中村 調査員名(※記録者)

### 1 施設概要

施設種別	特別養護老人ホーム	開設年	1991年5月	定員	・特養 80 名 ・ショートステイ 20 名
併設施設	・短期入所生活介護、デイサービ ・旧施設: A 棟; ショートステイ ・ A 棟に 20 名、 B 棟に 50 名、 (				
階数	旧施設:平屋一部2階建て 現施設:2階建て		構造種別		设:鉄筋コンクリート造 设:鉄筋コンクリート造
設計者	旧施設:半田設計事務所 現施設:奥野設計		施工者	11-1/3-2-10	设:岩堀建設 设:大和リース
立地の特徴	・旧施設は小畔川から 500 m程度の距離にある低地に立地していた。 ・低地であるため水が溜まりやすく、敷地周辺が浸水していた。 ・ハザードマップによる浸水高さは 4 m。				

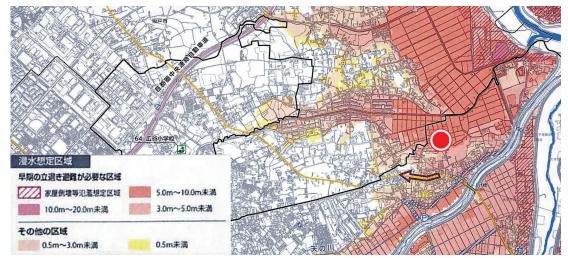
### 2 主な被災状況

当該地域の浸水高さ	旧施設:2m の土盛り 現施設:土盛り無し	被災判定	半壊
対象地域の気象情報のタイムライン ・2019年10月12日に台風19号が上陸するとの予報あり ・21時ごろに台風が通過。その後、越辺川の越水で堤防が			
周辺地域の浸水の状況	・夜にかけて水位が上がり始める。午前 0 時の時点で 10 段あるり口の階段の 8 段目まで来ていた。 ・その後、急に水位が上がり下からあふれでてくるように水位な 昇した。1 時半ごろに避難を開始し、1 時間半で避難は終了し		るように水位が上
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	なし		

#### 建物被害の概要 3

地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	地域全体が浸水。土砂災害等はなし。
構造体の被害状況(特に基礎構造)	基礎構造、主要構造部の陥没と傾きあり。
外装材の被害状況 (屋根、壁) 等	外壁は 1.5 mの浸水あり。浸水部分の外壁は被害を受ける。
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	・A 棟事務室は 1.5m 床上浸水。 ・浸水高さまでの内装材、什器はすべて被害を受ける。 また、理事会の議事録は 1.8m の棚の上で濡れずに済んだ。
家具・什器備品の被害状況 (棚、ベッド、車いす)等	・ベッドなどの什器はすべて被害を受ける。 ・パソコンは高い位置に避難させていたが、いくつかの PC が被害 を受ける。水没したハードディスクは 4 つのうち 3 つは無事であ り、給与伝達のパソコンも無事であった(その週に給与送金を行 うことができた)。
使用不可になった部屋	浸水のため全室使用不可。
ハザードマップ	次ページに掲載

### ハザードマップ



川越市役所建設部「水害ハザードマップ 9.川鶴地区北部、霞ケ関北地区北部、名細地区、山田地区西部 (2022 年 6 月更新)」を元に執筆者が作成(令和 5 年 2 月)

### 4 被害の状況(ライフライン)

	停止の有無	復旧までの期間				
水	復旧までの対応	・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。				
	代替手段	・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。				
	停止の有無	有 復旧までの期間 7日後				
電気	復旧までの対応 代替手段	・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。 ・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。 ・3時から4時ぐらいの間に停電。 ・C棟の2階への階段での避難は人力にて行った。				
	停止の有無	復旧までの期間				
ガス	ガスの種類					
/3/	復旧までの対応 代替手段	・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。 ・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。				

### 5 設備の被害状況

	給水	<ul><li>・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。</li><li>・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。</li></ul>
	給水方式	
	受水槽の位置・容量	
給排水設備	被害状況・対応	<ul><li>・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。</li><li>・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。</li></ul>
和护小冠刑	給湯	
	被害状況・対応	<ul><li>・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。</li><li>・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。</li></ul>
	排水	
	被害状況	<ul><li>・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。</li><li>・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。</li></ul>
	受変電設備の位置	
	消防用非常用電源	有(スプリンクラー+室内への供給)
電気設備	非常用発電	
电水収開	非常用電源設置場所	
	被害状況	<ul><li>・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。</li><li>・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。</li></ul>

	空調方式		熱源				
空調設備 ・一晩垂直避難した後、利用者は川越市内の施設に避難。 ・浸水していない地域ではライフラインの停止は無かった。							
通信設備	施設外(電話・通信 設備等)の被害状況	・浸水後も川越市とは携帯電話を用いて連絡を行う。水害の1週間 ほど前に川越市から非常時に備え施設の固定電話以外の連絡先と して、施設長の携帯電話を伝えていた。 ・川越市とは普段から連絡を取りやすい関係であった。携帯電話を 使って被災当日から入居者の受け入れ先を調整する。					
	施設内(ナースコール等)の被害状況	被災時(一晩)には集まって 使用は無し。	被災時(一晩)には集まって避難していたためナースコールなどの 使用は無し。				
	エレベーター	C 棟のエレベーターの設置有	(垂直避難時は停電のため使用不可)。				
搬送設備	リフト	設置なし					
	(階段)						
	入浴設備	入居者は翌日から川越市内等の施設に避難。					
	代用方法						
	給食システム	入居者はそれぞれの施設で対応。					
ライフライン	代用方法	<ul> <li>・職員とボランティアに向けて教会による炊き出し。</li> <li>・教会の人が作り施設まで運んできてくれた(3月末まで実施)。</li> <li>・職員とボランティアが和むことができる空間と時間になった。</li> <li>・途中からは、厨房スタッフを炊き出しに派遣した。</li> </ul>	今後の改善点				
	ランドリー設備						
	代用方法	介護活動なし	今後の改善点				
その他	自然エネルギーの活用						

### 6 被災時の対応

り、一切なっては、ことが、		
災害発生時の [初動の職員の役職		・通常の夜勤体制は5名であるが、被災時は台風の上陸を 予想して19名の職員を増員して対応。 ・施設長も当日は宿泊にて対応。
災害発生時の指揮系統 誰が指揮を執ったか 時系列に		・施設長が宿泊しており、施設長が指揮を執る。副施設長も宿泊しており、副施設長が30分毎に玄関前の水位を確認する。 ・0時に10段ある玄関前の階段の8段目まで水位がくる。1時半に避難棟であるC棟(1,2階に分散)へ避難を施設長が指示。C棟も浸水の危険性があることから全員C棟2階へ避難することを指示する。 ・施設長は声掛け・見回り。1人1人は普段のケアの延長で臨機応変に動いてもらった。
被災(浸水)に至るまでのプロセス(気象情報の把握時期、避難準備の状況、情報収集、避難開始時期など)		・入居者は、特養 79 人、ショートステイ 21 人の計 100 人。 ・事前に車いすを廊下に設置し、ベッドも動かしやすいように準備しておく。また、重度者は夕食後の排泄ケア後、事前に避難棟に移動。その他の人は 13 日午前 1 時半に避難開始。A・B 棟から C 棟へベッドごと移動。ベッドで移動した人が多かった(2 人がかりで移動)。 ・混乱している入居者もいたが転倒事故もなく避難完了。・その後、水位が上がってきたため、全員が避難棟の 2 階に移動。当初、C 棟 2 階にはショートステイの人が避難していたが。その後、全員が 2 階に移動した。

被災(浸水)に至るまでのプロセス(気象情報の把握時期、避難準備の状況、情報収集、避難開始時期など)	スタッフ間の対応 (情報共有など)	・12 日午前中から夜に備えての準備。人員確保しながら公用車・私有車を移動。自治会の駐車場や近隣の建設会社の駐車場に夕方までに移動させる。垂直避難に備えて、物品の確認の指示。物品は移動しやすいようにカート等に載せる。水の確保(飲み水用とトイレ等の介助用で分ける)。ベッドの配置(4 人部屋を7 人部屋にする、食堂等にベッドを置く)のイメージを共有。 ・夕食時には、玄関前の階段の5段目まで水が来ていた(台風や急激な雨がこれから予想される時の垂直避難の目安)。雨の状況から余裕があると判断し、避難せず待機。その間に職員が様々なアイデアを出した(重度の方の事前移動、テーブルのロックをオフにしておくなど)。 ・13 日 0 時過ぎ、夜勤以外は休むように指示。この時点では8段目までであった(水位は副施設長が30分おきに確認)。 ・1 時半、堤防の決壊により急激な水位の上昇。床上浸水。避難を開始する。車いすで移動するかベッドごと移動するかは、介護職員が心得ていた。
浸水直後の状況	入居者への対応	・13日3時、避難完了(約1時間半。約70名。30名ほどはすでにC棟に避難)。避難後、点呼。 ・職員が海の歌(童謡)を歌ったり、ゲームをしたりして和ませる。 ・途中でC棟2階にあがる判断をしたが、停電でエレベーターが使用できなかった。避難灯と懐中電灯のみで、ほとんど真っ暗な状態で階段で抱えながら運ぶ。毛布等でくるんで6、7人で運んだ。自力で階段を昇れた人は5%ぐらい。職員が5人かかりで車椅子ごと運んだ人もいた。4時ごろに2階への避難完了(1時間はかかった)。 ・運ばれている間、お年寄りは状況を察してか静かだった。全員が2階に避難してからは、少し不安定になる(声を出す、いざこざ)。 ・翌朝は、疲れ切った様子で、口論が起こったりした。朝食はパンとペースト、水分補給等のケアを行う。 ・夜間に、避難所と入居者の受け入れたの確保を川越市に依頼。翌日には、素早く受け入れに来てくれた。 ・施設からは、ボートで避難。水位が下がってくると、ボートとの段差ができ、乗り移ることが困難になった。寝たきりの人は、1人しか乗せられなかった。70回ぐらい往復して運んでもらった。消防のボートは、人しか運べないため、事前に用意していたベッドマットは運べなかった。・救助を行っていたラフティングクラブの人が食品やベッドマットを運んでくれた。陸地までは500mぐらい。陸地から避難所までは車で(点呼してから)。昼から日没ぐらいまで続いた。一度全員体育館に避難してから、受け入れたへ移動した(誰がどこに行くのかを把握するため)。
	スタッフ間での対応 (情報共有など)	・入居者避難完了後、予め用意していた物品を移動。 ・膝上ぐらいまで浸水した段階で、物品を運び出すのをやめるように指示。お年寄りのところにいるように指示。 ・最終的には、C棟1階床下3cmで水位の上昇が止まった。 ・渡り廊下の窓から見える外の水位と建物内の水位を比較して、2階へ避難するかの判断をした。

### 7 浸水から一定時間が経過した後の対応

地域住民等 被災者の受入状況	・なし ・ボランティア(社協から派遣、もしくは、普段から手伝ってくれている人や家 族等)が来てくれた。ただ、うまく調整ができなかったりした。ボランティア の保険の加入に課題があった(社協で加入すれば保険料無料)。			
	3日間	(入居者) ・夜間に、避難所と入居者の受け 入れ先の確保を川越市に依頼。 ・翌日には、素早く各施設の受け 入れ体制ができていた。 ・ショートステイの21名は、別	(受入れ者) ・17 施設。 ・空きベッドやショートステイの 部屋で受け入れるところもあれ ば、緊急事態ということで定員 オーバーでも受け入れてくれると	
受け入れ者、入居 者の状況 (居場所の確保)	7日間	の施設のショートステイの移動 もしくは、自宅への帰宅となっ た。 ・特養79名は、近隣の17施設に 分散して避難した。	ころもあった。 ・受け入れ先側も時間が経つと困惑している部分もあった。職員のストレス増、措置として受け入れてるかが分からないなど。	
	1 カ月	・13日の夕方には、全入居者がぞれぞれ別の施設への移動が完了した。 ・家族としては施設が何回も変わることへの懸念があり調整が難しかった。	・措置かどうかは、川越市の判断による。施設ごとの金額の違いもあった。加算の分については、川越市が判断。 ・施設の負担が大きくなため、最終的に35施設に分散。	
	3日間	<ul> <li>・まずは、被災施設の復旧作業してもらった。</li> <li>・ひと段落すると、仕事がなくなってきて、不安になってやめる職員もいた。</li> <li>・入居者を受け入れてくれている施設へ職員を派遣した。翌年にコロナが流行ってからは、施設から断られたりした。</li> <li>・理事会で、「職員を辞めさせないように」との話し合いがあり具体策を</li> </ul>		
スタッフの確保	7日間	与は減額せずに支払った。出向先 じる場合は、こちらで上乗せして ・出向先から職員の働き方に対する 間関係の問題、仕事内容の問題に	量の出向の検討した。職員の給与・賞品から支払われる給与との間に差が生支払った。 らクレーム、休みの問題、職員間の人に関する指摘もあった。初めて、障害のていた職員もいたが結果としては良	
	1カ月	い経験ができたと思う。他の施設から得られるものもあった。 ・出向期間は長い人で2年2,3カ月(再オープンして1,2ヶ月遅れて戻る。出向先の施設の都合等のため)。ほとんどの職員が戻ってきた。そのまま出向先の施設で働いた人もいた(出向先の施設と話し合って、穏便に退職してもらった)。家庭の都合で退職した人もいた。		
職員へのケアとして取り組んだこと(職員の家族の安否、職員の家屋の被災、メンタルケアなど)	その ・職員 ・出向 設に	はのメンタルケアのためにも、1 日の付けのメンタルケアのためにも、1 日の付けあったことの聞き取りを行った。 はとの話し合いの中で今後の目標(最終した職員には、臨時の出向職員用機同になる入居者の状態を伝えられるように ないる入居者の状態を伝えられるように	冬的には移転)を共有した。 関紙を作成し郵送した。応急仮設施 にした。時々、出向している職員に	
併設事業の状況(利用者への対応、通所・訪問の継続・休止など)		短期(通所・ショートステイ)の継続 &、ショートステイ、デイサービスの:		

### 8 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

- ・被災する前日の昼間からの準備はできていた。
- ・マットレスなどの物品についてはボートの都合上、避難所へ持っていくことが 困難であった。
- ・結果としてラフティングクラブの救助ボランティアが運んでくれた。

### 9 外部からの支援

- ・法人内での連携
- ・他施設からの支援
- ・医療機関との連携
- ・行政との連携
- ・地域住民との連携

#### (人)

川越市と、昼の準備段階から連絡(避難所と入居者受け入れ先の確保)。

#### (物資)

教会から炊き出しの支援 を受ける。

#### (お金)

- ・水害保険で満額(再建 に使う)。
- ・災害復旧補助金、在宅 系の補助金、福祉医療 機構、献金

### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

10 被災後の	)対応(建物の作	<b>参繕、施設の移転など)</b>
	内容	・別敷地に完全に移転。2022年1月竣工。2月1日入居開始。 ・2019年10月15日、災害対策本部立ち上げ。今後について話し合う。 ・10月の時点で旧施設での再開はしないことを決定する。水害による 浸水は2回目であり、かつ、床上150㎝の浸水があったことから旧 施設の再開は危険と判断する。 ・11月上旬、川越市長に移転復旧と福祉仮設住宅の申請。市長→埼玉 県庁→厚生労働省にて検討される。 ・土地探しが難しかった。高台という条件と応急仮設施設の期限である 2年以内に建てられるかが課題であった。下水や埋設物など土地の造 成に時間がかかると2年を超えてしまうため、課題の無い土地を選ん だ。 ・設計と建築業者を一緒に決めるプロポーザル方式をとった。工期が余 裕持って終われる業者を選定した。工期は1年半。 ・もとの施設は解体する予定。更地にした後の用途は未定。
	費用	・主な建設費は土地代が 2 億 2516 万円、建築費(補助金の対象となった分)が 18 億 5923 万円である。 ・建設費の資金は、災害復旧補助金 13 億 8000 万円(在宅系の補助金も含むと約 14 億)、福祉医療機構からの借り入れが 7 億 5600 万円(水害のため無利子)、保険を含めた自己資金が約 4 億円、その他、寄付金もあった。
7.世紀の仮発。	期間	1年半
建物の修繕・ 改修 移転の場合は その内容	工事中の対応	<ul> <li>・応急仮設施設に入居および別の施設へ転居。</li> <li>・介護報酬の請求については、10月・11月はキングス・ガーデンから請求。その報酬を、それぞれの施設に支払う。(部屋代や加算の違いから受け入れ先の施設が受け取っている報酬と異なることもあった)</li> <li>・12月~3月末までは、仮入居という形で、その施設から直接請求してもらう。介護報酬に差額がある場合は、川越市が負担。</li> <li>・2020年3月末に応急仮設施設が完成。79名中63名が帰ってきた(亡くなった方やそのまま別の施設に残った人もいた)。</li> <li>・建設は大和リース。すべて4人部屋。介護保険の基準通りに作ってもらったので過ごしやすかった。</li> <li>・水道光熱費は入居者の数で割って支払ってもらっていた。</li> <li>・2年間で、63名から48名になり、居住費が高くなり収入も減った。</li> <li>・応急仮設施設に新規受け入れはできなかった(被災した人のみ)。自前で福祉住宅を建てるのであれば、新規受け入れはできた。</li> </ul>
	工夫した点	<ul> <li>・再建した施設は、災害復旧法により基本的には旧施設と同じ機能、広さにしなけらばならない。面積や部屋の割合は旧施設と同等となる。ただし、法律の変更により1人あたりの面積が大きくなった分に関しては、広くした。</li> <li>・また、旧施設と同様でなければならないが、埼玉県の基準に従って、トイレの数を増やし、使いやすさを考えたレイアウトとした。</li> <li>・改善点:断熱性能(省エネ基準、ZEBに沿い二重窓とした)。耐震基準も現行法規に合わせた。</li> <li>・夜勤の人がやりやすいように、ゾーニングも考慮。各階50人ずつになるように調整。感染症対策としてセクションを区切る防火戸とパーテーションを設置した。</li> </ul>

### 11 災害対策とその効果

た中へ	災前	想定日数	(被災時に十分だったか)		
1)又少	人則	3日	入居者 100 人分。		
		想定日数	・入居者 100 人分。		
物資の備蓄被災	災後	3∃	<ul> <li>・3日間は電気が使える。発電機で現場の大きなエアコンは動かせるようになっている。応急仮設施設の時に停電が起こり、エアコンが使えなくて不便であったため。</li> <li>・水は36t。井戸水も使えるか調査中。使えたら、近隣にも支給できる。かまどベンチを設けており炊き出しも可能である。</li> <li>・他のキングス・ガーデンからの受け入れも想定している。</li> </ul>		
		想定規模	大規模広域災害	単体施設災害・事故	
避難訓練の実施物	Q:4	想定災害	地震・ 水害	火災	
(被災前)	八//L	訓練頻度			
(mxxenu)		<ul><li>・雨で近くの越辺川から道路に水があふれるのは毎年のこと。</li><li>・そのため、備品の移動と C 棟への避難の段取りは考えていた。</li></ul>			
被災前の避難訓練 効果があったと思		(良かった点・悪かった点・有効性) ・普段から越水していたため、実地訓練ができていた。 ・日ごろから職員に水害のイメージができていた。			
現在の避難訓練		<ul><li>・水害の説</li><li>・火災は</li><li>水害時に</li></ul>	この変更点) 壁難訓練は検討中である。 している。近くの施設を助けに行 は2階に。 では倒壊しないはず。	けるようにするつもり。火災時は外に、	
被災前と現在の防災・ 減災への意識		【 被災前 】			
現在の防災教育で使用 ※ 手引き作成に重要な内容 している教材			IBAV IFIV		
・ 入居者を守るという立場の理解。建物の特徴の把握など。 ・地域の方の受け入れ態勢を作る。日ごろから在宅の人には防災に関 スを行う。地域から頼られる施設になることを目指している。		から在宅の人には防災に関するアドバイ			
現在の BCP の策定	状況	BCPにつ	いては策定済み。		

### 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携)[被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]	協定はないが、日ごろ から助け合う。	[被災後の変更]	変更なし
他施設との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
医療機関との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
行政との連携	[被災前の備え]	川越市と連絡を取りや すくしていた。福祉避 難所の指定。	[被災後の変更]	新たな施設でも福祉避 難所の指定を受ける予 定。
地域住民との連携	[被災前の備え]	教会とのつながり(キリスト系の施設のため)。	[被災後の変更]	在宅介護の手助けができ ればいいと考えている。

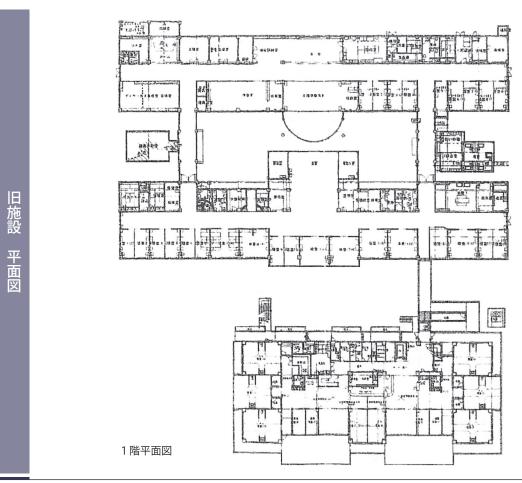
### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

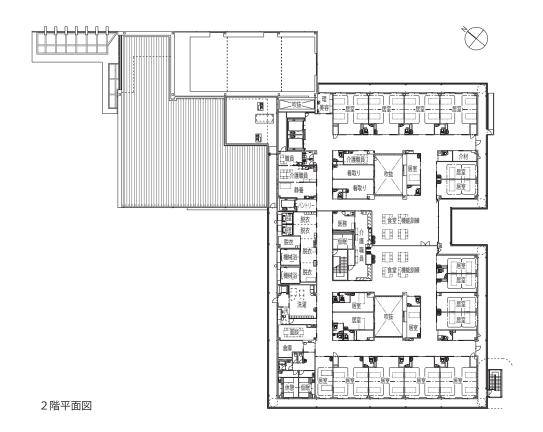
### 14 もしあの時 こうしていたらというポイント

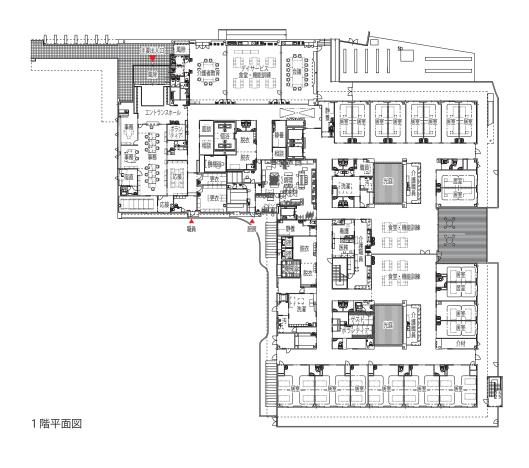
- ・消防のボートは、介護用の物品も運べるようにすべき。ベッドマットは、事前に用意しておくべき。
- ・パソコンのデータはクラウド化すべき。本体、クラウド、もう一ヵ所の3か所に保存できるように。
- 水没・ブラックアウトに備えるべき。

- ・川越市にある広域型特別養護老人ホーム。低地に位置しており大雨が降ると周囲が浸水することはこれまでもあった。
- ・2019 年 10 月 12 日に上陸した台風 19 号により、13 日の未明に越辺川の堤防が決壊し、大量の水が敷地周辺に流れ込んでくる。 施設は  $1.5\,\mathrm{m}$ のかさ上げを行っていたが、それでも最大で  $2\,\mathrm{m}$ の高さまで浸水する。
- ・12日の段階で避難に向けての準備を行い、12日の夜は施設長を含め19名の職員が施設にて待機する。
- ・13 日午前1時半ごろから避難棟であるC棟に避難し、その後、水位が上がってきたためC棟の2階に避難する。全員が無事に避難を完了する。13 日は全入居者をボートで安全な場所まで避難させる。その後、入居者は近隣の施設が受け入れ先となり分散避難する。
- ・被災した旧施設での再開は危険と判断し、2年間の応急仮設施設での避難生活を経て、川越市内に新しい施設を建設する。









## 写真



(移転前) 玄関前階段の段数で水位を測る



(移転前)避難棟2階



(移転前) ボートに乗り避難した場所



(移転前) 既存棟のホール



(移転後) 外観



(移転前) 避難棟 2 階へ至る階段



(移転後) 広いベランダ



(移転後) 書庫

### 事例

### 3

## 社会福祉法人 寿康会

# 平成の杜

所在地	〒 410-1311 静岡県駿東郡小山町小山 255-2		
<b>細木口</b> 吽	2022年	対応者 (役職)	施設長
調査日時	10月13日	調査員名(※記録者)	宮崎*、平井、中村

# 1 施設概要

132771711					
施設種別	地域密着型特別養護老人ホーム	開設年	2011年5月	定員	・特養 29 名 ・ショートステイ 5 名
併設施設	・特別養護老人ホーム(南側1階)、短期入所生活介護、デイサービス20名前後 ・養護老人ホーム(定員50名、ショートステイ2名、計52名、2階建て)当日34名 ・養護老人ホームは、2023年3月末で廃止した。現在、養護老人ホームは措置対応で、どこも空いている状態。平成の杜でも3月末では空き24名の状態だった。現在は空き室状態。 ・近くの広域型特養から50人移ってくる(そちらの施設の老朽化のため)。同じ建物に2つの特養がある形に(同法人)。				
階数	東側:2階建て、南側:平屋建て	-	構造種別	鉄骨造	<u> </u>
設計者	新環境設計(福祉施設の設計) 施工者 臼幸産業		<b>産業</b>		
立地の特徴	土砂災害特別警戒区域(平成 22 年 9 月大雨)				

### 2 主な被災状況

当該地域の浸水高さ	域の浸水高さ 床上 60 cm 部分 被災判定 半壊		半壊
対象地域の気象情報のタイムライン	<ul> <li>・令和元年10月12日、台原</li> <li>・午前10時半:避難勧告。</li> <li>・昼食後、全員2階に避難。</li> <li>・夕方16時:トイレの警報</li> <li>・19時:静岡に台風上陸、係多く)。</li> <li>・19時20分:ご近所の方が連絡。</li> <li>・19時半ごろ:1階南側食がきていた。</li> </ul>	がなる。 亨電に備え、職員 が、施設裏の水路	があふれていることを
周辺地域の浸水の状況	被害にあったのは、平成の村	tだけ。浸水した	家はない。
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	なし		

## 3 建物被害の概要

地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	土砂崩れ
構造体の被害状況(特に基礎構造)	なし
外装材の被害状況(屋根、壁)等	
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	・窓ガラスが 1 枚だけ割れ、そこから一気に水と土砂が流れてきた。 ・特養は床上 1.8m 部分の壁取り換え。消毒して復旧。 ・養護老人ホームは、20 cm浸水。消毒して 2 週間ぐらいで使える ようになった。その後 90 cm部分の壁取替え。 ・居室は床張り替え。水をぬいて消毒。
家具・什器備品の被害状況 (棚、ベッド、車いす) 等	特養の家具は全部取り換え。電動ベッド、テーブルなど。
使用不可になった部屋	事務所(パソコン、FAX)。
ハザードマップ	次ページに掲載





黄色の区域 (土砂災害警戒区域)

- 土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が及などには十分注意を払ってください。
- **橙色の区域(土砂災害特別警戒区域)** ↓ → 土砂災害が発生した場合、建物等に損壊が生じ、住民の 難行動をとってください。

小山町役場建設課「小山町土砂災害ハザードマップ 小山1区2区(令和3年3月作成)」を元に執筆者が作成(令和5年2月)

### 被害の状況(ライフライン)

	停止の有無	有	復旧までの期間	6 日後
*タ方 4 時ぐらいから排水できなかった。				
	停止の有無	無	復旧までの期間	
電気	復旧までの対応 代替手段			
	停止の有無	有	復旧までの期間	12 月末まで
ガス	ガスの種類	プロパンガス		
	復旧までの対応 代替手段	カセットコンロで調理。		

#### 設備の被害状況

	給水	
	給水方式	
	受水槽の位置・容量	
給排水設備 ——	被害状況・対応	・受水槽に土砂が直撃。水が出せるようになるまで6日間。 ・4日目に受水槽からホースを2階につないで、調理に使用。
	給湯	
	被害状況・対応	近くの温泉へ。
	排水	
	被害状況	・排水できない。トイレが流せるようになるまで 11 日間。 ・それまではポータブルトイレ。

	受変電設備の位置			
電気設備	消防用非常用電源			
	非常用発電			
	非常用電源設置場所			
	被害状況	発電機は備蓄としてある	<b>5</b> 。	
☆===0/#=	空調方式		熱源	
空調設備	被害状況	被害なし		
冷急が	施設外(電話・通信 設備等)の被害状況	<ul><li>FAX、パソコンが使え</li><li>他施設の施設長が持っ</li></ul>	=	巻をする。
通信設備	施設内(ナースコール等)の被害状況			
	エレベーター	停止		
搬送設備	リフト			
	(階段)			
	入浴設備	水が使えないため、入れ	谷設備も使えない。	
	代用方法	近くの温泉。風呂2台。	今後の改善点	
	給食システム	厨房が使えるようになる	るまで2カ月半。	
ライフライン	代用方法	<ul><li>・2 階廊下で調理。</li><li>・窓からホース入れる。</li></ul>	今後の改善点	カセットコンロ用のガ スの本数を増やす(現 在は100本)。
	ランドリー設備	<ul><li>初めは水がなかったたンドリーに。</li><li>養護老人ホームの洗濯</li></ul>		た。そのため、コインラ
	代用方法	コインランドリー (他施設のボランティア)	今後の改善点	
その他	自然エネルギーの活用			

## 6 被災時の対応

U	10次次中でファンルい				
災害発生時の職員配置 [初動の職員の役職と連絡体系]			・入居者は、特養 29 名、ショートステイ 5 名、養護老人ホーム 34 名。 ・ 4 人 (養護老人ホーム夜勤 1 人、特養夜勤 2 人、日直 1 人) + 5 人の計 9 人。		
災害	発生時の指揮系統論	が指揮を執ったか			
での 報の排 の状況	(浸水)に至るま プロセス(気象情 巴握時期、避難準備 兄、情報収集、避難 時期など)	入居者への対応	<ul> <li>・19時34分:特養34名を2階へ避難。ベッドごと移動。8台のベッドを移動</li> <li>・20時10分;エレベーター停止。20時25分消防団到着。</li> <li>・22時:雨がやむ。</li> <li>・2階では、廊下や空いている個室で過ごしてもらった。初めの8人以外は、ベッドがなく、車椅子移動。そのため、ソファーや床に布団を敷いた。ベッドで移動した人は、車椅子なし。</li> </ul>		
		スタッフ間の対応 (情報共有など)	・静岡県東部の老施協に前の日に連絡をしていた。 ・被災した場合の受け入れ要請。		
浸水直後の状況		入居者への対応	<ul> <li>・13日:特養の25名が近隣の施設へ受け入れ。</li> <li>・13日朝5時:調理スタッフがくる。6時:職員や小山役場に連絡。</li> <li>・13日夕方:自衛隊到着。土砂撤去。</li> <li>・14日:土砂全て撤去。ショートステイの人は、家に帰ってもらった。</li> <li>・全ての工事が終わり、元の生活に戻るのに半年。</li> </ul>		
	スタッフ間での対応 (情報共有など)	・職員と他施設の施設長で、特養の入居者の受け入れ先を仕分ける。 ・電話と G メールでやり取り。			

### 7 浸水から一定時間が経過した後の対応

7 /2/3/13 J /LF1	及があり、たち間の性色でに及うが心					
地域住民等 被災者の受入状況	20時25分:消防団と一緒に地域住民5人、犬一匹が避難。2階へ避難。					
W11-3-40-47 3-12	3日間	<ul><li>(入居者)</li><li>・特養の人は近隣の施設へ。特養の方はここでは過ごしていない。</li><li>・養護老人ホームの人は2階へ。</li><li>・ベッドに空きはあった。</li><li>・13日、25人移る。</li><li>・14日、3、4人移る。</li></ul>	(受入れ者) ・近隣の高齢者施設 7 施設と病院の計 8 か 所 ・施設と静岡県で防災 の協定。施設長がそ の役員。			
受け入れ者、入居 者の状況 (居場所の確保)	7日間	<ul><li>(入居者)</li><li>・1 ~ 2 週間で戻り始める。</li><li>・10月24日5人、10月28日2人。</li><li>・10月30日1人、11月1日3人。</li><li>・工事中だったので、12人のスペースで</li></ul>	<ul><li>・災害を想定をして訓練はしている。その防災協定が初めて活きた。</li><li>・静岡県東部の老施協</li></ul>			
	1カ月	17人ぐらいが過ごす。 ・残りは半年間預かってもらったまま。 ・翌年3月末再スタート。 ・あとの人は、特養が直ってから戻ってきた。	に前の日に連絡をし ていたため、朝から 動き出してくれた。			
	3日間					
スタッフの確保	7日間					
	1カ月					
職員へのケアとして 取り組んだこと						
併設事業の状況						

#### 8 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

- ・現在も2階に。
- ・災害時も非常食(使い捨て食器含む)は1日分2階に置いていた。ミキサーにするカッターなどは1階にあったので、2階へ運んだ。
- ・すぐに何でも買えた(平成の杜だけ被災したため)。
- ・入居者は、水だけでは飲まない。ジュースやお茶等で飲む。アルファ米はぱさぱさして食べにくそうだった。

#### 9 外部からの支援

・法人内での連携

(人)

(物資)

(お金)

- ・他施設からの支援
- ・医療機関との連携
- ・行政との連携
- ・地域住民との連携

()()

- ・自衛隊
- ・ボランティア

炊き出し

- ・レトルト
- おかずの調理

### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

建物の修繕・ 改修	内容	・機械が入らないところの土砂回収を手作業で行ったのは、自衛隊。2日で終わる。 ・東海北陸厚生局が来て金額を相談した。 ・特養壁取り換え、床張り替えなど。
移転の場合はその内容	費用	・備品購入と工事に、1億2000万の補助。持ち出しは2000万以上。 ・保険は使っていない。
	期間	3月末再スタート。厨房は12月。
	工事中の対応	特養の入所者は近隣の施設で避難生活。
	工夫した点	

### 11 災害対策とその効果

	•					
4-70 m±	被災前	想定日数 (被災時に十分だったか)				
物資の備蓄	被災後	想定日数	<del></del> 2 階にある。			
		想定規模	想定規模 大規模広域災害 単体施設災害・事故			
		想定災害	地震	火災・土砂崩れ		
避難訓練の	実施状況	訓練頻度				
(被災前)		備考	・あらゆる場合の避難訓練はしていた。			
被災前の避難訓練で 効果があったと思う点		(良かった点・悪かった点・有効性) ・薬、食べ物、吸引器など必要なものを一緒に運んだ。 ・地域的に土砂崩れの想定はできていたため、早めに避難できた。				
現在の避難訓練		<ul><li>(被災前との変更点)</li><li>・垂直避難を想定。ベッドで2階へ移動できるように訓練。</li><li>・2階の避難配置。</li><li>・災害時の職員体制の見直し。</li></ul>				
被災前と現在の防災・ 減災への意識		【 被災前 】       【 現在 】         5段階評価: 4       5段階評価: 5         ※5が意識が高い		5段階評価:5		
現在の防災教育で使用 している教材		特にない				
1,,,,,	<ul><li>・全員がライフラインを整えられるようにした。</li><li>・発電機の使い方、備蓄の場所などの把握。</li></ul>					
現在の BCP の策定状況		BCP で	ドの理解(職員、利用者の自宅含む) の変更点は、早めに避難開始する	)、重要業務の整理、職員参集体制の確認。 こと。要介護者にとって生活の場所が変 いという訳ではないところが難点。		

### 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携) [被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
他施設との連携	[被災前の備え]	防災協定	[被災後の変更]	
医療機関との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
行政との連携	[被災前の備え]	防災協定	[被災後の変更]	
地域住民との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	

### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

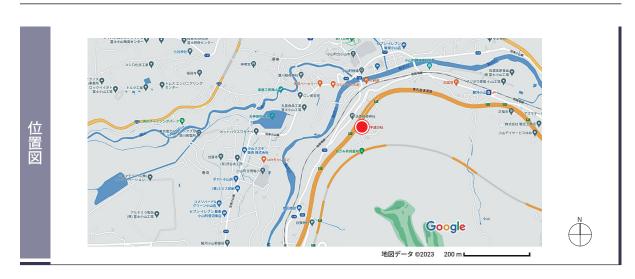
※ 避難確保計画を作っているか、また、ハザードマップを確認しているか毎日の人数確認。あらかじめ社協に連絡。社協とつながりを持つこと。

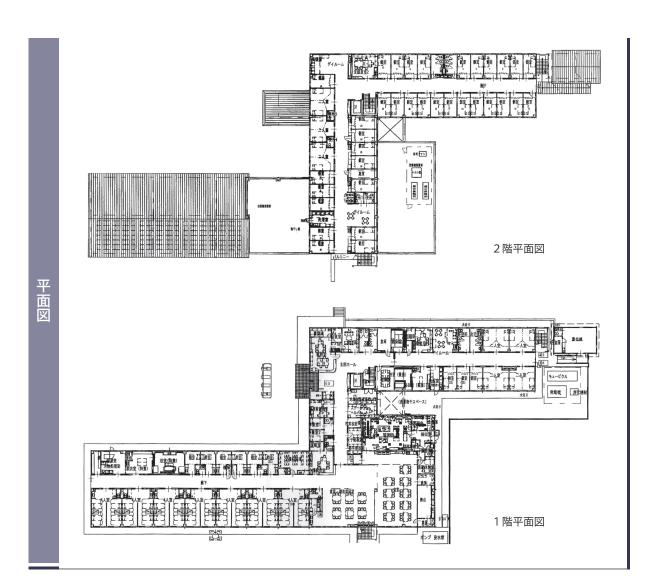
### 14 もしあの時 こうしていたらというポイント

想像ができないことが起こることを想定すべき。

### 調査概要

- ・静岡県の山間部に建設された施設である。地域密着特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスが入った棟と、養護老人ホーム。ショートステイが入った棟が同敷地内に併設されている。
- ・当該施設は山間部の平地に建てられており、土砂災害警戒区域内にある。令和元年台風 19 号においても施設の裏手にある崖の土砂災害を警戒していた。しかし、施設近隣の水路が大雨により増水・越水し、大きな水の流れが敷地内を通過した。そのため、施設の一部が 60 cm浸水した。
- ・10月12日の昼食後、崖側に近い東棟1階の入居者らを土砂災害に備え2階に避難させている。南棟はそのまま。しかし、19時20分に近所の住民が、施設南側の水路が溢れていることを連絡。19時30分南棟1階食堂の掃き出し窓の腰の高さ程に水が来ていることに気づく。19時34分に南棟1階の入居者の避難開始、エレベーターが使えたため、ベッド1台ずつ8人、車椅子で4人ずつ2階に避難し、8時05分に避難完了したと同時に1階の窓が割れ水が一気に流れ込む。その時にエレベーターも停止したため間一髪だった。2階では廊下や空いている個室で過ごした。
- ・浸水を受けた1階部分を除き、養護老人ホームは2階のみで10月24日から再開した。特養の入居者は近隣の施設に受け入れてもらった。翌年3月に1階部分の工事が終了し、特養の入居者のほとんどが戻ってきた。





## 写真



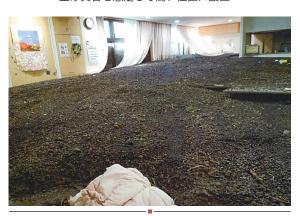
氾濫した疏水



浸水箇所となった掃き出し窓



土砂災害を想定して高い位置に設置\*



水が引いた後の土砂\*



浸水時の様子\*

※ \*写真は施設提供

### 事例

4

### 社会福祉法人 ジェイエー長野会

# りんごの郷

所在地	〒 381-0003 ∄	長野県長野市大字穂保字町裏 207-1			
調査日時	2022年	対応者 (役職)	施設長、総務課長代理		
	10月20日	調査員名(※記録者)	宮崎、金井*、中村		

### 1 施設概要

, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	35LX (73)							
施設種別	特別養護老人ホーム	開設年	2002年12月	定員	78名(35室)			
併設施設	ショートステイ 12 名(4室)、ヘルパーステーション、福祉相談センター				/ター			
階数	地上2階建て(被災前)		構造種別	鉄筋コンクリート造				
設計者	全農長野		施工者	守谷商	<b>新会</b>			
立地の特徴	<ul><li>・千曲川に近く低地。周辺には、果樹や田があり、地形的には堤防が一番高所となる。</li><li>・建築当時は水害が予測されていなかったと思われる。</li><li>・JAの土地を借りている(元水田)。地域からの要望で特養を誘致。</li></ul>							

### 2 主な被災状況

当該地域の浸水高さ	80 cm~ 100 cm (腰ぐらいの高さ)	被災判定	半壊
対象地域の気象情報のタイムライン	<ul> <li>・令和元年 10 月 12 日~ 13 日:大雨得特別警報(長野市発)</li> <li>・穂保(ほやす)地区。千曲川(ちくまがわ): 10 月 13 日 01:08</li> <li>その後決壊:06:00 発表</li> </ul>		
周辺地域の浸水の状況			
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	入居者:0人、職員	: 自宅被災3名	(仕事できないのは 1 名)。

### 3 建物被害の概要

地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	地盤は大丈夫だった。
構造体の被害状況(特に基礎構造)	骨組みは問題ない。
外装材の被害状況(屋根、壁)等	
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	・壁は床下 1.5m 部分を切断・除去し、除染をして、新しくした。 ・天井裏も除染した。
家具・什器備品の被害状況 (棚、ベッド、車いす) 等	設備関係は全部だめ。パソコンが使えない。
使用不可になった部屋	
ハザードマップ	堤防の決壊場所から 800 メートルほどの場所 浸水想定区域 10 ~ 20m



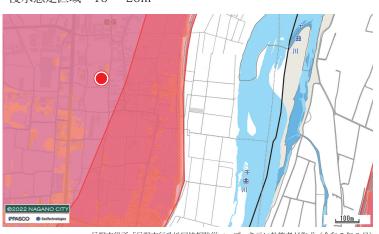
0.5m未満

0.5~3.0m未満

3.0~5.0m未満

5.0~10.0m未満

10.0~20.0m未満



長野市役所「長野市行政地図情報防災マップ」を元に執筆者が作成(令和5年2月)

### 4 被害の状況(ライフライン)

	停止の有無	有	復旧までの期間	
水	復旧までの対応 代替手段	避難所で対応。救助が来るまではポータブルトイレやおむつ(8割ぐらいがおむつ)。トイレに汚物を溜めていた。		
	停止の有無	有	復旧までの期間	
電気	復旧までの対応 代替手段	<ul><li>・令和元年 10月 13日 3時</li><li>・避難所で対応。</li></ul>	に停電発生。	
	停止の有無	有	復旧までの期間	
ガス	ガスの種類			
	復旧までの対応 代替手段	避難所で対応。		

5 設備の	被害状況	
	給水	
	給水方式	
	受水槽の位置・容量	
給排水設備	被害状況・対応	
和外心文闸	給湯	
	被害状況・対応	
	排水	
	被害状況	
	受変電設備の位置	
	消防用非常用電源	
電気設備	非常用発電	なし
	非常用電源設置場所	
	被害状況	・照明用の非常発電設備。 ・キュービクルは地上。
空調設備	空調方式	熱源
上 响 叹 师	被害状況	
通信設備	施設外(電話・通信 設備等)の被害状況	スマホ、エリアメール、テレビ
地信以開	施設内(ナースコール等)の被害状況	
	エレベーター	使えない
搬送設備	リフト	
	(階段)	
	入浴設備	
	代用方法	今後の改善点
ライフライン	給食システム	
	代用方法	今後の改善点
	ランドリー設備	
	代用方法	今後の改善点
その他	自然エネルギーの活用 (太陽光パネル等)、 断熱(ペアサッシ、 高断熱)等	

6	被災時の対応
•	10メングトリ マノ クリルい

11000 61 3 10 3 10 5		
災害発生時の 〔初動の職員の役職		<ul> <li>・入居者は、78名(満床)とショートステイ9名の計87名。</li> <li>・職員は14名(普段夜勤4名+宿直1名+9名応援要請)</li> <li>・避難時は、1階エレベーター前、2階エレベーター前、1階でエレベーターまで誘導に職員を配置。</li> </ul>
災害発生時の指揮系統 誰が指揮を執ったか 時系列に		・施設長、事務長 → 主任 → 勤務者 ・午前 1 時ごろ越水が始まる。情報を得てから避難を始めた。 あたりは暗く、外に逃げる余裕もなかったことから 2 階に 垂直避難した。施設長が判断。 ・ 3 時ごろ、浸水始まる。 ・ 4 時 44 分ごろ、1 階全てが浸水。
被災(浸水)に至るまでのプロセス(気象情報の把握時期、避難準備の状況、情報収集、避難開始時期など)	入居者への対応	りんごの郷・千野真 施設長(当時): ・「(外へ避難して)風の中、雨の中で体調を崩す・転んでしまうというリスクを考えると、垂直避難の方が利用者にとって安全だろうと」 ・当時の「避難確保計画」では須坂市内の別の施設への避難を盛り込んでいた。 ・1時、避難開始。1時50分、避難終了。避難時はエレベーターを使用。 ・避難先に90名入るスペースがない。1人部屋に3人が避難。廊下にも避難したため、2階には足場がないぐらいだった。床に毛布のようなものを敷いて、そこに寝てもらった。1階端の方の「いちょう・かえで」の入居者から避難した。・見落としがないようにするため。介護度順ではない。すべての人にエレベーターを使用。歩ける人はおらず、車椅子かベッドで避難。 ・エレベーターには、ベッド1台か車椅子5台程度。・入居者は、不安がっているが、パニックほどではない。
	スタッフ間の対応 (情報共有など)	施設長と事務長が前日から残って気象情報の確認。
浸水直後の状況	入居者への対応	<ul> <li>・1 階部分が浸水し、入所者87人と15人ほどのスタッフは自衛隊や消防によって救助された。</li> <li>・入所者やスタッフなど70人はボートで救助。</li> <li>・自衛隊は、8時5分到着。到着時、全く水は引いていない。初めはヘリで搬送。</li> <li>・自衛隊が来るまで5~6時間2階にいた。</li> <li>・全員の避難終了したのは、16時30分。</li> <li>・寝たきりの人が多いため、ヘリやボートに乗せるのは大変だった。</li> </ul>
	スタッフ間での対応 (情報共有など)	・職員は、若槻ホームで集まる。避難先でもあった。 ・若槻ホームと独自に避難協定を結んでいた。

### 7 浸水から一定時間が経過した後の対応

地域住民等	避難所た	こったため、受け入れできなかった。		
被災者の受入状況				
	3日間	(入居者)	(受入れ者)	
	7日間	・長野県が自衛隊・消防に救助要請の上、入所者を	・若槻ホーム	
受け入れ者、入居 者の状況 (居場所の確保)	1カ月	他の特別養護老人ホームに避難させた。 ・若槻ホームに一旦全員が一時避難。11月17日まで。 ・その後は、同法人のがりゅうの里の空きスペース に移る。特養として使ってもいいことに。 ・ただ、避難先であるため、新たな受け入れはでき なかった。 ・4名は別のところ(市が要請をして手を挙げたころ) で受け入れてもらった。	・がりゅうの里	
	3日間	・避難当日から勤務体制構築。		
7 4 - 0 11/17	7日間	・別の場所でもりんごの郷として雇用できていた(市からの許可)。		
スタッフの確保	1 カ月	・3名の離職あり。 ・新たに入居者の受け入れができず、入居者の死亡等 るようになり、病院へ出向することも。	で職員の人手が余	
職員へのケアとして取	職員全員の安否確認が完了した日時 【 10月13日 】			
り組んだこと(職員の家	理由:勤務調整等連絡を行ったため。			
族の安否、職員の家屋の被 災、メンタルケアなど)	利用者全員の安否確認が完了した日時 【 10月12日 】 理由:避難時に都度点呼及び体調確認を行っていたため。			
併設事業の状況(利用者	被災されていない方に関して、担当ケアマネの協力を得ながら、避難所から自宅			
への対応、通所・訪問の継	へ帰宅していただいた。その後、ショートステイは休止。訪問介護・居宅支援事			
続・休止など)	美所は 1	4日よりサービス再開(仮事務所にて)。		

#### 8 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

- ・ 当時は寒く、毛布で対応。毛布はすでに 2 階へ。
- 介護用非常食1日分。
- ・すでに2階に上げていた。

### 9 外部からの支援

・法人内での連携・他施設からの支援

・他施設からの支援 ・法人内事業所か ・医療機関との連携 らの職員派遣。

・行政との連携・・希望がある利用者の入所受け入れ。

(物資) 他施設、福祉用品 業者から車イス、 衛生物品、日用品、 福祉車両の支援。 (お金)

- 社会福祉施設等災害復旧事業(国)
- ・長野市介護保険関連サービス基盤整 備補助金

### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

(人)

建物の修繕・	内容	・改修工事。 ・キュービクルだけ 2m 地盤かさ上げ。
改修	費用	3億5千万円 (うち自己負担 8200 万円)
	期間	復旧:令和2年12月
移転の場合は	工事中の対応	
その内容	工夫した点	<ul><li>・ 2 階は広くしたい。</li><li>・ 費用の問題がある。</li></ul>

### 11 災害対策とその効果

<b>地次の供</b> 芸	被災前	想定日数	・1 階 ・簡易のものばかり(水分ゼリ-	ーや乾パンなど)。	
物資の備蓄	被災後	想定日数	・1 階のまま。場所も変更なし。 ・おかゆ等の追加。		
		想定規模	大規模広域災害	単体施設災害・事故	
		想定災害	水害	火災	
避難訓練の	実施状況	訓練頻度	年1回	半年1回	
(被災		備考	<ul><li>運動公園や体育館に避難するように言われた。ただ、そこでの介護は難しい</li></ul>		
被災前の避効果があった					
(被災前との変更点) ・年1回、9~10月に水害の避難訓練の追加。防犯訓練も追加。 ウェロ が では		こ避難するグループに分けた。			
被災前と現在減災への		【 被災前 】 5段階評価:2~3 ※5が意		【 現在 】 5段階評価:5 識が高い	
現在の防災教 している		※ 手引き作成に重要な内容 当施設の災害フロチャートなど。			
職員への例 (被災前	32 (3/(13	・体験談の共有(写真等も活用)。 ・災害訓練の他にシミュレーション訓練及び研修を実施。		び研修を実施。	
現在の BCP の	D策定状況	・策定済み ・ハザードの理解(職員、利用者の自宅含む)、重要業務の整理、職員参集体制の確認。 リスク確認として、利用時入職時説明確認(同意書)をいただく。			

### 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携)[被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]	なし	[被災後の変更]	
他施設との連携	[被災前の備え]	若槻ホームと協定(水 害・土砂災害に備えて 10年前から)。	[被災後の変更]	継続。コロナ禍で限界 はある。
医療機関との連携	[被災前の備え]	なし	[被災後の変更]	
行政との連携	[被災前の備え]	なし	[被災後の変更]	あり
地域住民との連携	[被災前の備え]	あり	[被災後の変更]	継続。コロナ禍で限界 はある。

#### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

※避難確保計画を作っているか、また、ハザードマップを確認しているか。

### 14 もしあの時こうしていたらというポイント

- ・備蓄が多かったらよかった。
- 早い段階で垂直避難。
- ・車両の避難ができない分、損害が大きかった。
- パソコンが使えなくなった。
- ・避難に関してベストを尽くしたと評価している。
- ・しかし、課題の洗い出し・改善はシミュレーション訓練などを通し随時行っている。

### 調査概要

- ・千曲川から約600m離れたJA所有地に建設された特別養護老人ホームである。
- ・ショートステイ、ヘルパーステーション、福祉相談センターを含む平屋の本棟と、増設した2階建ての分棟が併設されている。
- ・建設当時は水害リスクを想定しておらず、地元からの要望に答える形で誘致された。令和元年台風 19 号で 千曲川が氾濫し、床上 80cm  $\sim 1$ m 浸水した。
- ・被災当日の利用者は87名で、職員は14名であった。通常の夜勤4名と宿直1名に加えて施設長ら9名が応援要員として待機していた。
- ・深夜に越水の情報を得て急遽避難を始めた。避難確保計画では別の施設を避難先としていたが時間的余裕がなかったためエレベータを使って2階へ避難した。利用者への被害はなかった。
- ・自衛隊らに救出された利用者は避難協定を結んでいた福祉施設で一時的に受け入れられた。1階の設備等が全て水没し建物が長期間使用できない状況だったため、利用者は同法人の系列施設へ移り避難生活を送った。
- ・建物は翌年12月に全面復旧した。





# 写真



\_\_\_\_\_ 救助ヘリコプター



避難時の様子



浸水時玄関



浸水時浴室



改修工事

※ 写真は全て施設提供

### 事例

5

## 社会福祉法人 賛育会

# 豊野清風園

所在地	〒 389-1105 長野県長野市豊野町豊野 659-1		
<b>卸木口</b> 吽	2022年	対応者 (役職)	施設長
調査日時	10月24日	調査員名(※記録者)	宮崎*

### 1 施設概要

1 加設城					
施設種別	特別養護老人ホーム	開設年	1970年(2000年改築)	定員	74名 (30室)
併設施設	・ショートステイ(16名:2階) ・軽費老人ホーム(18名:3階) ・デイサービス(1階) ・訪問介護、居宅介護支援事業所		<ul><li>・クリニック(</li><li>・介護老人保健</li><li>・通所リハビリ</li></ul>	施設(:	* * * * *
階数	地上3階		構造種別	鉄筋ニ	コンクリート造
設計者	ACA 設計		施工者	北野廷	建設
立地の特徴	・浸水想定区域 10 ~ 20m。 ・建設時は浸水について、あまり考慮していない。2000年に改築する前は平屋だった。 ・改築前にも浸水被害があったが、全て膝程度の浸水だった。改築の時に3階建てにしたのは規模が理由であって、垂直避難を想定したわけではない。				

### 2 主な被災状況

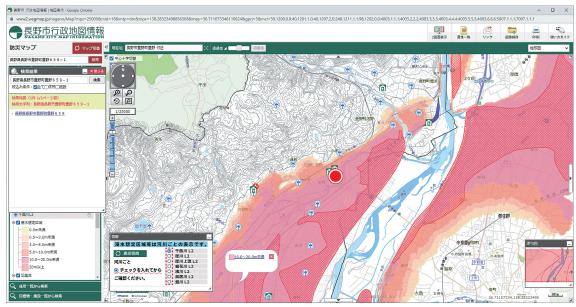
当該地域の浸水高さ	2 m 30cm	被災判定	半壊
対象地域の気象情報のタイムライン	・12 日 15: (施設内で垂 ・千曲川(ち (06:00 発	30 大雨特別警報、 重直避難) くまがわ):10 月 表)。	日:大雨得特別警報(長野市発) 13日0:20行政から避難指示 13日01:08越水、その後決壊 から避難開始。3日間で全員避難。
周辺地域の浸水の状況	それら浸水房 乾かして通常	K上 30cm くらい 常のサービス業務 かなかったので、	00 人規模の施設が 4 か所あったが、 の被害であり、一晩で水が引いた後、 を開始できていた。避難が必要な高 真っ先に救援していただくことがで
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	利用者0人。	職員 10 名程度に	は浸水被害があった。

## 3 建物被害の概要

地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	なし
構造体の被害状況(特に基礎構造)	なし
外装材の被害状況 (屋根、壁) 等	耐火被覆など、浸水した1階の壁・床は全て剥がし、中を消毒・乾燥。
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	・同上 ・天井は水に直接触れてはいないが、近くまできて泥がはねたりしていたので、照明器具も含め改修。
家具・什器備品の被害状況 (棚、ベッド、車いす) 等	<ul><li>・介護ベッド等の介護器具は利用者と共に前日に避難していたので無事。</li><li>・PC、書類、金庫などは水没。浸水しても過去の経験から膝程度と考えていたため、1階のデスクの上に置いとく程度の対策だった。</li></ul>
使用不可になった部屋	1 階全て
ハザードマップ	次ページに掲載

### ハザードマップ

#### 浸水想定区域 10 ~ 20m



長野市役所「長野市行政地図情報防災マップ」を元に執筆者が作成(令和5年2月)

1	神里の状況	(ライフライン)
4	を与しいるが	(フィ ノフィ ノ)

	停止の有無	有	復旧までの期間	
水	復旧までの対応 代替手段	<ul> <li>・13日5:15停電と同時に止まる。受水槽からモーターで上水に流しているので、停電により使用不可となった。</li> <li>・ただ、1階は直管なので使えた。しかし浸水しているので、排水はできない。水が引いたあとは掃除の時に使用していた。</li> <li>・水が引いた14日は直管の水を利用して掃除を開始。14日からは支援物資が届くため、水もあった。</li> </ul>		
	停止の有無	有	復旧までの期間	
電気	復旧までの対応 代替手段	13 日 5:15 停電(変電所が浸水)、固定電話は不通だが、スマホは きた。		
	停止の有無	有	復旧までの期間	
ガス	ガスの種類	厨房はプロパンガス /	都市ガスは通っているが、殆ど使っていない。	
///	復旧までの対応 代替手段		2カ月間はプロパン使用せず、仮厨房では電気を使 をレンタルして利用。食費がとても高くなる。	

5 設備の	被害状況				
	給水	<ul> <li>・受水槽からモーターで上水に流しているので、停電により使用不可となった。</li> <li>・ただ、1 階は直管なので使えた。しかし浸水しているので、排水はできない。水が引いたあとは掃除の時に使用していた。</li> <li>・水が引いた14日は直管の水を利用して掃除を開始。</li> </ul>			
	給水方式				
	受水槽の位置・容量	・1 階 ・水没			
給排水設備	被害状況・対応	13日5:15停電と同時に止まる。 ・受水槽からモーターで上水に流しているので、停電により使用不可となった。ただ、1階は直管なので使えた。しかし浸水しているので、排水はできない。 ・水が引いたあとは掃除の時に使用していた。 ・水が引いた 14 日は直管の水を利用して掃除を開始。			
	給湯				
	被害状況・対応				
	排水				
	被害状況				
	受変電設備の位置	キュービクルは3階にあるが、配電盤が水没し停電。			
	消防用非常用電源	有(スプリンクラー作動のみ)			
	非常用発電	非常用自家発電機(ポータブル方式)			
電気設備	非常用電源設置場所	2階備蓄			
	被害状況	<ul><li>・非常用電源はガソリン式。</li><li>・ガソリンは発電機に入っている分しかなかったため、すぐに使用できなくなった。</li><li>・使用の目的は主にスマホの充電。</li></ul>			
m=m=n/#	空調方式	熱源			
空調設備	被害状況	災害中は使っていない。夜が少し寒いくらいの気候。毛布で対応。			
通信設備	施設外(電話・通信 設備等)の被害状況	13 日 5:15 停電(変電所が浸水)、固定電話は不通だが、スマホは 常時利用できた。			
四百改佣	施設内(ナースコール等)の被害状況	13 日 5:15 停電			
	エレベーター	13 日 5:15 停電			
搬送設備	リフト				
	(階段)				
	入浴設備	水没			
	代用方法	今後の改善点			
ライフライン	給食システム	<ul> <li>・1階の厨房が復旧する1年2カ月間は、各棟に仮厨房を作り、2019年12月からの5カ月間は、副食は冷凍弁当をホットワゴンで温めて提供。</li> <li>・その後、クックチル方式を採用し、IH卓上コンロを使用し、湯煎して提供。その他厨房機器はレンタル品を活用する。主食のご飯は家庭用炊飯器を使用し、粥、粥ミキサーはパウチの商品を使用した。</li> </ul>			
		усладан с юли от это то то это это от то			

その他

今後の改善点

高断熱)等

代用方法

ランドリー設備 代用方法

6 被災時の対応		
災害発生時の職員配置 [初動の職員の役職と連絡体系]		<ul> <li>・13日1:00夜勤以外に施設長等も待機(12日に垂直避難は終了)</li> <li>・9:30特養90名を3階に避難(モップで作った担架とおんぶで避難)。</li> <li>・2017年に岩手県GH災害を見て、その教訓を活かした。</li> <li>・施設横の川の水が増えたら垂直避難することは事前に決めていた。令和元年9月に垂直避難をしていた。避難の基準は川の増水警戒ラインを決めてた。</li> </ul>
災害発生時の指揮系統 誰が指揮を執ったか 時系列に		<ul><li>・11日に事業所内対策会議があり、そこで避難計画は立てていた。避難勧告より前に避難を決定した。</li><li>・13日以降のやり取りは、サーバーからのメールを想定しているが、職員の統制が取りづらく。今後の課題。今は中部電力の「きずなネット」を使用。</li></ul>
被災(浸水)に至るまでのプロセス(気象情報の把握時期、避難準備の状況、情報収集、避難開始時期など)	入居者への対応 スタッフ間の対応 (情報共有など)	・12日16:30 特養1階22名の利用者を2階食堂・ホールに避難。1階GH19名は別棟3階老健に避難。避難先の利用者は普段通りの部屋割。1階の機器・備品も移動。早番・日勤・遅番の職員が全員いたので、それらの職員で避難を対応。エレベーターを使用。利用者をベッドに乗せたまま移動。利用者の要介護度は高い、平均要介護度4.1。ベッドのタイヤが古くなっており、移動に苦労した。・20:00 避難完了・13日0:20 避難命令が発令、夜勤者13名。既に垂直避難は済んでいたので、施設に留まることを市に告げる。一般避難所は近所の小学校(浸水無し)だが、遠いし、高齢者ケア対応できていないので避難生活は難しい。6:30浸水始まる→13日の夜に水は引く。避難場所での食事は備蓄があった。次の日には支援物資が届いた。ポータブルトイレも利用。・14日6:00 DMAT・自衛隊・応援職員が到着。避難開始。施設内全ての利用者が近隣の施設に避難。主に市内の特養、老健、病院。244名避難完了は3日間で完了。避難先は事前に協定があったわけではない、長野市やDMATなどの協力のもとその場で行った。・10月18日:在宅系営業再開、11月5日:外来診療再開2階(介護医療院の場所を利用)、12月10日2階以上で老健・特養・ケアハウス再開。12月15日デイサービス再開。殆どの利用者が元に戻る。1階22名のみ受け入れ先施設で生活継続。・翌年8月:特養1階再開。全員戻ってきた。・社用メールがPCの水没により使用困難。・個人メールやラインで対応。今後の課題となった。
		・3階ベッドマット等の上で、雑魚寝、補水やおむつ交換な
浸水直後の状況	入居者への対応	ど、床の上で介護ケアするには利用者の負担が大きかった。 ・食事は経口補助食品を使用した。
	スタッフ間での対応 (情報共有など)	・個人の携帯電話が、唯一の通信手段。 ・施設一帯が水没し、出勤できない等の連絡がはいる。

#### 7 浸水から一定時間が経過した後の対応

アスパックを内間の住屋でに戻り方が					
地域住民等 被災者の受入状況	・浸水しているので無し。 ・区との協定では災害時は同じ区の住民も施設に応援にくる協定だったが、現実 は難しい。				
受け入れ者、入居	3日間	なし なし			
者の状況	7日間				
(居場所の確保)	1カ月				
	3日間	掃除には同じ法人の職員に来てもらった。			
スタッフの確保	7日間	なし			
	1カ月				
職員へのケアとして取り組んだこと(職員の家族の安否、職員の家屋の被災、メンタルケアなど)	職員全員の安否確認が完了した日時 【 14日くらい 】 理由: 利用者全員の安否確認が完了した日時 【 常時 】 理由:前日に避難している。				
併設事業の状況(利用者 への対応、通所・訪問の継 続・休止など)	理田:前日に避難している。  ・雇用を継続するには、早く事業を再開する必要がある。 ・18日には法人内で協議。利用者が0人になる想定はしていなかった。 ・早期に復旧できた理由として、どうしたら早く復旧できるか、現状の調査をすぐに依頼したことが挙げれる。依頼先は施工もしている北野建設。地域の建設会社とは普段の営繕依頼しており、図面も持っているのでスムーズに対応してもらった。 ・2階以上の施設を再開する際の手続きについて、行政は協力的だった。				

#### 8 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

- ・浸水被害あった13日は備蓄していた食品・水で対応できた。
- ・14日以降は水が引いたため、支援物資や介護用品を用意することは容易だった。

#### 9 外部からの支援

・法人内での連携	$(\mathcal{X})$	(物資)	(お金)
・他施設からの支援	14 日の掃除には同法人		
・医療機関との連携	からの応援職員が集まっ		
・行政との連携	た。		
・地域住民との連携			

#### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

	内容	1階の浸水部分を改修工事。翌8月に再開に到る。それまでは2階に 別棟と繋ぐブリッジを設置。
7. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	費用	
建物の修繕・ 改修 移転の場合は その内容	期間	
	工事中の対応	・8割は補助金で対応。 ・水害保険に入っている高齢者施設は少ないし、保険料も年々高額化してきているので、何か国が保険料の補助を出してくれないか。
	工夫した点	・現況復帰。 ・サーバー室を2階に移動。重要資料をクラウド化。 ・今後の計画として、自家発電のコンセントを各フロアに設けたい。

#### 11 災害対策とその効果

物資の備蓄・	被災前	想定日数	移動)。	1階に保管していた(避難時に2階以上に 5ったが、内臓しているガソリンしかなっ まにスマホの充電で使用。			
	被災後	想定日数	・現在はコロナ対策製品の偏蓄も増え、場所確保が大変。コムボート2隻				
	11/2/2	3日	を購入。 ・ガソリンを備蓄できる缶の購入を検討している。				
		想定規模	大規模広域災害	単体施設災害・事故			
`□□ ##=   (本 へ □	±++-\L\\\	想定災害	火災・水防(災害前も同じ)				
避難訓練の		訓練頻度	年2回	災害前後で変化なし			
(IIX)CI	ענים/	備考	コロナ前は地域住民も一部参加 いる。	していたが、現在は法人内のみで行って			
被災前の避難訓練で 効果があったと思う点		水害への垂直避難を実施していてよかった。令和元年も9月に実施していたため、 災害時も対応できた。2017年に岩手県GH災害を見た教訓から、垂直避難の避難 訓練を実施していた。					
現在の避難訓練			。非常持ち出し物品(重要な紙デ	防災意識アンケートや情報を提供し共有 データ)をリスト化した。非常時はこれ			
被災前と現在の防災・ 減災への意識		【 被災前 】		5段階評価:5			
現在の防災教育で使用 している教材		教材は特になし。 被災前:一般的な防災の話をする程度(膝上くらいの浸水しかこないと思っていた)。 被災後:令和元年19号当時の写真を用いて勉強会をしている。					
<b>職員へ(/)以方()</b> (が)			被災前:法人の中では長野は一番災害が少ない印象だった。 被災後:より大きな災害を想定すると、他法人の施設や行政と連携しようと思っ ているが、コロナで現状打ち合わせも困難。				
現在の BCP の	D策定状況	・BCP について、災害前:なし、現在作成中。 ・今回の経験から、事業の継続には、厨房を如何に開始するかが重要。 ・作成中の BCP は 2 カ月で事業再開を目標としている。					

#### 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携) [被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]	特になし	[被災後の変更]	特になし
他施設との連携	[被災前の備え]	連携なし	[被災後の変更]	協定を結ぼうとしている
医療機関との連携	[被災前の備え]	特になし	[被災後の変更]	特になし
行政との連携	[被災前の備え]	一般的な連携	[被災後の変更]	・今後の避難について相談中。 ・近隣法人との連携も行政主導 でやってほしい。
地域住民との連携	[被災前の備え]	同じ区内で連携	[被災後の変更]	特になし

#### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

2017 年に岩手県 GH 災害を見て、垂直避難は想定していた。施設横の川が氾濫した前例があるため、警戒する水位ラインを決めていた。この度の災害時もラインを超えたため浸水前日の 12 日に垂直避難を実行した。同年 9 月にも垂直避難訓練をしていた。

#### 14 もしあの時こうしていたらというポイント

高齢者避難の相談窓口がどこかわかりづらい。コロナで行政に訪問しづらい状況。

#### 調査概要

- ・長野市の平地に建設された福祉施設である。
- ・特別養護老人ホーム、ショートステイ、軽費老人ホーム、デイサービス、訪問介護事業所が入った棟と、クリニック、介護医療院、介護老人保健施設、通所リハビリ・訪問看護事業所が入った棟が分棟で併設されている。浸水被害想定区域ではあるが、介護施設等に対する地域のニーズが高いことと、過去の浸水被害は膝程度だったという認識から、他の場所での建設は考えなかった。
- ・令和元年台風 19 号では近隣も含めて約 2 m30 cm浸水した。事前に垂直避難を実施していたため、利用者への被害はなかったが、PC や什器、調理設備等は被害を受けた。浸水によりサービスは一時停止し、利用者は近隣の福祉施設へ避難した。近隣の福祉施設で被害を受けたのは当該施設のみだったので、利用者の受け入れがスムーズ行えた。調理設備を臨時で整えることにより、段階的にサービスを復旧していき翌年8月に全面復旧が完了した。比較的早く復旧計画が立てれた要因として、設計・施工を地元の会社で行っていたので、浸水後の被害状況の検査を早急に実施できたことが挙げられる。

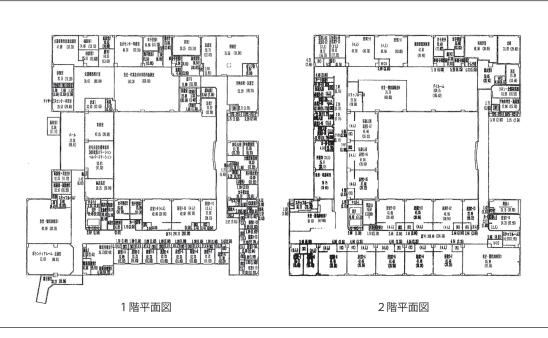
まります。

まります。

まります。

まります。

まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。
まります。



位置図

図

## 写真



施設外観



浸水時エントランス



浸水による1階被害



浸水被害による廃棄物



現在の施設外観(外壁の色が変わっている部分まで浸水)\*

※ 写真は\*を除き施設提供

#### 事例

#### 6

## 社会福祉法人 慈愛会

# 千寿園

所在地	〒 869-6401	熊本県球磨郡球磨村大字渡乙1750		
⊞★□吐	2022年	対応者 (役職)	施設長	
調査日時	10月3日	調査員名(※記録者)	山口・宮崎*・金井・佐藤・中村	

# 1 施設概要

施設種別	特別養護老人ホーム	開設年	2000年6月	定員	40 人
併設施設	・短期入所生活介護, 別館まごこ・22年前に建てた施設は、特養 4(2床室×5室)。 ・平成 23年にユニット型個室 20	0床(4床	室×7室+2床室		、ショートステイ 10 床
階数	地上2階(被災前)		構造種別	鉄筋ニ	1ンクリート造
設計者	中川設計		施工者		
立地の特徴	「土砂災害警戒区域」と「洪水浸	水想定区域	(2~5m)」内		

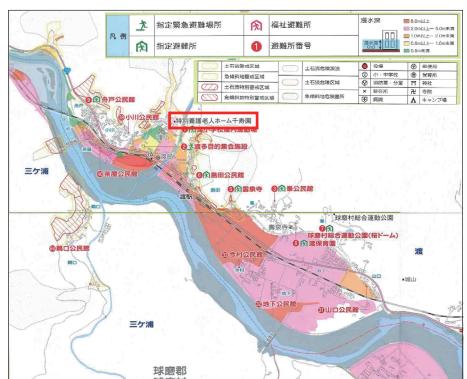
# 2 主な被災状況

当該地域の浸水高さ	3 m	被災判定	半壊
対象地域の気象情報のタイムライン	・人吉:3日 ・球磨川流域		までの雨量 420 mm。 ちの 8 時間にわたり時間雨量 30 mmを
周辺地域の浸水の状況	・球磨川流域 ・渡駅は屋根 郵便局は屋 ・堤防を越え	水面積 70ha、浸 の犠牲者数 25 人 が一部見えるぐ はまで浸かる。 た水が支流を逆流 界が分からなくな	らい。村営住宅は 1 階が完全に水没。 でする。
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	入所者 14 名	死亡。入所者 56	

#### 3 建物被害の概要

	-
地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	・建物周辺での土砂崩れはなし。 ・地域の中には、土砂崩れはあった。
構造体の被害状況(特に基礎構造)	躯体は RC 造で頑丈で残った。
外装材の被害状況(屋根、壁)等	
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	・園内は泥だらけ。土砂はくるぶしを超えるぐらいまで積もる。 ・ガラス (談話室の東側の 5m 四方のはめ殺しの窓) が割れて、一 気に流れてきた。このガラスのみ、水圧で割れた。
家具・什器備品の被害状況 (棚、ベッド、車いす) 等	<ul><li>・中の家具等が押されて、行き止まりに集まる。</li><li>・ブラインドは茶色っぽく黄ばんだ。</li></ul>
使用不可になった部屋	1階が水没。正面玄関、ホール、事務室。
ハザードマップ	次ページに掲載

- ・球磨村の渡地区は、球磨川 に沿って浸水が想定される 区域が広がっている。
- ・千寿園の周辺で想定される 浸水深は、2.0m以上~5.0m 未満となっている。
- ・千寿園の位置する敷地は、 土砂災害警戒区域(土石流) に指定されている。



\*\* 「球磨村防災マップ(H28.3作成)」を元に国土交通省にて編集 厚生労働省「令和 2 年 7 月豪雨災害を踏まえた高齢者福祉施設の避難確保に関する検討会 第 1 回検討会説明資料 資料 7 (令和 2 年 10 月 7 日)」

4	被害の状況(ライフライン)				
	停止の有無	有	復旧までの期間		
水	復旧までの対応 代替手段	介護活動なし			
	停止の有無	有	復旧までの期間		
電気	復旧までの対応 代替手段	介護活動なし			
	停止の有無		復旧までの期間		
ガス	ガスの種類				
	復旧までの対応 代替手段	介護活動なし			

#### 5 設備の被害状況

		給水			
		給水方式			
給排水設備		受水槽の位置・容量	・1 階 ・1 t		
		被害状況・対応	<ul> <li>・水は地域にもよるが、ライフラインが止まったところは結構ある。</li> <li>・対岸の上がったところは、水や電気が復旧しないから、仮設住宅に行ってもよかった。</li> <li>・橋の下に送水管があって、橋自体は流れてしまったが、昔使っていた農業用水の施設を復旧して使い始めた。それも結構な時間がかかった。</li> <li>・球磨村 HP には8月17日の給水ポイントの記事あり。</li> </ul>		
		給湯			
		被害状況・対応			
		排水			
		被害状況			
		受変電設備の位置			
		消防用非常用電源	有(消火栓ポンプ作動	用のみ)	
冒	<b>電気設備</b>	非常用発電			
		非常用電源設置場所			
		被害状況			
7	空調設備	空調方式		熱源	
ź	三司可可又加用	被害状況			
25	通信設備	施設外(電話・通信 設備等)の被害状況			
Į.	型合政制	施設内(ナースコー ル等)の被害状況			
		エレベーター	なし		
拍	般送設備	リフト			
		(階段)			
		入浴設備			
		代用方法	介護活動なし	今後の改善点	
= 4	イフライン	給食システム			
ノイ	7717	代用方法	介護活動なし	今後の改善点	
		ランドリー設備			
		代用方法	介護活動なし	今後の改善点	
	その他	自然エネルギーの活用 (太陽光パネル等)、 断熱(ペアサッシ、 高断熱)等			

6 被災時の対応		
災害発生時の職員配置 [初動の職員の役職と連絡体系] 災害発生時の指揮系統 誰が指揮を執ったか 時系列に		<ul> <li>・7月4日朝7時頃から浸水。もともとあった棟と増設した棟との渡り廊下から浸水。</li> <li>・8時半から9時の間で窓が決壊し、いきなり2mぐらいになった。</li> <li>・宿直1人、夜勤4人の計5人。</li> </ul>
		<ul> <li>・一次:まごころ1階、二次:千寿園2階。指定避難場所は屋外なので選択肢になかった。</li> <li>・2階は家族宿泊室とヘルパー事業用のヘルパーステーション。ヘルパー事業が終わった後は、会議室として使用。そのため、エレベーターはない。職員の休憩室としても使用。2階の広さは、8m×17mで、階段スペースを除くと100㎡弱。</li> <li>・消防出身の宿直の職員の判断で、水の流れを作るためにガラスを割った。</li> <li>・職員を仕切るうえで、宿直者の判断は大きかった。</li> </ul>
被災(浸水)に至るま でのプロセス(気象情	入居者への対応	<ul> <li>・7月4日2時ぐらい:停電が起きた。それに危機感を感じた。</li> <li>・3時ぐらい:夜勤の職員らが起床活動をしてくれた。</li> <li>・3時30:入所者を談話室にあつめる。</li> <li>・5時頃:別館まごころに避難開始。</li> <li>・7時頃:施設内冠水。2階と1階ホールのステージ上に避難。</li> <li>・8時半から9時:窓が決壊し、いきなり2mぐらいになった。</li> </ul>
報の把握時期、避難準備 の状況、情報収集、避難 開始時期など)	スタッフ間の対応 (情報共有など)	<ul> <li>・水位の情報をインターネットで見ることはしていた。</li> <li>・球磨村が球磨川タイムラインという事業をしている中に、 球磨村主体の防災訓練や検討会に参加していたので、情報 の見方のレクチャーを受けていた。当時は高台側にあった 事業所(どんぐり)の方が危険だと判断していた。</li> <li>・園の「避難支援協力者」である住民を筆頭に、住民有志 20 人が災害時の誘導を手伝ってくれた。</li> </ul>
浸水直後の状況	入居者への対応	<ul> <li>・午前7時頃、職員の言葉で、入所者70人の垂直避難が始まった。入所者を乗せた車いすの重さは数十キロ。エレベーターはなく、住民と職員が2、3人がかりで何度も階段をのぼった。シーツで運ぶか抱えて運ぶかも地域の人に協力してもらっている。</li> <li>・入居者を上に上げるのに遅くなったのは、スペースの問題も重なった。現場では人がいっぱいになるので、躊躇があったようだ。</li> <li>・急激な水位の上昇により1階に17名の利用者が残された。そこでは水位の上昇と共に机を3段ほどまで重ねながら利用者を持ち上げての救出活動が続いた。もし雨があがっていたら、屋上といった屋外にも避難させることができたかもしれない。</li> <li>・デイサービスの高い窓を2階から割って、そこから救出に来てくれた地域住民と3人の入居者を救出。</li> <li>・17時過ぎに水位が下がり、自衛隊のボートで避難。</li> <li>・2階にいた職員が、18時ぐらいから、救助できた利用者からピストンで桜ドームへ連れて行った。</li> <li>・当日のうちに、56名全員を避難所に連れていけた。</li> </ul>
	スタッフ間での対応 (情報共有など)	<ul> <li>・対岸から2階のスタッフと手を振りあって、コンタクトがとれた。</li> <li>・携帯で現場と連絡はずっと取れたが、現場がバタバタしていたため、何回もできる状態ではなかった。</li> <li>・2階にいるスタッフは、1階の様子を埋掘できたかった。</li> </ul>

・2 階にいるスタッフは、1 階の様子を把握できなかった。

#### 7 浸水から一定時間が経過した後の対応

地域住民等 被災者の受入状況	なし。地域住民の支援者はいた。		
	3日間	(入居者)	(受入れ者)
受け入れ者、入居 者の状況	7日間	・避難所に移ってからは DMAT に入ってもらった。 ・2か所の病院に入院という形で預かってもらう。 どちらも急性期医療の病院のため、預かれても 1週間のみだった。	・多良木公立病院 ・人吉医療センター
(居場所の確保)	1 カ月	<ul><li>(入居者)</li><li>・できるだけ人吉球磨村圏内の施設で預かってもらいたかった。実際はそうではなく、一番遠いところで熊本市内まで分散した。</li><li>・最長で3月末まで避難先で過ごした。</li></ul>	<ul><li>(受入れ者)</li><li>・20 施設ぐらいに分散。</li><li>・老施協の方でも施設を募った。</li></ul>
	3日間		
	7日間		
スタッフの確保	・整理解雇という形をとった。スタッフが次のステ と判断。7月末には73名ほど整理解雇。 1カ月 ・いろんなところで預かってもらっている方たちの もあったため、ケアマネといったスタッフの一部 ・事務や経理、人事運営のスタッフで、最終的には		の調整や在宅系の調整 『は残ってもらった。
職員へのケアとして取り組んだこと(職員の家族の安否、職員の家屋の被災、メンタルケアなど)	職員全員の安否確認が完了した日時 【 3~4日 】 理由:茶屋地区にも職員は2名ほどいたが、そのスタッフに連絡できなかった。 完全に家も流されていて、携帯も不通の状態だった。コンタクトはすぐ に取れたが、被災状況の把握まではできなかった。 利用者全員の安否確認が完了した日時 【 当日 】		
併設事業の状況	※ BCP について。短期(通所・ショートステイ)の継続・休止。休止期間について アットホームどんぐり(小規模多機能)の利用者と職員を別館まごごろに避難。		

#### 8 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

- ・100名分を3日間。当日はそれに買い足すこともなかった。
- ・100名は、入居者70名+帰れなくなった職員+地域の方の想定だった。

#### 9 外部からの支援

・法人内での連携 ・他施設からの支援 ・医療機関との連携 ・行政との連携 ・地域住民との連携 ・地域住民との連携		(お金) 熊本県老人福祉施設等 災害復旧費補助金
---	--	--------------------------------

#### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

	費用	16 億 6 千万円
	期間	2022 令和 4 年実施設計、令和 6 年 1 月開設予定。
建物の修繕・ 改修 移転の場合は その内容	工事中の対応	・熊本県、球磨村から仮設での再開(建て替えの施設ができるまでの期間)を用地も含め提案してくれた。仮設の敷地は、医療法人の敷地。・仮設は、2021年1月着工の3月末竣工。3ヶ月ぐらいで立ち上がった。・最初に建った広域型40床の特養と、ショートステイ8床(2床減)で、48人定員。・プレハブ自体に規格があることによる制限と、個室は厳しいという判断があった。・災害復旧補助金の選択肢は内閣府と厚労省があったが、内閣府のそれには事業の復旧には難しい制約が伴った。・厚労省の復旧事業の場合、特養としての機能を持ってもいいが、5/6は補助するが、1/6は事業者負担。・プレハブの方も、規格や全体のスペースの問題で、うちの用地よりも狭いので、その中にどれだけの規模を入れられるかということになった。40床の特養と20床の地域密着型特養とショートステイ10床のどれを活かすかを判断した。40床の特養の従来型を復旧させる形でもあったし、スタッフの問題もあった。・スタッフの再雇用を4月1日付で始めた。準備期間は2週間ぐらいあって、入居者の受け入れを4月12日ごろに始めた。・スタッフへの再雇用の打診は年末頃より開始した。帰ってきてくれるというスタッフがある程度固まって、その中にも被災した方はいたので、4月1日からなら行ける人もいた。それまでは、失業保険をもらっている人もいた。4月1日再開時スタッフ数36名中98%は再雇用であった。・利用者は、移動された先で他界された方もいて、帰ってきたのは15名。ご家族の判断もあったので、熊本市内の方へ行って家族も熊本市に住んでいるからそこがいいという人もいた。帰ってこなかった理由は、様々。自主判断ができる人はほとんどいなかったので、ご家族の判断。・仮設の方は、令和5年度末までの貸借契約になっている。厚労省からリース契約の5/6の負担はされる。・補助金の名称は、熊本県老人福祉施設等災害復旧費補助金。
	工夫した点	・厚労省の復旧事業の場合、特養としての機能を持ってもいいが、 6は補助するが、1/6は事業者負担。 ・プレハブの方も、規格や全体のスペースの問題で、うちの用地よ狭いので、その中にどれだけの規模を入れられるかということにた。40 床の特養と20 床の地域密着型特養とショートステイ10 どれを活かすかを判断した。40 床の特養の従来型を復旧させるもあったし、スタッフの問題もあった。 ・スタッフの再雇用を4月1日付で始めた。準備期間は2週間ぐらいて、入居者の受け入れを4月12日ごろに始めた。 ・スタッフへの再雇用の打診は年末頃より開始した。帰ってきてくというスタッフがある程度固まって、その中にも被災した方はいで、4月1日からなら行ける人もいた。それまでは、失業保険をもている人もいた。4月1日再開時スタッフ数36名中98%は再雇あった。 ・利用者は、移動された先で他界された方もいて、帰ってきたのは15ご家族の判断もあったので、熊本市内の方へ行って家族も熊本市はんでいるからそこがいいという人もいた。帰ってこなかった理は様々。自主判断ができる人はほとんどいなかったので、ご家族の半・仮設の方は、令和5年度末までの貸借契約になっている。厚労省にリース契約の5/6の負担はされる。

#### 11 災害対策とその効果

八口	אזאנר ני	-			
物資の備蓄	被災前	想定日数	(被災時に十分だったか) ・100名分を3日間。当日はそ ・100名は、入居者70名+帰れ	れに買い足すこともなかった。 なくなった職員+地域の方の想定だった。	
加兵沙岬田	被災後	想定日数		にない。非常用自家発電機を増やしたぐ	
		想定規模	大規模広域災害	単体施設災害・事故	
		想定災害	水害	土砂崩れ	
		訓練頻度	年2回	年2回	
避難訓練の実施状況 (被災前)		備考	・垂直避難の訓練もしていたが、利用者 60 名を 2 階に上げることは想定していなかった。水害の場合はある程度予測できるので、利用者を怪乱させないように焦らずゆっくり時間をかけて利用者を上げるように指示は出していた。 ・職員は災害前から動き方は分かっていた。マニュアルも作り、シミュレーションをして時間軸からやって、避難にかかった時間を測っていた。・避難訓練のときには必ず人吉消防組合に立ち会ってもらい、見てもらっていた。必ず講評をもらっていた。それに基づいた行動を取ってもらっていた。・小学校に避難するのも想定していた。 ・指定避難所は、第一は南側の駐車場で、多分第二が体育館の方だった。結果的には体育館の方がひどかった。		
被災前の避難訓練で 効果があったと思う点		(良かった点・悪かった点・有効性) ・立ち退き避難 (施設外への避難) は訓練していなかった。 ・ <u>入居者全員ではないが、垂直避難も想定はしていた。</u>			
現在の避難訓練		(被災前との変更点) 机上訓練(コロナで消防の人も入れないため。図面を広げて、火元はどこか、そ の場合どこに避難すべきか)。			
被災前と現在の防災・ 減災への意識		【 被災前 】			
現在の防災教育で使用 している教材		※手引き作成に重要な内容 ・コロナもあって対面は難しいので、e-learning 等で紹介して入れ込んでいる。 ・セキスイハイム等の教材のメニューの中には、防災についても入っている。 ・民間の e-learning を利用している。			
職員への防 (被災前		を上げる	手法を取っている。	11つテーマを選んでもらって、報告書	
現在の BCP の策定状況		・ハザー	メ・策定中・改定中・未策定) ドの理解(職員、利用者の自宅含む) からのサンプルに基づいて作成。	)、重要業務の整理、職員参集体制の確認。	

#### 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携)[被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
他施設との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	熊本市内の同業者(あ さぎりの施設や懇意に してもらっているとこ ろ)と協定。隣の施設 と結んでも、同じよう に被災する可能性があ るので、距離があると ころと協定を結ぶこと を検討。何回かすでに 話をしている。
医療機関との連携	[被災前の備え]	医療機関とは平時から の協定書は結んでいた。	[被災後の変更]	
行政との連携	[被災前の備え]	大規模な排水機場を 2 か所設置。H26 に球磨 川に小川の水を流すた めの導流堤を整備。	[被災後の変更]	
地域住民との連携	[被災前の備え]	消防組合に避難訓練の立ち合い。	[被災後の変更]	仮地が保険はある。 を選出しい。 を選出しい。 を選出しい。 を選出しい。 を選出しい。 を選出しい。 が保険はるのかのなにののかのでであるにののかのでであるにののかのであるにののが必ずであるとのがであるとのがである。 を選出しいが、のかのでであるとのがである。 を選出しい。 が関のといいが、はばいでやこのいのでは、いいではははない。 が民でいるとのがいのでは、いいでははははない。 を選出しいいのであるとのができまる。 を選出しいのであるとののいのでは、 を選出しいのであるとののいのでは、 を選出しているとののいのでは、 を選出しているとののいのでは、 を表しているとののいるのいのでは、 を表しているとののいるとののいるとののでは、 を表しているとののいのでは、 を表しているとののいるとののいるには、 を表しているとののいるのでは、 を表しているとののでは、 を表しているとののいるとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 を表しているとのでは、 をまるとのでは、 をなるのでは、 をなるでは、 をなるのでは、 をなるのでは、 をなるのでは、 をなるのでは、 をなるのでは、 をなる

#### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

- ※避難確保計画を作っているか、また、ハザードマップを確認しているか
- · 避難確保計画 (平成 30 年作成)
- ・その計画の多くが現実的でなかった。避難場所が屋外であったり。

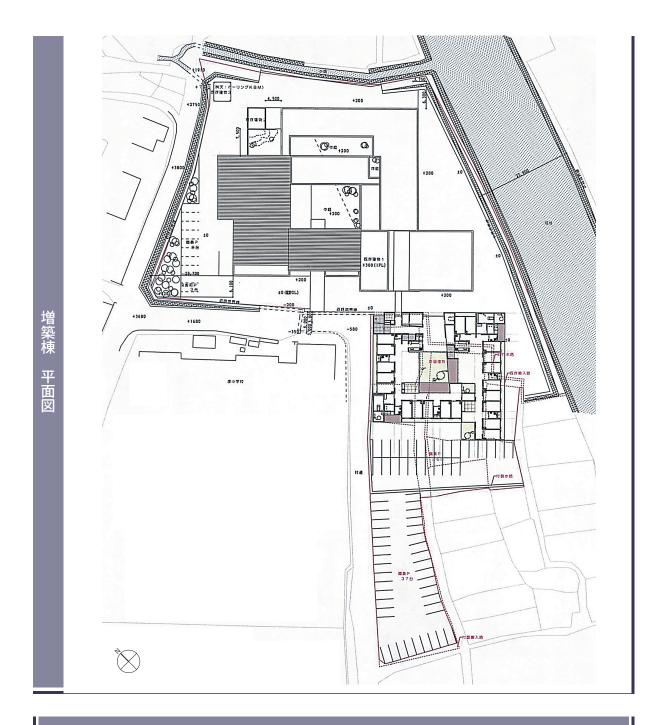
#### 14 もしあの時こうしていたらというポイント

#### 調査概要

- ・球磨郡の山の麓に建設された特別養護老人ホームである。
- ・居室は 13 室あり、被災当時は 40 名の利用者が入居していた。別館に定員 20 名の地域密着型特養がある。
- ・令和2年7月豪雨の時は、7月3・4日の間に1カ月分の雨が降った。
- ・7月4日2時頃より停電が起き、3時半職員らは一次避難を開始、施設の立地状況(山近く)から、土砂災害を警戒して、山から離れた1階ホールに避難する。ハザードマップでも、「想定浸水2~5m未満」と「土砂災害警戒区域(土石流)」が両方指定されている。
- ・7 時頃に施設内が浸水し始め、2 階への避難を開始。住民 20 名も有志で参加してくれた。しかし、2 階は会議室と職員の休憩場所としての機能しかなく、広さが十分でないのに加えエレベーターもなかったため、人力で入居者を2 階へ移動させるのに時間がかかり、避難が十分に進まなかった。
- ・8 時半頃、1 階はめ殺し窓が割れ一気に浸水水位が 2m まで急に上がった。垂直避難が叶わなかった 14 名が亡くなった。
- ・17 時頃より自衛隊のボードで一般避難所へ避難した。施設の指定避難所南側駐車場及び隣接の小学校運動場であったが、大雨の中屋外避難することは、移動のリスクを考えると選択肢になかった。また、この小学校も今回の災害で水没している。
- ・災害後は施設閉鎖を考えたが、地域からの再開の要望もあり、別の敷地で応急仮設施設として再開している。
- ・2026年1月に新施設が開設予定である。



位置図



#### 写真



\_\_\_\_\_ 被災した施設跡地



応急仮設施設

三喜 株式会社

《 小規模多機能ホーム 》

# ぶどうの家 真備

所在地	〒 710-1301 岡山県倉敷市真備町箭田 真備町箭田 1179-6		
調査日時	2022年	対応者 (役職)	法人代表
<u> </u>	10月5日	調査員名(※記録者)	山口*、中村

#### 1 施設概要

. 3000017000					
施設種別	小規模多機能型居宅介護	開設年	2014年1月	定員	・登録定員 29名 ・通い定員 15名 ・泊り定員 9名
併設施設	<ul><li>・同一建物内の併設機能は居宅介護支援事業所。同一地区内には、居宅介護支援事業所、選 難機能付き共同住宅(サツキアパート)がある。</li><li>・倉敷市船穂町に小規模多機能型居宅介護、認知症高齢者グループホーム、サービス付き 高齢者向け住宅、訪問看護事業所がある。</li></ul>				
階数	平屋建て		構造種別	木造	
設計者	グランツ設計		施工者	中本屋工務店	
立地の特徴	・2018年の西日本豪雨にて大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備町にある。 ・氾濫した小田川からは 1 km程度離れた場所にある。 ・道路沿いに面した町の市街地にある。				

#### 2 主な被災状況

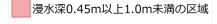
当該地域の浸水高さ	平屋の屋根の上まで浸水	被災判定	全壊
対象地域の気象情報のタイムライン	・大雨が続いた6日、宿泊 る庁舎(支所)に避難す 浸かっており、避難してい ・6日は宿泊者がいなかっ 帰宅。 ・その後、22時に避難勧告	るように行政から いても大変だった たため、職員は耶	が連絡があった(支所も と思う)。
周辺地域の浸水の状況	・周辺地域は1階が全てが ・災害後は解体して更地に ・もともと地域コミュニテ のの寂しく感じ戻ってき	したり、建替えて ィが活発だった <i>だ</i>	住んでいる人もいる。
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	人的被害は無し。当日は泊	まりの利用者もし	いなかった。

#### 建物被害の概要

地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	地盤の影響はなし。地域全体が浸水。
構造体の被害状況(特に基礎構造)	浸水によりすべて使用不可能となる。一度解体して建て替える。
外装材の被害状況 (屋根、壁) 等	浸水によりすべて使用不可能となる。
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	浸水によりすべて使用不可能となる。
家具・什器備品の被害状況等	浸水によりすべて使用不可能となる。
使用不可になった部屋	浸水によりすべて使用不可能となる。

ハザードマップ

大雨による洪水の場合:10mから20mの浸水区域



浸水深0.2m以上0.45未満の区域

浸水深0.2m未満の区域



倉敷市役所「倉敷市統合 GIS 津波浸水想定図」を元に執筆者が作成(令和 5 年 2 月)

#### 4 被害の状況(ライフライン)

	停止の有無	有	復旧までの期間	
水	復旧までの対応 代替手段	・施設は全壊により使用不可。避難所で支援を継続する。 ・避難所では地域の方が、水を24時間体制で給水車から運んでくれた。 ・トイレのたびにタンクに水を入れて使用した。		
	停止の有無	有	復旧までの期間	
電気	電気 復旧までの対応 代替手段 ・施設は全壊により使用不可。避難所で支援を継続する。 ・避難所の状況は停電が生じる。 ・中国電力発表:7月7日8時点で5.9万戸が停電。72時間			
	停止の有無		復旧までの期間	
ガス	ガスの種類			
	復旧までの対応 代替手段	施設は全壊により使用不可。	。避難所で支援を継続	する。

#### 5 設備の被害状況

5 設備の	5 設備の被害状況					
	給水	全壊により使用不可。				
	給水方式					
	受水槽の位置・容量					
<b>∜ΛΗͰ-Ι</b> ,/=π/##	被害状況・対応					
給排水設備	給湯	全壊により使用不可。				
	被害状況・対応					
	排水	全壊により使用不可。				
	被害状況					
	受変電設備の位置					
	消防用非常用電源					
電気設備	非常用発電					
	非常用電源設置場所					
	被害状況					
空調設備	空調方式		熱源			
<b>上</b> 前政佣	被害状況					
通信設備	施設外の被害状況					
世后政備	施設内の被害状況					
	エレベーター	平屋のためエレベーターなし。				
搬送設備	リフト	平屋のためリフトなし。				
	(階段)	平屋のため階段無し。				
入浴設備 避難所の公民館には入浴設備		がなかった。				
	代用方法	・隣接市の小規模多機能型居宅介護が送迎付きで浴室を貸してくれた。 ・総社市の無料開放している温泉施設も利用した。 ・県外の施設が移動入浴車を運んできてくれて貸してくれた。				
	給食システム	避難所に台所は地域の人のもの	のであるため使え	なかった。		
ライフライン	代用方法	<ul><li>・市が出す被災者用の弁当。</li><li>・近隣住民からおかゆ、青汁、 大人のミルクなどを避難物 資としてもらった。</li></ul>	今後の改善点	<ul><li>・被災者用のお弁当 はお年寄りの体に 良いものではない。</li><li>・油ものが多く野菜 がなかった。</li></ul>		
	ランドリー設備	・避難先となっている小学校(公民館 ンドリー設備 ・小学校の避難所が閉鎖するときに洗 ・公民館に避難者がいることを伝え洗濯		鎖されそうになった。		
	代用方法	避難所の洗濯機を使用。				
その他	自然エネルギーの活用	特になし				

_	被災時の対応
-	プロンソ ロエノノフラナ 「~
n	<b>₩</b> ₩ <b>/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /</b>
U	17X -74 EVI O 7 V 1 1/1 V

10.10 1 0 1 1 0 1 0		
災害発生時の [初動の職員の役ぼ		<ul> <li>・小規模多機能型居宅介護に宿泊している利用者はいなかった。</li> <li>・7月6日の21時半に職員はすべて帰宅。22時に避難勧告のアラームがなる。</li> <li>・朝、5時ぐらいに浸水してきた模様(事務所に設置していた時計が5時半ごろで止まっていた)。</li> <li>・平時から小規模多機能型居宅介護では、宿泊よりも夜間訪問を重点的に行っていた。</li> </ul>
災害発生時の指揮系統 誰が指揮を執ったか 時系列に		行政からは庁舎(支所)に避難するように連絡を受けていた(調査も1階の全てが浸水したため支所に避難していても大変であったと思う)。
被災(浸水)に至るまでのプロセス(気象情報の把握時期、避難準備の状況、情報収集、避難開始時期など)	入居者への対応	・浸水前日の6日はずっと雨が降っていたため職員で手分けして利用者宅を回る。 ・利用者や家族は、「まだいい。もう一日降ったら泊りに行く」と言っていた。そのため7日未明の決壊時は宿泊者はいなかった。宿泊者がいたら何が起こったか分からなかった。
地名できる。	スタッフ間の対応	
浸水直後の状況	入居者への対応	宿泊者はおらず被災直後は誰も滞在していなかった。
/文小巨夜074///	スタッフ間での対応	宿泊者はおらず被災直後は誰も滞在していなかった。

7 浸水から一定時	7 浸水から一定時間が経過した後の対応			
地域住民等 被災者の受入状況	・また、	にて小規模多機能型居宅介護の利用者を受け入れ、ケア 周辺の避難所からも介護のプロが常駐しているという 者が避難してきた。		
	3日間	<ul> <li>(入居者)</li> <li>・未明の決壊から夜があけて7日になると、隣接する総社市内の小規模多機能型居宅介護やクリニックをまわり必要な物品をかき集めた。</li> <li>・職員と合流し、小規模多機能型居宅介護の利用者の自宅をすべて回る。誰を優先するか、どこに避難するかは決めていなかったが避難所である小学校に避難することに決めた。</li> <li>・1人目の利用者と家族を避難所である小学校へ連れていく。次の人を小学校に連れていくと、公民館を開放してくれため公民館に移った。</li> </ul>	(受け入れ場所) 園公民館 (受け入れ者) 小規模多機能型 居宅介護の利用 者および避難所 から移動してき た要介護高齢者。	
受け入れ者、入居 者の状況 (居場所の確保)	7日間	・当初、市の職員は高齢者を2階の教室に誘導していたが、「教室では過ごしにくい。公民館を開けてほしい」という声があり、公民館に移ることできた。・その後は公民館に避難。家族と避難していた人もいたが、続々と利用者が公民館に避難し、13人ぐらいの利用者が公民館に避難した。・倉敷市の配慮で、薗公民館を避難先として、10月28日までの約4カ月を過ごした。・公民館が閉鎖されることになってからは、民間の建物を借りて小規模多機能型居宅介護を継続する		
	1 カ月	(現在のぶどうの家 BRANCH)。もともとは宗教施設であったものを借りて利用する。 ・公民館に隣接する小学校の避難所が先に閉鎖されるときには洗濯機が撤去されそうになった。公民館の避難者が使う事を伝え、撤去をされずに済んだ。市役所内での連携が必要であった。 ・また、BRANCHを開設するといには、小規模多機能型居宅介護としての基準を満たしているかの確認があったが、避難所としての位置づけで対応してもらった。		

	3日間	・家が被災した職員は休んでもらった(給料は支払う)。 ・家が無事だった人は、公民館の方に出勤してもらった。 ・夜は職員2人が公民館に泊まりケアを行った。昼の空き時間は事業所	
スタッフの確保	7日間	の片付けを行った(夜は管理者ともう一人の職員で対応したため大変であった)。 ・1日も途切れず介護活動ができていたため、介護報酬を請求することができた。	
	1 カ月	<ul><li>・菌公民館分館の管理組合の人たちの助けもあった。</li><li>・小規模多機能れんげ、移動ネット岡山などの手助けで入浴が可能になった。</li></ul>	
職員へのケアとして取 り組んだこと	職員全員の安否確認が完了した日時 【 発災翌日 】 理由:発災翌日には、LINEにて職員の安否の確認がとれる。 利用者全員の安否確認が完了した日時 【 3日後 】 理由:		
併設事業の状況(利用者への対応、通所・訪問の継続・休止など)	護の事 ことが ・公民館	・事業所は被災して利用できなくなったが、公民館を借りて小規模機能型居宅 護の事業を行ったため、介護報酬については一日も途切れることなく請求す ことができた。 ・公民館が閉鎖後は小規模多機能型居宅介護が再建されるまでブドウの家 BRANG にて小規模多機能型居宅介護の事業を行った。	

#### 8 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

- ・公民館で使用する利用者の布団は、被災しなかった職員が集めてきた。
- ・避難時に利用者宅から運び込んだポータブルトイレやブルーシート・備え付け の長机を利用して障がい者用トイレを仮説的につくった(その後、屋根を覆う ためのブルーシートとしても使う)。
- ・机等は、公民館にあった。マットは、倉敷市から支給してもらった。
- ・食料はすぐに来た。薗地区の人が備蓄品(アルファ米など)をたくさん持ってきてくれた。

#### 9 外部からの支援

71 HP 70 3 5 7 2 3/2			
・法人内での連携 ・他施設からの支援 ・医療機関との連携 ・行政との連携 ・地域住民との連携	(人) ・近隣の施設:送迎付きで施設の浴室を貸してくれる。また、近隣の入浴施設への送迎を行ってくれる。 ・AMDAからフェーズに応じた物資・人の派遣(職員1名)を受ける。 ・全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会から夜勤者の派遣を受ける。 ・地域の住民(看護師)が被災後数日後から、毎日自転車に乗ってボランティアに来てくれた。	(物資) 茨城県水戸市 から車を運転 してきて、移 動入浴車を無 料で貸し出し てくれた。	(お金) ピースウィン ズジャパン、 みんなでつく る財団岡山、 その他数多援を の個人支援を 受けた。

#### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

	内容	<ul> <li>・同一敷地内にて全面的に建て替える。建物の内容(平面、立面)は従前の建物と同一とする。</li> <li>・被災から8カ月間にて建て替えを行う。動き出すのが早かったため大工を確保することができた。被災後は建築需要のため大工の人手不足となっていた。迷っていたら大工を確保できなかったかもしれない。</li> <li>・災害保険には入っており、保険の範囲内で建て替えを行う。持ち出しの費用はほぼ無い。</li> </ul>
建物の修繕・	費用	保険の範囲内。持ち出しはほぼなし。
改修	期間	8 カ月
移転の場合はその内容	工事中の対応	・公民館での避難が4カ月+民間の建物(BRANCH)を借りての避難が4カ月。 ・当初は13人の小規模多機能型居宅介護の利用者が宿泊していたが、自宅が再建された利用者等もおり最終的には4,5人の利用者が宿泊していた。
	工夫した点	<ul> <li>・敷地内に避難タワーの建設。車椅子で階段を上がっていく形式。スロープをつけるだけの長さを確保できなかったため、蹴上高さの低い階段で登る。ただし、実際の避難時には避難所へ避難する予定。</li> <li>・水害を忘れないためのシンボルや地域住民の中でにげ遅れた人が使うための避難タワーとなっている。</li> </ul>

#### 11 災害対策とその効果

八百	対象とて	クが木		
物資の備蓄	被災前	想定日数	(被災時に十分だったか) 被災前は5年保存水程度を準備 役に立たなかった。	していたが、全て泥水の中に使ったため
	被災後	NAC I XX	不明	
		想定規模	大規模広域災害	単体施設災害・事故
		想定災害	地震	火災
.跨難訓練 <i>0</i>	宇体化温	訓練頻度		半年1回
避難訓練の実施状況(被災前)		備考	・当時、泊りの人がいたら、支所(ぶどうの家のすぐ近く)に連れていく 予定だった。ただ、支所も浸かっていた。 ・被災後は1年に2回は避難訓練を行っている。さらに地域住民と一緒 に避難訓練を行っている。地域が一緒にやろうと言ってくれている。	
被災前の避難訓練で効果があったと思う点		(良かった点・悪かった点・有効性) ・避難訓練ではなかったが被災前からターミナルが近くなるとトイレに行った時間 や食事量などをメモに書き残し、情報の見える化を行ってた。このスキルは、災 害時の情報連絡に役立った。		
れ。書類もひる ・避難場所、非常 ・利用者の避難が で話し合ってい ・高台へ5台の		に持ち出す袋、籠を用意している。 類もひとつにまとめてから帰る。 所、非常持ち出し袋の点検は定期的 の避難先は、毎年変わるため、福 合っている。	祉施設の関係者があつまる真備の連絡会 目者(29人)の避難が完了するまでに2	
被災前と現在の防災・ 減災への意識			【 被災前 】 5段階評価:1 ※5が意	【 現在 】 5段階評価: 4 織が高い
現在の防災してい		更用		

職員への防災教育 (被災前・後)	<ul> <li>・被災前は「本当になにも用意していなかった」。</li> <li>・被災後は、防災関連イベントを実施している。非常食の試食、大学生による防災クイズなど。河川を管理する国交省の人も参加している。</li> <li>・地域住民とマイタイムラインの勉強会をしている。本人・家族・事業所・地域が顔を合わせて話し合っている。日ごろからの付き合いをつくることで非常時にも助けを呼びやすくなる。</li> <li>・今後、水害の危険性があるときには、災害前にコミュニティルームに集まって、</li> </ul>
	<ul><li>・今後、水害の危険性があるときには、災害前にコミュニティルームに集まって、 みんなで情報収集を行う予定。</li></ul>
現在の BCP の策定状況	・ハザードの理解 (職員、利用者の自宅含む)、重要業務の整理、職員参集体制の確認。 ・BCP は独自で制作。地域の人と一緒に制作。

#### 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携)[被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]	看護師チームが3日後 には全員の薬を調達して 薗公民館に届けた。	[被災後の変更]	
他施設との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
医療機関との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
行政との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
	[被災前の備え]	[被災後の変更]		
地域住民との連携	日ごろから地 域とつながり を持っていある ところに避難 できる。	「サッキ PROJECT」 ・近所やアパート(サッキ PROJECT)住人とラジオ体操。 ・コミュニティルームは、いつでも来れるようにしている。一晩中明だりをつけていることで安心感が生まれる。 ・アパート全体を借り上げて、大家になっている。住民同士が気にかいあう生活をしている。災害時は、助け合うことを理解してもらっている。7部屋すべてに住人がいる。 ・災害時には、地域の人が助けに行くと言ってくれている。 ・2018 年以来、地域とのつながりが深まった。 ・地域の方が、24 時間体制で水を給水車から運んでくれる。		うにしている。一晩中明かいる。住民同士が気にかけてとを理解してもらっていてくれている。 <u>た</u> 。

#### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

- ※ 避難確保計画を作っているか、また、ハザードマップを確認しているか
- ・地域住民、利用者のマイタイムラインの作成を支援している。
- ・マイタイムラインが個別避難計画に該当する。
- ハザードマップも確認している。
- ・地震の被害想定も利用者の家ごとに確認している。
- ・安否確認の方法についても確認している。

#### 14 もしあの時こうしていたらというポイント

- ・近くに放課後デイサービスと地域交流スペースを計画中。災害の記憶伝えつつ地域と交流。
- ・高齢者(利用者)と介護職員(とその家族も)が共に過ごせる避難所を計画。高齢者がなじみの人と安心して過ごせる環境をつくりたい。
- ・小規模多機能型居宅介護のため地域との交流を持ちやすかった。
- ・いろんな団体が同じこと聞いてくるのが大変だった。いろいろな団体がアセスメントシートをつくるためのアセスメントをしてきた。団体同士の連携がなく、直接の助けにはつながらなかった。
- ・AMDA のスタッフは 10分~20分のヒアリングで状況を把握し、人手をすぐに派遣してくれた。対等な目線だった。「自分が何者で、何ができるか」が明確だった。
- ・日ごろからの活動が大切。地域とのつながり、ケアの向上、家族との連絡など。

#### 調査概要

- ・2018年の西日本豪雨にて大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備町にある小規模多機能型居宅介護。
- ・小田川の決壊により町全体が浸水する。浸水高さは1階の屋根ぐらいの高さとなる。
- ・被災当日は、小規模多機能型居宅介護に宿泊者はおらず避難の必要はなかった。被災翌日は小規模多機能 型居宅介護の利用者宅をスタッフが周り安否を確認する。
- ・被災した利用者は小学校へ避難する。小学校の教室では避難生活が困難であったため隣接する公民館へ移動する。
- ・13 名の利用者が公民館にて過ごす。公民館では小規模多機能型居宅介護のスタッフが 24 時間体制で常駐 しケアを提供する。小規模多機能型居宅介護以外の避難者の対応も行う。
- ・公民館での避難期間は4カ月。その後、民間の建物を借りて4カ月間の避難生活を行う。
- ・被災から8カ月後に小規模多機能型居宅介護を再建(建て替え)し、元の場所にて事業を行う。
- ・再建後は地域住民とも連携をとり防災に関する訓練を行う。また、小規模多機能型居宅介護の敷地内に避 難タワーを設置する。

位置図

## 写真





重要書類は高い位置に保管



避難タワー上部



避難タワー階段



避難タワースロープ



避難した事務所



避難した事務所内観

#### 社会福祉法人 海光会

# 海光園

所在地	〒 413-0101 🕴	静岡県熱海市上多賀 1016-10		
<b>細木口</b> 吽	2022年	対応者 (役職)	理事長、施設管理者	
調査日時	10月21日	調査員名(※記録者)	宮崎*、大村、中村	

#### 施設概要

施設種別	特別養護老人ホーム(従来型)	開設年	1999年5月	定員	80 名・(個室 16 室, 多床室 34 室)
併設施設	・軽費老人ホーム(定員 15[個室 ・ショートステイ 18 名 ・デイサービス 30 名	图 13,二人	部屋 1])		
階数	地上4階建て		構造種別	鉄筋コ	ンクリート造
設計者			施工者		
立地の特徴	・伊豆山地域からは 約7km離れ ・建設時は、そこまで水害を想定 ・岩盤が固い地域で、土台造りに	していなか	った。地震の方を		

#### 2 主な被災状況

当該地域の浸水高さ		被災判定	損傷無
対象地域の気象情報のタイムライン	<ul> <li>熱海市伊豆山土石流災生した土砂災害。27名</li> <li>7月1日~3日まで大下高齢者等避難発令、2日</li> <li>3日、午前10時半土石12時災害対策本部設置</li> </ul>	がだ。 雨。2 日午前 6 時 日午後 12 時半: 5流発生。11 時 5	上砂災害警戒情報発表。 分緊急安全確保発令、
周辺地域の浸水の状況			
人的な被災状況(スタッフ、入居者)	なし		

#### 3 建物被害の概要

地盤の被害状況(土砂崩れ、地盤の悪化)	なし
構造体の被害状況(特に基礎構造)	なし
外装材の被害状況(屋根、壁)等	なし
内装材の被害状況(天井、壁、床)等	なし
家具・什器備品の被害状況等	なし
使用不可になった部屋	なし

ハザードマップ

# 土砂災害(特別)警戒区域マップ

特別警戒区域•土石流

警戒区域•土石流

特別警戒区域・急傾斜地の崩壊

警戒区域・急傾斜地の崩壊

警戒区域・地すべり



#### 被害の状況(ライフライン) 停止の有無 無 復旧までの期間 水 復旧までの対応 代替手段 復旧までの期間 停止の有無 無 電気 復旧までの対応 代替手段 停止の有無 無 復旧までの期間 ガスの種類 ガス 復旧までの対応

#### 代替手段 設備の被害状況 給水 給水方式 1 階の山側 受水槽の位置・容量 被害状況・対応 給排水設備 給湯 被害状況 • 対応 排水 被害状況 受変電設備の位置 消防用非常用電源 非常用発電 電気設備 非常用電源設置場所 ・キュービクルは屋上。 被害状況 ガソリン式とガス式。 ・台数は各フロア1台ずつ。 空調方式 熱源 空調設備 被害状況 施設外(電話・通信 設備等)の被害状況 通信設備 施設内(ナースコー ル等)の被害状況 エレベーター リフト 搬送設備 (階段) 入浴設備 代用方法 今後の改善点 給食システム 普段の厨房を使用。 ライフライン 代用方法 今後の改善点 ランドリー設備 代用方法 今後の改善点 自然エネルギーの活用 (太陽光パネル等)、 その他 断熱(ペアサッシ、 高断熱)等

_	14///n+ 6 1 1 <del>-</del>
h	被災時の対応

#### 災害発生時の職員配置 [初動の職員の役職と連絡体系]

- ・通常 12 人。ベッド運ぶのは最大 5 人。ベッドを運ぶのは、 重さ・コンセント・運ぶ際の音等で、大変だった。
- ・整備班と介護看護班に分かれる。
- ・1 階部分には、特養とショートステイ。避難時は、特養は 3 階へ、ショートステイは 4 階のケアハウスのデイルーム に。

# 災害発生時の指揮系統 誰が指揮を執ったか 時系列に

危機管理対策本部チームが Web 上で決定した事項を当日の 出勤者に伝達して実行(土日のため各自自宅にて専用アプリで情報共有)。

- ・1週間上階避難の状態で過ごした。
- ・上階避難は、今回の土石流災害以外にも台風の時もしたが、 すぐに戻った。今回のような1週間ぐらいの避難ではない。
- ・食事は普段の厨房。食事はゾーンで分けた。
- ・7月2日8時半に1階の人を上へ連れて行き始めた。避難 することはすでに決まっていた。

# 被災 (浸水) に至るまでのプロセス (気象情報の把握時期、避難準備の状況、情報収集、避難開始時期など)

#### 入居者への対応

- ・エレベーター2台を使用。先に人を上に上げて、あとにベッドを運ぶ。ベッド等も全て1階から上へ持ち出した。エレベーターには、車椅子4台、ベッド1台が入る。歩ける人はあまりいない。エレベーターが止まるまでの見えないタイムリミットがあったため、避難時は急ぎ気味だった。
- ・1 階の特養の人は3階へ、ショートステイは4階のケアハウスのデイルームに。通路にベッドを置いたりもした。
- ・戻し作業は半日。戻し作業は慎重に運んだ。
- ・2階デイサービスフロアを使って、段階的に階下へ戻る。

# スタッフ間の対応 (情報共有など)

入居者への対応

- ・ケアに必要になるものはすべて上に上げた。固定資産であるパソコン等も持って行った。
- ・日ごろのコミュニケーションのおかげで、何が必要かの情報のやり取りはスムーズだった。

#### 浸水直後の状況

スタッフ間での対応 (情報共有など)

#### 7 浸水から一定時間が経過した後の対応

地域住民等 被災者の受入状況

被災者の受入状況			
543 b + 35	3日間	(入居者)	(受入れ者)
受け入れ者、入居 者の状況 (居場所の確保)	7日間	(入居者)	(受入れ者)
(白物)ハッルに体)	1 カ月	(入居者)	(受入れ者)
	3日間	ストップさせたデイサービスや訪問	<b>引介護の職員も入ってもらった。</b>
スタッフの確保	7日間		
	1カ月		
職員へのケアとして取	職員全員	員の安否確認が完了した日時 【	1
り組んだこと(職員の家	理由:		
族の安否、職員の家屋の被	利用者全	全員の安否確認が完了した日時【	]
災、メンタルケアなど) 	理由:		
併設事業の状況(利用者		ービスや訪問介護をストップした。	
への対応、通所・訪問の継		日に路線バス復帰に伴って、送迎バス	くも再開させて、デイサービスや訪問
続・休止など)	介護を	一部再開。	

#### 8 物資の確保

物資の確保 食料・水、医薬品、 介護用品、日用品、 その他

- ・倉庫には、おむつ・水・毛布・衛生用品・食品・自家発電機(ガソリン式・ガス式)。
- ・2階にある。
- ・災害用の倉庫で、普段の倉庫とは別。
- ・夏は「涼」、冬は「暖」。寝袋も30個ぐらい購入。
- ・年1回、年末棚卸作業(消耗品ローリング)
- ・ガソリン式発電機は、見直し中。訓練で実際に使うことはあるが、ガソリンが 腐ることも。
- ・使い捨て下着やマウスケアの道具も含んでいる。

#### 9 外部からの支援

・法人内での連携 ・他施設からの支援 ・医療機関との連携	( <b>/</b> )	(物資)	(お金)
・行政との連携			
・地域住民との連携			

#### 10 被災後の対応(建物の修繕、施設の移転など)

建物の修繕・	内容	
改修	費用	
	期間	
移転の場合は	工事中の対応	
その内容	工夫した点	

#### 11 災害対策とその効果

II 災害対策とその効果				
物資の備蓄	被災前	想定日数	(被災時に十分だったか)	
	被災後	想定日数		
		想定規模	大規模広域災害	単体施設災害・事故
避難訓練の	実施状況	想定災害		
(被災	前)	訓練頻度	月1回	月1回
		備考	月1回減災対策。感染対策も考慮	慮して、ゾーニングしていた。
被災前の避難訓練で 効果があったと思う点		(良かった点・悪かった点・有効性) ・災害の1カ月前に風水害の訓練をしていたため、イメージができていた。 ・ベッドを部屋の外に出すのが大変だった。一度縦にする必要があった。		
現在の避	難訓練	(被災前と	の変更点)	
被災前と現在の防災・ 減災への意識			【 被災前 】 5段階評価: ※5が意	【 現在 】 5 段階評価: 識が高い
現在の防災教育で使用 している教材			作成に重要な内容 関する YouTube など。委員が見っ	つけて、職員に共有。
職員への防災教育 (被災前・後)			災訓練。例えば、台風がよく起こる で訓練内容変わる。	3月の前に、台風の訓練。
現在の BCP の策定状況		<ul><li>BCP は、機対策な</li><li>・東北地震</li><li>・ベッドの</li></ul>	での理解(職員、利用者の自宅含む) 都度更新(月1回の会議等で)。 本部は把握。 長で BCP を意識。 の運び方、避難先での広い空間とこ	、重要業務の整理、職員参集体制の確認。 浸透するのはスタッフはともかく、危 プライバシーの確保を考慮。 段階的に階下へ戻していくことも考慮。

#### 12 災害対策における連携(法人内連携、地域連携、行政連携)「被災前・後の変化]

法人内での連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
他施設との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
医療機関との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	
行政との連携	[被災前の備え]	静岡県の施設の協議会 の協定。連携訓練。	[被災後の変更]	
地域住民との連携	[被災前の備え]		[被災後の変更]	

#### 13 災害時の対応の順番についての優先順位について

※ 避難確保計画を作っているか、また、ハザードマップを確認しているか。

#### 14 もしあの時こうしていたらというポイント

日本特有の災害学ぶ → ハザードマップの確認 → 自分との関連 → 実際、どう動くか。

#### 調査概要

- ・静岡県熱海市の山の麓に建設された施設である。
- ・特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、訪問介護事業所が併設されている。
- ・伊豆山地域からは約7km離れており、土砂災害には直接被災はしておらず、過去に浸水被害経験もないが、自社地域にて厳しい災害を想定し、市内(学校、路線バスなどふくめ)一体感をもって安全確保を第一に備えている事例としてヒアリングを行った。熱海市伊豆山土石流災害(2021年7月3日)について聞いている。
- ・7月1日~3日にかけて大雨、2日12時半:土砂災害警戒情報発表、3日10時:当該施設とは離れた場所で大規模土石流が発生。7月2日8時半:1階の入居者の上階避難開始。過去の台風の時に垂直避難を経験済。エレベーター2台を使用した。パソコン等のケアに必要なものは全て2階以上に上げた。2階以上での避難生活は1週間に及んだ。食事の調理は普段の厨房を利用できた。日頃の訓練により避難計画・BCP等を共有できているので、職員間のやり取りはスムーズだった。一週間後に1階に戻る作業には半日かかった。
- ・海光園は月に一度の会議でBCPについて議論しており、都度更新している。ベッドの運び方、避難先の空間でのプライバシー確保の方法、避難解消後の段階的な入居者の戻し方等が議論されている。備蓄についても土砂・浸水被害に備えて各階に保管し、年1回の年末棚卸作業(消耗品ローリング)も行っている。
- ・日常的な災害への備えを実践している事例といえる。



## 写真



備蓄専用倉庫



備蓄の水分吸収パッド (災害時:職員のトイレに使用)



年末の備蓄消耗品棚卸し作業(ローリング)



避難訓練の様子

※ 写真は全て施設提供

# 3-4 まとめ

#### 3-4-1 ◇ ハザードマップと浸水被害状況

浸水被害想定区域内の施設の大半が浸水被害を受け、土砂災害警戒区域の施設は立地状況により浸水被害を受けた。いずれの施設も建設前に敷地のハザードマップを確認していたが、運営面を考慮した結果、被災した敷地を選定していた。その理由は、法人所有の土地であること、建設した地域からのニーズが高いこと等であった。

#### 3-4-2 避難状況

今回の調査で入居者の人的被害がでた施設は**千寿園**の1施設のみであった。**千寿園**での被害の背景には、当初は土砂災害を想定した避難(屋内安全確保)を実施していたこと、夜間に急激な水位の上昇があったことが要因として挙げられる。

浸水前に上階への避難が完了した施設は、大雨・台風の気象情報を継続的に確認しており、徐々に水位も上昇していた。被災時には責任者が施設に待機しており、直接、避難指揮を行っていた。被災前には、上階への避難開始のタイミングを事前に決めていた。避難開始のタイミングとしては、避難勧告発令時、近隣の川の水位、敷地内の外階段の浸かる位置等が危険ラインを超えた時点、などがあった。

浸水が開始する前に上階避難を開始した施設では、エレベーターを活用した上階への避難が実施できていた。その一方で、浸水後に一部の避難を行った施設では、エレベーターが使用できず、職員が人力で2階まで避難させた例がみられた。上階への避難については、浸水が始まってからではなく、事前に実施しておくことが望ましい。

## 3-4-3 被災から復旧までの期間

浸水被害から復旧までの過程には、被災した施設を再利用する事例と、別の敷地に新設する事例があった。再利用する場合には、半年から数年、移転建替えにより新設する場合には再開までに5年程度が必要となっていた。

被災施設を再利用する場合には、浸水箇所の床・壁を剥がして消毒する必要があり、ほぼ躯体を残して全面的にやり替える大規模修繕となっていた。新設の場合には、応急仮設施設を建設し、その後、別敷地への移転を行っていたが、土地の取得に多くの時間と労力を要していた。

介護施設等の停止期間中における入居者への対応については、近隣の別法人の高齢者施設に受け入れを依頼した事例と、同法人内の別施設が受け入れた事例があった。被災前から受け入れの協定を結んでいる施設は少なく、多くの施設は被災直後から電話等で受け入れ施設を探していた。浸水被害は地震・津波被害と異なり、被害地域が限定的である場合が多い。そのため、同じ自治体内においても、全く被害がない施設も多数あったため、それらの施設に協力を依頼することができていた。

介護施設等の停止期間中は施設の収益が少なくなるため、職員の雇用維持が課題となった。多くの施設では、停止期間中に職員を受け入れてくれた協力施設や、同一法人内に職員を出向させていた。この場合の課題としては、介護報酬の請求方法や職員のケア方法が異なるという点が挙げられた。

また、介護保険事業を段階的に復旧させた事例も見られた。豊野清風園は浸水被害を免れた2階以上を活用し、段階的に介護保険事業を復旧した。この時に課題となったのは食事提供である。豊野清風園は1階の調理室で食事を作っていたが、浸水により調理機器が全て水没し使用不可となった。同様の被害が他の調査対象事例でもみられた。豊野清風園ではガスコンロやクックチル等の代替の食事提供方法を活用することにより、介護保険事業を早期に復旧することができた。

#### 3-4-4 浸水被害後の備えの変化

浸水被害後の備えに対する変化として多かった項目は、「重要書類・PC等の避難物品のリスト化・クラウド化」「非常用自家発電機のガソリン備蓄を検討」であった。

今回の調査では、PC・重要書類等を避難させなかったため水没した事例が多く、その後の復旧に時間とコストを要していた。また、介護記録には入居者の服薬情報等も含まれるため、別法人に避難を受け入れてもらう際は必須の情報である。避難後に適切なケアを受け続けるためにも、これらの資料が欠かせない。そこで被災の経験を活かしPC・重要書類を上階に移動させる計画をBCPに加えた事例や、書類のクラウド化を進めている事例があった。

さらに、浸水・避難後は非常用自家発電機を多用していた。主な使用はスマートフォンの充電であり、スマートフォンの使用は気象情報の確認、職員間・家族への連絡、受け入れたを探す連絡等多岐に渡り、充電をすぐに消費してしまった。殆どの施設は自家発電機を備蓄していたが、追加のガソリン備蓄が無かった。被災後、ガソリンの備蓄を検討している施設もみられた。

浸水被害は地震・津波被害と異なり、被害地域が限定的であり、また翌日には水が引き、車移動が可能となったため、介護用品・食事が不足する事態が生じなかった。しかし、1階に備蓄をしている施設では、水没により利用できなくなる事態も生じており、被災後は備蓄を各階に分散して保管する事例もみられた。これらの対応は、被災経験のない施設とって共有したい情報といえる。

# 3-5 今後の留意点 水害・浸水被害に備えるためにすべきこと

本研究で得られた結果をもとに、これからの介護施設等が備えるべき水害対策および水 害被害にあった時の留意点について列挙する。下記の項目をチェックリストとして参照し ていただき、今後の水害対策に役立ててもらいたい。

#### 

災害時における介護施設等の避難方法は、原則として立ち退き避難(水平避難)である。 各介護施設等は、自治体の避難指示等の情報をもれなく把握するとともに、地域の協力を 得ながら、適切な人員体制をとりつつ、避難確保計画等に従って、水平避難をまずは行う 必要がある。

また、水平避難の段階を超えてしまった場合に、次善の策として屋内安全確保(垂直避難)を行う。以下に垂直避難時の留意点も列挙しているが、水平避難が原則であることに留意してもらいたい。

	ハザードマップにより、自施設が受ける水害の規模・浸水想定高さを把握 しておく。
	土地の地形的な特性を理解し、過去の浸水被害の歴史を確認しておく。
	避難訓練を定期的に実施し、避難経路の確認、応援職員の参集方法、連絡網の確認、備蓄物品・避難設備の確認等を行う。夜間時の避難訓練や、地域住民も参加する避難訓練の実施も検討する。
避	緊急時の連絡方法・指揮系統を確認する。施設長がいない場合の指揮系統 も計画する。
難計画	災害時への避難方法は、原則、施設外への立ち退き避難(水平避難)となるが、 同時に施設内での屋内安全確保(垂直避難)にも備えた計画を立案する。
	水平避難に備えて、施設外の移動手段、避難場所について計画・確認しておく。
	垂直避難に備えて、施設内の避難するスペース・場所を決めておく。また 避難生活が長引くことを想定した物品を備蓄しておく。
	行政が発令する避難情報や気象情報、河川の水位情報等に基づいて、避難 を開始する基準を明確にしておく。水害に備えた避難訓練においては、避 難を開始するタイミング、応援職員の人数、避難誘導の手順を確認する。 浸水後はエレベーターが利用できなくなることを想定し、避難開始のタイ ミングは早めに設定する。

災害時への備えおよび災害時の対応は各施設が行うべきことであるが、1施設や1法人だけでは対応できないことも多い。災害時の対応については、行政や他法人との連携が必要不可欠である。特に、被災した施設入居者の受け入れ先の決定や支援物資の供給等については、行政が主導すべきと考える。また、これらの業務を円滑に実施するためには、日頃から法人の枠を超えた連携が必要となる。そのためにも行政や関連団体が主導し、災害時における法人間ネットワークを構築しておくことが求められる。

避難	調理室の水没により食事提供ができなくなることを想定し、その代替手段 を検討しておく。
計画	施設を施工した事業者を確認しておく。事業者は図面を持っているため、 浸水被害を受けた場合、建物の被災状況を迅速に確認することができる。
備 蓄	水平・垂直避難による避難先での生活を想定し、必要な物品等を用意・リスト化しておく。備蓄品は上層階にも配備し水没のリスクを分散させておく。
(モノは	入居者の介護記録・服薬情報・建築図面等の重要データはクラウド化する。 また紙媒体の資料・PC は避難時に優先的に上階へ避難させる物品としてリスト化しておく。
情報)・設備	避難後は、気象情報や受け入れ先を探すためにスマートフォンや PC 等の使用が多くなる。それに備えた非常用の電力設備を確保する。電気自動車や蓄電池を備えておくと、医療機器等への安定的な供給が可能となる。また、非常用自家発電機を使用する場合は、追加のガソリンも必要となるため、消防法令の基準に従って専用の携行缶等にて保管する。
VII)	電気設備は浸水被害を受けない高さに設置することが望ましい。
	近隣の高齢者施設と連携し、緊急時の受け入れ体制を整備する。浸水被害の恐れがある災害時は高台にある施設が、土砂災害の恐れがある災害時は 平地の施設が入居者の受け入れを実施するなど、施設の立地特徴を活かし
連	た法人間の連携体制を構築する。
携	災害時の法人間(施設間)連携に加えて、地域との関係性を構築しておく。 地域全体でのサポート体制、連絡体制の構築や、共同での避難訓練の実施 も検討する。
	行政と各福祉団体に連絡をとり、災害時の連携について事前に確認しておく。

② 炎	害時	••••••
		行政が発令する避難情報や気象情報、河川の水位情報等の災害に関する情報を常に確認し、早めに避難を行う。
		応援職員については、時間的余裕をもって参集の指示を出す。
		早い段階で車を浸水しない場所に移動させておく。
避難		水平避難をする場合、受け入れ先と連絡を綿密にとり、早めに避難を開始する。
画		垂直避難をする場合、近隣の河川等の情報を逐一観察し、事前に決めていたタイミングで早めの避難を開始し、浸水開始前に上階避難を完了させる。 入居者は車いす・介護用ベッドのまま移動するため、エレベーターの使用が必須である。浸水が始まるとエレベーターが使用できない可能性があるため、早めの上階避難が重要である。
		大雨・台風による土砂災害に備え、山から離れた場所に同階避難を実施した場合も、浸水が生じる可能性を考え、上階避難への切り替えを常に意識する。
備蓄・設備		人の避難完了後は、食料・水・介護用品、加えて PC や重要書類も避難させておく。

連携

── 行政と各福祉団体に連絡をとり、現在の施設の状況を共有し、必要な場合

地域住民と連携をとり、人手が必要な時は応援を要請する。

は物資・人を要請する。

#### ③ 介護施設等の再開

施設を施工した事業者に連絡し、建物の被害状況を検査してもらい、今後 の復旧計画を立てる。復旧期間中は事業を停止する。移設・建替えの場合、 避 長期間かかるため応急仮設施設での一時再開も検討する。 難 計 被災により施設が閉鎖すると、地域住民が介護保険サービスを受けられな 画 ┃ くなるため、行政や各福祉団体に協力を受けながら維持・再開について検 討する。 介護施設等の停止期間中は職員の雇用を維持するため、他施設へ出向させ 連 ることも検討する。他施設へ出向中は職員のメンタルヘルスにも配慮し、 携 休職・離職を防止する。

#### 介護施設の備え

#### ① 日常的な備え

#### ハザードマップを確認

- ・水平・垂直避難方法の確認 ・緊急時の連絡方法・指揮系統の確認
- ・避難先・避難スペースの確認
- ・浸水による上階避難を開始する基準の
- ・食事提供の代替手段を検討
- ・施設を施工した事業者の確認 ・定期的が避難訓練で計画の確認

#### ② 災害時

- ・情報を常に確認、臨機応変に対応
- 応援職員を参集、または待機
- ・水平避難をする場合、受け入れ先と連 絡をとる。早めに避難を開始
- ・垂直避難をする場合、情報を逐一観察 し、早めの避難を開始
- ・土砂災害に備え垂直避難を実施した場 合も、浸水の可能性を考え上階避難へ の切り替えを常に意識

#### ③ 介護施設等の再開

- ・施設を施工した事業者に被害状況を 検査してもらい、今後の復旧計画を 立てる
- ・被災により閉鎖する施設に対しても、 行政や各福祉団体に協力を受けなが ら維持・再開できないか検討してみ

#### 備蓄 設備

連携

避難

計画

- ・避難生活で必要な物品等の用意・リス
- ・入居者の介護記録等のクラウド化
- ・上階へ避難させる物品のリスト化
- 非常時の電力源の確保
- 人の避難完了後は、食料・水・介護 用品、加えて PC や重要書類も上階 へ避難
- ・近隣の高齢者施設と防災協定の締結
- ・被災時の入居者・職員の受け入れ施設 について計画・連携
- ・地域住民と被災時の連携について確認
- ・行政と各福祉団体と被災時の連携につ いて確認
- ・地域住民と連携をとり、人手が必要 な場合は応援要請
- ・行政と各福祉団体に連絡をとり、現 在の施設の状況を共有、必要な場合 は物資・人を要請
- ・水が引いた後、入居者らを受け入れ 施設に移送
- ・介護施設等の停止期間中は職員の雇 用を維持するため、他施設へ出向さ せることも検討

#### 図 水害・浸水被害への備え

# 資料編

	ヒアリングシート 1/4
<b>西設名</b>	
Ē	対応者(役職)

No.	施設名							
	住所							
調	査日時		対応者(役職)					
調査員名	名(※記録者)							
1)施設概要								
施設種別		開設年		定員				
併設施設								
階数			構造種別					
設計者			施工者					
立地の特徴								
2)主な被災	状況							
当該地均	域の浸水高さ		被災判定	全壊	/ 半壊	/	損傷無	
	う気象情報のタインライン							
周辺地域	の浸水の状況							
	は被災状況 フ、入居者)							
3)建物被害	の概要	 •	•					

地盤の被害状況 (土砂崩れ、地盤の悪化)	
構造体の被害状況 (特に基礎構造)	
外装材の被害状況 (屋根、壁)等	
内装材の被害状況 (天井、壁、床)等	
家具・什器備品の被害状況 棚、ベッド、車いす等	
使用不可になった部屋	

【ハザードマップ】

## ヒアリングシート 2/4

4)被害	膏の状況(ライフライン)						
	停止の有無		有 /	無		復旧までの期間	日後
水	復旧までの 対応・代替手段						
	停止の有無		有 /	無		復旧までの期間	日後
電気	復旧までの 対応・代替手段						
	停止の有無		有 /	無		復旧までの期間	日後
	ガスの種類				プロパンガ	ス / 都市ガス / 併	用
ガス	復旧までの 対応•代替手段						
5)設備	前の被害状況	•					
	給水						
	給水方式						
	京北排の仕里 売早						

お			
総水方式 受水相の位置・容量 被害依況・対応  総書 依選	5)設備		
受水槽の位置・容量 被害状況・対応  ・		給水	
検害状況・対応		給水方式	
総議		受水槽の位置 *容量	
水   水   水   水   水   水   水   水   水   水	給	被害状況•対応	
被害状況・対応	排水	給湯	
被害状況   受変電設備の位置   消防用半常用電源	設	被害状況•対応	
要変電設備の位置     消防用非常用電源    有(スプリンクラー作動のみ) / 有(スプリンクラー+室内への供給) / 無 非常用発電    非常用電源		排水	
消防用非常用電源		被害状況	
#		受変電設備の位置	
(素)			

# ヒアリングシート 3/4

#### 6)被災時の対応

災害発生時の職員配置 [初動の職員の役職と連絡体系]						
災害発生時の指 誰が指揮を執ったか		※時系列に聞く. 一次避難所・二	次避難場所はど	`こか.		
被災(浸水)に至るまで のプロセス (気象情報の把握時期、						
避難準備の状況、情報 収集、避難開始時期な ど)	スタッフ間の 対応(情報共 有など)					
浸水直後の状況	入居者への対応	※施設ごとに対応が異なるので	,施設ごとに質問	する.		
泛小巨後の仏が	スタッフ間での対応(情報共有など)					
7)浸水から一定時間が終	- 圣過した後の対	応				
地域住民等被災者の	)受入状況					
	3日間	(入居者)				
受け入れ者,入居者の状況(居場所の確保)	7日間	(入居者)		(受入れ者)		
	1か月	(入居者)		(受入れ者)		
	3日間					
スタッフの確保	7日間					
	1か月					
		職員全員の安否確認が完了した	:日時【	]理由:		
職員へのケアとして取 (職員の家族の安否、職 災、メンタルケア	員の家屋の被	利用者全員の安否確認が完了した日時【 】理由:				
併設事業の均(利用者への対応、通所		※BCPについて. 短期(通所・ショート)の継続・休止. 休止期間について				
休止等)						
8)物資の確保						
物資の確保 食料・水、医薬品、介護用品、日用品、 その他						
9)外部からの支援			/ 此一 2欠 \			
法人内での連携 他施設からの支援 医療機関との連携 行政との連携 地域住民との連携		(人)	(物資)		(お金)	

				ヒア	'リング	シート 4/4			
10)被災後の	対応(建物	の修繕、施設	<b>殳の移転なる</b>	ビ)					
	内容								
	費用								
建物の	期間								
修繕・改修									
移転の場合はその内容	工事中の 対応								
	工夫した点								
11)災害対策	とその効果を	想定日数	(被災時に	十分だっ	<u>が</u>				
物資	災前			7,7,7,2,5	,,,,,				
の備	被	想定日数							
蓄	災後								
	<del> </del>	想定規模			莫広域災害				災害•事故
避難訓		想定災害	10/2		<ul><li>大火災</li></ul>				その他
実施料(被災		訓練頻度	年(	) 回	・その他(	)	年1回・	半年1回	<ul><li>その他( )</li></ul>
		備考							
被災前の避り		(良かった点	・悪かった。	点∙有効性	生)				
現在の避	難訓練	(被災前との	変更点)						
被災前と現る		被災前 役職 5段階				現在 役職: 5段階評価:			※5が意識が高い
現在の防災用してい		※手引き作用	ずに重要な	内容					
職員への『(被災前									
現在のBCPの BCPのコピー 場合はい	-をもらえる	・(策定済み・策定・ ・ハザードの理解(				理由 里、職員参集体制の確認.			
12)災害対策	ミにおける 選			重携、行政	汝連携)[衤	皮災前・後の変化]			_
法人内で	の連携	[被災前の備 	[え]				[被災	後の変更	]
他施設と	の連携	[被災前の備	[え]				[被災	後の変更	]
医療機関	との連携	[被災前の備	[え]				[被災	後の変更	]
行政との	の連携	[被災前の備	[え]				[被災	後の変更	]
地域住民	との連携	[被災前の備	[え]				[被災	後の変更	]
		番についての							
※避難確保	計画を作っ	ているか、また	こ、ハザード	<b>ベマップを</b>	確認してい	いるか			
14)もしあの	時 こうして	いたらという	ポイント						

**→** 113

#### 令和 4 年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

介護施設等の職員に必要な 防災・減災対策の知識に関する調査研究報告書

令和5 (2023)年3月31日発行

一般社団法人 日本医療福祉建築協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館 TEL (03)3453-9904 FAX (03)3453-7573 http://www.jiha.jp 禁無断転載

レイアウト 三浦雅博アトリエ

